

199/24

同志社教授 博士ゼ、デ、デビス著

示申學心大原理

明治廿四年九月 米國宣教師事務局

神學之大原理目次

緒言

第一章 神之支配

總論

第一項 形体上ト靈体上ノ支配ノ區別

第二項 形体上ノ支配

第一條 神ハ宇宙全般ヲ支配ス

第二條 神ノ支配ハ微小ナルコトニモ及ベリ

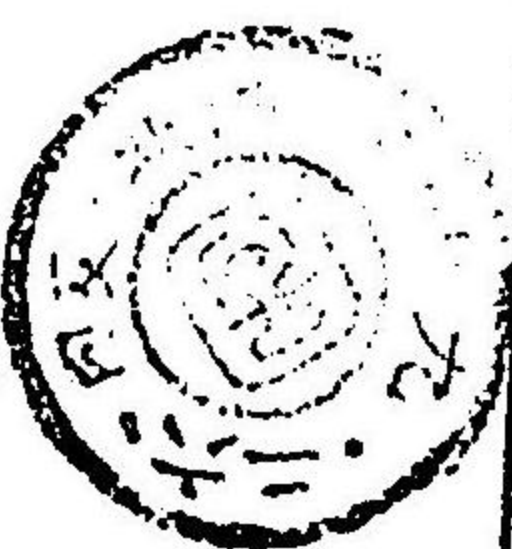
第三條 神ノ支配ハ天然法ニヨリテ全般一様ニ

行ハル

第三項 心靈上ノ支配即チ道德上ノ支配

理論部

第一條 道德性アルモノ、義務ノ性質、基礎及限界 二八



一七 二二 二五 二八

第二條 道德上ノ働ノ性質

三四

第三條 本心ノ性質ト働

三六

第四條 意志ノ性質ト働

四〇

實際部

第一條 神ハ其支配ヲ行フ事

四五

第二條 神ハ人間ノ撰擇ト執意迄モ支配セラレ

ルト雖モ人間ハ尙自由ナルナリ

五六

第三條 神ノ支配ノ公平ナル事

六四

第四條 神ハ特權ヲ以テ支配ス

六八

第五條 此支配ハ偶然ニ出デタルニアラズ、神ガ

始ヨリ建ツル企圖ニ應フ者ナリ

七一

第二章 罪之說

第一項 罪ノ定義

八一

第二項 何ヲカ罪ト稱スルヤ

九七

第三項 人間ノ罪ノ實際ナル事

一〇三

第一條 罪ハ人間ノ有様ナリ

一〇三

第二條 此傾向ハ人間一般生レナガラニ有スル

者ト見ユ

一〇四

第四項 罪ヲ犯ス傾向ノ原因

一〇七

第五項 罪ト神トノ關係

一一三

第三章 救極之說

第一項 基督ノ性質ヲ論ズ

一二七

第一條 基督ハ完キ人間ナリ

一二七

第二條 基督ハ完キ神ナリ

一二九

一目 聖書ハキリストニ附スルニ神ノ聖名ヲ

以テセリ

一五九

二目	神ノ性質ハ亦キリストニ在リ	二二〇
三目	神ノ業ハ以テキリストニ歸セリ	二二八
四目	神ニ屬スル所ノ榮光ハ亦キリストニ屬セリ	二三五
五目	神ノ性質ハ直接ニキリストニ歸セリ	二三二
六目	キリストハ自己ノ神タルコトヲ知り、又自カラ神ナリト教ヘタリ	二三四
七目	キリストノ神タルコトハ、使徒等ヲ始メ初代信者ノ確信セシ所、又實ニ基督教ノ基礎ナリ	二四一
八目	神ノ靈、或ハキリストノ靈ナル語ハ聖書ニ於テ互ニ交換シテ用ヰラル	二四八
九目	キリストノ誕生及昇天ハ彼ガ神タルコト	

十目	トノ強キ證據ナリ	二五二
	キリストノ高尚ナル教訓ト、世界ノ中ニ顯ハレタル其結果トヲ見レバキリストノ神タルコト益々明ナリ	二五四
十一目	キリスト或ハ基督教ノ事蹟ヲ考察セント欲スル者ハ須ヲクキリストノ神性ヲ見認ムベシ	二五五
第三條	キリストニ在ル人性ト神性ノ關係	二六六
第四條	三位一体論	二七一
第二項	キリストノ事業	三一六
第一條	キリストノ救拯ニ關スル事業ノ定義	三一六
第二條	キリスト贖罪ノ事實ナルコト	三一七
一目	聖書外ノ證據	三一八

二目	神ハ始祖等ニ贖罪ノ契約ヲナシ、又預言セリ	三二六
三目	キリストノ挽回ノ供物トナリ、人類ノ罪惡ヲ全ク贖ヒシユトハ聖書ノ趣旨ナリ	三三九
四目	キリストノ苦惱ト死ト、人間ノ罪惡ヨリ救出カル、ユト、ノ關係	三五八
第三條	キリスト贖罪ノ目的	三八三
	基督ノ贖罪ニ關スル諸家ノ說	三八五
	今日現存セル四說並ニ其批評	三九九
	著者ノ考說	四一二
第四條	基督贖罪ノ結果	四三三
一目	基督ノ贖罪ハ一般靈物タルモノ、道德上ノ希望ニ合セリ	四三四

二目	正義ナル靈物ニ大ナル結果ヲ及ボス	四三九
三目	罪人ニ及ボス所ノ感動	四四二
四目	基督ノ誕生及昇天ノ結果	四五二
五目	信者ハ基督ノ贖罪ニヨリ基督ト一致スルナリ	四六六
第三項	聖靈ノ性質	四七五
第一條	聖靈ハ明ニ一個ノ「ペルソナ」ナリ	四七五
第二條	聖靈ハ眞ニ又適當ナル神ナリ	四七七
第四項	聖靈ノ働	四七八
第一條	復生 <small>(コノ用語ニ付テ、コトニテハ再 生或ハ新生ノ意味ニ解スベシ)</small>	四七八
第二條	復生ノ必要	四八三
第三條	復生ノ眞實	全
第四條	コノ變化ハ神即聖靈ノ働ニ由テ生ズ	全

第五條	方法ヲ用ユ	四八四
第六條	其感化力ノ性質	四八五
第七條	復生ノ即時ノ結果	四八六
第八條	復生シタル靈魂ノ主觀的狀態	四九二
第九條	新生シタル心ノ客觀的習用即愛	四九四
第十條	復生シタル心ト復生セザル心ノ比較	四九六
第十一條	偽リノ復生	五〇一
第十二條	改心ノ眞偽判決ノ徵証	五〇三
第十三條	基督信徒ノ弱ク且不活潑ナル原因	五〇四
第十四條	復生	五〇六
第十五條	再生シタル者ト神ノ預定ノ關係	五一二
第五項	其活動、信者ノ神聖ニナル事	五三八
第一條	神聖ニナルコト、即完全ニ神聖ニ成ルコト	

第二條	トハ進歩的ノ働ナリ	五三八
第三條	神聖ニナルコトハ基督ノ贖罪ニ由ル	全
第四條	之ヲ來ヌスモノハ聖靈ナリ	全
第五條	神聖ニナルコトノ度	全
第六項	基督教徒ノ生命ノ生長ヲ助クル者	五四五
第六項	神ノ忍耐セシムルコト	五五九
第四章	來世論(エスカトロシー)	五六三
第一項	死ト大審判トノ間際ニ於ル靈魂ノ情態	五六四
第一條	有意識ノ情態ナルコト	五六四
第二條	靈魂ノ死後幸福又ハ苦難ノ情態ニ入ルコト	五六六
第三條	境遇ノ變動	五六七
第四條	死ト審判トノ間際ニ於ケル義人ト惡人ノ居住ノ場所	五六八

第五條	死ト審判トノ間際ニ於ケル靈魂ノ体軀	五八一
第二項	大審判ノ件	五八四
第三項	凡テ徳性ヲ有スル者ノ品性及情態ハ大審判後限ナク不變ニシテ存在スベシ	五八八
第四項	衆生悉皆ノ終局回復説	六三〇
第五項	死後即チ死ト大審判トノ間際ニ於ケル悔改六四〇	七三七
第六項	靈魂消滅ノ説	七三六
第七項	罰ノ性質	七七六
第一條	聖書ノ趣旨ヲ查ブルヲ要ス	七七六
第二條	罰ノ性質ヲ論ズ	七七七
一目	刑罰ノ苦痛ハ重ニ内部ヨリ生ズ	七七七
二目	罪人ハ既往生涯ノ損失不幸ヲ悔ユベシ	七七八
三目	現ニ在ル所ノ損失不幸ヲ悲シムベシ	七七八

第四目	未來ノ損失ヲ想像シテ嘆息スベシ	七七九
第五目	本心ノ譴責	七七九
第六目	他ノ聖キ靈物等ノ擯斥	七七九
第七目	束縛ヲ感ズベシ	七七九
八目	不義邪惡ト交ルニ至ルベシ	七八〇
九目	其心ニ安易ト平和ヲ得ザルベシ	七八〇
十目	神ハ極テ深ク罪ヲ惡ニ給フヤ確實ナリ	七八〇
十一目	聖書ハ既ニ現世ニ於テサヘ罰ヲ受ケタル者アルヲ示セリ	七八一
第八項	甦ノ事	
第一條	甦ノ事實タルコトハ聖書之ヲ明証ス	七八一
第二條	甦ノ時	七八二
第三條	甦ル者ノ順序	七八二

- 第四條 靈体ナルモノ、性質 七八二
- 第五條 キリストノ甦生ト信者ノ甦生トノ關係 七八三
- 第六條 甦ト云フ語ノ定義 七八三
- 第七條 肉体ト靈体トノ關係 七八七
- 一目 靈体ハ肉体ト同シ物質ニアラザルベシ 七八七
- 二目 又必ズシモ同シ元素ヨリ成立タザルベシ七八八
- 三目 又肉体ノ如ク生理的法則ニヨリテ變化セザルベシ 七八八
- 四目 靈体ト肉体ト同一ナル点ハ元素及形貌以外ニ在リ 七八八
- 五目 此世ノ親族朋友等ハ來世ニ於テモ相見知ルナルベシ 七九二
- 六目 靈体ニ於テハ肉情ナシ 七九二

第九項 天國ノ說

- 第八條 一般ノ人間各キリストノ臺前ニ裁判ヲ受ク 七九三
- 第九條 死シテヨリ大審判ニ至ル間ノ体形ノ狀 七九四
- 第一條 「パラダイス」所在ノ場處 七九五
- 第二條 「パラダイス」ノ住者 七九七
- 第三條 「パラダイス」ニ住ム者ノ狀態 七九七
- 一目 「パラダイス」ニ住ム者ハ智情共ニ發達スベシ 七九七
- 二目 神ト他ノ靈物又己ニ對シテ全キ調和ヲ得ルナルベシ 七九八
- 三目 又神ト和合シ神ト共働スベシ 七九九
- 四目 「パラダイス」ハ完善完美ノ場處ナリ 七九九

五目 「パラダイス」ニ於テ高尚ナル職事アルナルベシ

八〇〇

第四條 「パラダイス」ノ義者ハ不義者ノ苦惱ヲ見

知リナガラ尙歡喜アルベキヤ

八〇二

一目 不義者ノ苦惱ハ至當ノ應報ナリ

八〇二

二目 不義者ノ苦惱ハ場處ヲ轉スルモ去ラズ

八〇三

三目 義者モ天使モ神モ此苦惱ヲ輕減スルヲ

得ズ

八〇四

四目 義者其苦惱ヲ憂フルモ少ナカルベシ

八〇五

五目 聖徒ノ人情ハ大ニ高マリ大ニ潔マリタ

ルモノナルベシ

八〇五

第十項 天使之說

甲之部 聖ナル天使

八〇五

第一條 天使ノ性質

一目 天使ハ靈物ニシテ靈体ヲ具ヘン

八〇六

二目 天使ハ人間ヨリ先キニ造ラレタリ

八〇六

三目 天使ノ位ハ人間ヨリモ高シ

八〇六

四目 天使ハ其性次第ニ發達スベキモノナリ

八〇六

五目 天使ハ個別ニ造ラル血脈ニ由ラズ

八〇六

六目 其心情ハ聖ナルモノナリ

八〇七

七目 其中ニ位階ノ差等アルカ如シ

八〇七

第二條 天使ノ數

八〇八

第三條 天使ノ容貌

八〇八

第四條 天使ノ棲處

八〇八

第五條 天使ノ職掌

八〇九

一目 天使ハ神ノ使者ナリ

八〇九

二目	天使ハ特ニ救ヲ得ントスル者ノ爲ニ勞スル也	八〇九
三目	神ハ不義者ヲ罰スル時天使ヲ使者ト爲シ給ヒキ	八一〇
四目	キリスト降世前天使頻ニ現ハレタリ	八一〇
五目	末日ニ彼等ハキリストニ陪従スベシ	八一〇
六目	天使ハ神ヲ讚美スル者ナリ	八一〇
七目	彼等ハ自身ニ人ノ禮拜ヲ受ケズ	八一〇
乙之部	惡逆ノ天使	八一〇
第一條	惡魔ノ實際ニ存在スル事	八一〇
一目	人ト惡鬼トハ別物ナリ	八一三
二目	鬼ニツカレタル者ト他ノ病者	八一三
三目	惡鬼ハ或ハ言ヒ或ハ事ヲ爲セリ	八一四

四目	鬼ニツカレタル者ト他ノ病者ト同一視スルモ右ノ事情ヲ解明スル能ハズ	八一四
五目	惡魔ハキリストノ神タルヲ知ル	八一四
六目	キリスト惡魔ノ存在ヲ事實トシ給ヘリ	八一五
第二條	惡魔ノ始原	八一六
第三條	惡魔ノ位階ト名目	八一六
第四條	其數	八一八
第五條	惡魔ノ性質ト其所業	八一八
一目	惡魔ハ神ヲ知ルモ恐レテ戰ケリ	八一八
二目	惡魔ハ求メテ害ヲ爲ス者ナリ	八一八
三目	惡魔ハ神ノ牽制ヲ受ク	八一八
四目	惡魔ハ靈物ヲ惑ハス	八一八
五目	信者ハ勉テ之ヲ拒ギ又キリストニ依テ	八一八

六目	勝利ヲ得ベキヲ	八二〇
第六條	キリストハ悪魔ニ全キ勝利ヲ得給ヒタリ	八二〇
第十一項	惡魔ノ罰	八二一
第十一項	キリストノ再支配	八二四
第一條	聖書中キリストが大審判ノ前降臨シ給フノ証ナシ	八二四
第二條	「フレ、ミレニアル」説ハ聖書ノ趨向ニ逆フ	八二七
一目	キリストハ今尙王ト爲テダビデノ位ニ坐シ給フ	八二七
二目	キリストノ聖國ハ心靈的ニシテ其實座ハ「バラダイス」ニ在リ	八二九
三目	今ノ傳道法ハ聖書ノ示ス趨向也	八三〇
四目	義者不義者ノ誕生ノ大審判ノ日	八三三

五目	ユダヤ人歸國神殿再建ノ預言	八三五
六目	此預言ハ聖書ノ明示スル所ニ反ス	八三八
七目	此地球ハ聖徒ガ永遠ニ住ムベキ處ニアラズ	八三八
八目	此世界ノ國々ガキリストノ再臨ニ由テ其支配ニ歸スト云フモ聖書ニ反ス	八三九
第三條	「ポースト、ミレニアル」説ノ困難	八四〇
一目	今ニキリスト再降ノ事ヲ聞カズ	八四一
二目	第一降世後キリストノ屢顯ハレ給ヘルヲ	八四二
第十二項	神ノ善徳ト惡ノ永存トヲ調和スルノ説	八四四
第一條	靈物ノ棲處	八四八
第二條	靈物ト其自由性	八四九
第三條	天使惡鬼トナル	八四九

第四條	人類ト自由性及遺傳性	八五〇
第五條	神モ自由性ヲ抑壓シ玉ハズ	八五〇
第六條	迷ヘル靈物ヲ救回スノ至難	八五〇
第七條	罪ノ固成	八五〇
第八條	迷フタル者ヲ救フ神ノ方法	八五一
第九條	或靈物ノ救フ能ハザルニ至ルヲ	八五一
第十條	神人類ヲ父母ヨリ生レシム	八五一
第十一條	神ハ始ヨリ善動機ヲ豫備シ給フ	八五二
第十二條	新靈物永遠ノ歡喜ニ入ル	八五三
第十三條	神ハ救ノ爲ニ百方術ヲ盡ス	八五四
第十四條	迷ヘル靈物ト救ノ制限	八五五
第十五條	強テ迷ヘル者ヲ救フノ害	八五六
第十六條	救ハレザル者ノ滅亡	八五七

第五章 教會之教理(實地神學)

第一項	教會ノ定義	八六三
第二項	基督ト教會ノ關係	八六八
第一條	教會ハ体ニシテキリストハ其首ナリ	八六八
第二條	キリストハ常ニ其教會ノ活力ナリ	八七〇
第三條	教會ノ生命ト働ハキリストノモノナリ	八七三
第十七條	現世ニ罪ヲ犯シナガラ死スル者	八五七
第十八條	罪人刑罰等ヲ思フテ益罪ヲ重ヌ	八五七
第十九條	罪人ノ刑罰苦痛	八五七
第二十條	頑剛ナル靈物ハ救ニ入ラズ	八五八
第二十一條	迷ヘル靈物モ永存ヲ望ム	八五八
第二十二條	來世ノ悔改ハ難シ	八五八
第二十三條	救ハル、者ハ其數頗ル多カルベシ	八五九

第三項 教會ノ目的

- 第一條 此世ニ於テ神ト其眞理ノ証者タルヲ 八七八
- 第二條 信者ノ互ニ助テ心ヲ修ムルヲ 八七九
- 第三條 多人數相集テ神ヲ禮拜スルヲ 八八〇
- 第四條 基督信徒ノ道ニ進ムヲ 八八三
- 第五條 全世界ノ改心 八八三
- 第四項 教會ノ役員 八九二
- 第五項 教會ノ大禮 八九九
- 第一 「バプテスマ」 八九九
- 第一條 「バプテスマ」ノ意味 八九九
- 第二條 「バプテスマ」ノ性質 九〇〇
- 第三條 「バプテスマ」ヲ受クル者 九〇五
- 第二 主ノ晚餐 九二二

第六項 教會ノ働

- 第一條 教會ト社會ノ關係 九二四
- 第二條 教會ノ働ノ基礎 九二五
- 第三條 基督ノ潛勢力 九三四
- 第四條 組織 九四二
- 第五條 教會附屬ノ働 九五二
- 第六條 安息日學校 九六二
- 第七條 教會ノ親睦 九七〇
- 第八條 教會ノ實務 九七四
- 第九條 個人ノ働 九七五
- 第十條 「リバイバル」 九七七
- 第十一條 祈禱會 九九五
- 第十二條 牧師 一〇一九

第七項	安息日ト教會	一〇三七
第八項	教會政治	一〇四三
第一條	世上各般ノ教會政治法	一〇四三
第二條	組合教會政治畧說	一〇五〇
第三條	組合教會政治ノ危險及利益	一〇六三
第四條	各基督教會ノ一致	一〇六八

神學之大原理目次終

神學之大原理

緒言

余ハ昨年「神學總論」ナル一小冊子ヲ著シ、簡單ニ神學ノ大要、及神學ヲ研究スル方法ヲ陳述シタリ、後又「基督敎ノ基本」ナル一書ヲ著シ、今又此書ヲ發刊スルニ至レリ。

抑余ガ著述ノ目的ハ、人間ノ臆說ニ重キヲ置カズシテ、天啓ノ默示ハ畢竟如何ナル事件ヲ顯ハス者ナルカヲ研究スルニアリ。此等ノ論說中余ハ聖書中ヨリ數多ノ引照ヲナセシト雖モ尙讀者ニ望ム。

聖書ヲ涉獵スル其前後ノ脈路ヲ考ヘ、其關係ヲ尋テテ、新舊約書ノ題目ヲ存スル所ヲ悟覺セラレシトナリ。

昨年、余著ハス所ノ「基督敎ノ基本」ニ於テ、第一ニ神ノ存在ヲ論シ、第二ニ基督敎ノ証據ヲ論シタリ。是ヨリ余ガ從事スル所ハ

第三神ノ支配、第四罪、第五救拯、第六來世論、第七教會學即チ實地神學等ノ諸項ナリ。

神學トハ廣ク之ヲ解スレバ上帝ヲ論ズルノ學問ナリ、故ニ此ノ學タル宇宙万有ヨリモ廣ク、深ク、且ツ高クシテ其ノ及ブ所蓋シ究極アルトナシ。ナマノ人ヅバル嘗テ約百ニ問フテ曰ク（約百記第十一章七節ヨリ九節）汝何ツ上帝ノ本体ヲ究索スルトチ得ンヤ、何ツ大能者ノ全相ヲ究知スルトチ得ンヤ、其ノ高キハ猶ホ上天ノ高キガ如シ、汝何ヲ爲シ得ンヤ、其ノ深キハ實ニ陰府ノ深キニ逾ユ、汝何ヲ知り得ンヤ之ヲ量ルニ地ヨリモ寬ク、之ヲ測ルニ海ヨリモ濶シト。吾人ハ今神學ニ於テモ亦之ヲ謂フ。

神學ハ上帝ニ關スル諸般ノ事物ヲ講究スル學問ナルヲ以テ諸學ノ中獨リ最モ高貴ナルモノニシテ、又諸ノ科學ヲ完全ナ

ラシムルニ缺ク可ヲザル基本タルナリ。若シ此ノ學ニシテナカラシメソカ、天下ノ事物ハ皆十悉ク不可思議タラソ矣。而シテ吾人ノ疑惑ハ到底之ヲ解クニ由ナク、人々終ニ安心ノ地ナキニ終ラソノミ。且ツ其ノ論ズル所ハ概テ高尚ナル問題ニ涉ルガ故ニ、講究ノ方法ニシテ其宜シキヲ得バ、必ズ能ク人心ヲ濶大ニシ、又ハ能ク之ヲ高尚ニスルユトチ得ソ。然リ而シテ之ヲ學ブノ法、須クカノ嬰兒ノ心ノ己レヲ空フシテ、知識ヲ求メ汲々トシテ曾テ飽カザルモノ、如クナラザル可ラズ、只管眞理ヲ知ラソユトチノミ勉メザル可ラズ。又能ク信仰ノ大本タル事實ト人間ノ作爲セル學說トノ間ヲ辨シ、確實ニシテ動ス可ヲザルモノト、唯ダ然ル可ク思ハル、モノトチ別ソユトチ要ス。今夫レ世間人々ノ皆知ラソト欲スル大問題アリ、上帝果シテ存在スルカ、上帝人ニ告語セシユトアリヤ、果シテ之アリ

シトセバ其ノ告語セシ所ノモノハ何ゾ、人類ニハ來世アリヤ
果シテ之レアラバ來世ト現世トノ關係ハ如何、人ハ罪ト其ノ
報果トヨリ免カレ得ベキヤ此等ノ問題ハ常ニ吾人が心頭ヲ
挑ンデ置カザルモノニシテ。其ノ他尙幾多同種ノ疑問アリ、宇
宙万有ニハ果シテ創始アリシヤ、又々終極アルベキヤ、万有ハ
時間ト空間トニ於テ際限アリヤ否ヤ、宇宙万有ニハ大原因ア
リヤ、果シテ之アラバ其原因ハ何者ゾ、宇宙ノ物質ハ受造ノモ
ノナルヤ、若シクハ永遠自存ノモノナルヤ、上帝ハ万有間ニ常
住スルカ、將々創造後其ノ自然ニ任ズルヲ夫ノ時計師ガ一タ
ビ時計ヲ捲キシ後其自ヲ解クルニ委シテ傍觀スルガ如キモ
ノカ、物力ハ何ニヨツテ起リシヤ、現ニ宇宙ノ間ニ於テ諸ノ物
力ヲ生ズル原因ハ如何、造化ノ工ハ今モ尙ホ其ノ進行ノ途中
ニ在ルカ、物質界ハ漸々空間中ニ延長スルモノカ、宇宙万有ノ

大目的ハ如何、人類ノ大目的ハ如何、心靈ト物質トノ聯絡ハ如
何、心靈ハ不朽ノモノナルカ等、吾人人間ニ向フテ答辯ヲ催シ
テ止マザルモノ殆ンド數フルニ暇アラザルナリ。抑モ神學ハ
敢テ悉ク此等ノ疑問ニ答ヘントハ宣言セザレヒ、其ノ最モ重
要ニシテ、吾人人類ガ現在ノ情況ニ在ツテ最モ先キニ知ラ
ンヲ要スル所ノ疑問ヲ解釋スルヲ以テ目的トナスモノナリ
神學講究ノ要領タル主義ヲ觀察スルニ當リ、吾人ハ先ヅ第一
ニ是レ無限ノ問題タリト云フノ意ヲ認メ、而シテ吾人ハ唯々此
上帝ニ關スル學問ノ僅少部分乃チ上帝ノ存在其企圖其事蹟
其方法等ニ於テ僅カニ其一部分ヲノミ知リ得ベキヲ認メ
然ル後ニ人類ガ最モ先キニ知ラントヲ要スル所ノモノ、乃チ
獨一眞神ノ事實及ヒ其品性、人類ノ性質、罪惡ノ由來、罪惡ヨリ
免ル、ノ方、靈魂ヲ救済スルノ道、心靈上生活ノ狀態等ヲ探究

セノヲ要ス。乃チ斯クノ如クニシテ吾人が最モ先キニ知ラ
ント要スル所ノ此等ノモノニ關シ吾人ヲ啓發スル示現ノ存
スルアラバ、其存スルノ事實ユソ正ニ此等ノモノ、真理タル
ノ一強証ナレト云フベシ。

吾人ハ始メニ人類ノ性質ヲ講究スベシ、殊ニ在ラユル知識ノ
本源タル諸直覺ノ講究ヨリ始メ、確ク此直覺論ノ主義ヲ持シ
而シテ直覺ノ人類ガ心靈上ノ生命ヲ保存スルガ爲メニ必要ナ
ルヲ、猶夫ノ本能ノ禽獸ガ肉体上ノ生命ヲ保存スルニ必要ナ
ルガ如クナルヲ以テ、人類ニ此直覺力アルヲ否ムノ道理ニ於
テ甚ダ合ハサル所以ノ事實ヲ認メ、人類ガ普通意識ノ此ノ直
覺力アルヲ許セルガ故ニ、到底之ヲ否ム能ハサル所以ノ意ヲ
認ムベキナリ。

神學固有ノ問題ニ至ツテハ吾人が講論スル所ヲシテ勉メテ

日本人ガ當時ノ必要ニ適合セシムルヲ期スベシ、乃チ自然
神學ノ範圍内ニ於テ各種ノ無神說不可思議論懷疑論凡神說
ヲ斥ケ、而シテ又一方ニ於テハ神ヲ以テ高ク万有ノ上ニ在リト
スル全然タル超絶說ヲ斥ケ、他方ニ於テハ神ヲ以テ全ク万有
ノ内ニ在リトスル凡神的常住說ヲ斥ケサル可ラズ。吾人ハ實
ニ宇宙ノ間ニ於テ夫ノヒルベレダス、タイロチンシス氏ガ云
ヘル如キ万物ノ中ニ在ルト共ニ、又万物ノ上ニ在ル所ノ獨一
天父ヲ追求シテ之ヲ發見セサル可ラズ。氏ガ言ニ曰ク神ハ万
物ノ上ニ在リ、又万物ノ下ニ在リ、神ハ万物ノ外ニ在リ、又万物
ノ内ニ在リ、万物ノ内ニ在リト雖モ其中ニ籠閉スルニアラズ
万物ノ外ニ在リト雖モ其外ニ離隔スルニアラズ、万物ノ上ニ
在リト雖モ之ガ上ニ高擧スルニ非ラズ、万物ノ下ニ在リト雖
モ之ガ下ニ屈伏スルニ非ラズ、之ガ上ニ在ツテ之ヲ保護シ、之

ガ下ニ在ツテ之ヲ維持スト。予ハ思フ氏ハ之ニ加ヘテ神ハ万
物ノ内ニ在ツテ其永遠ノ大圖ニ應ジ、之ヲ運轉シ、之ヲ活動シ
且ツ之ヲ發達セシムト云フ可カリシナリ。
吾人ハ尙ホ一步ヲ進メテ斯ノ天父ガ人類ニ何ヲ啓發セシ
テアリヤ否ヤ、果シテ之アリシトセバ其啓示ハ如何ナルモノ
ナルカ、基督教ハ果シテ上帝ヨリ出デシ救済ノ道ナルカヲ知
ラントヲ求ムベシ。而シテ予ハ基督教ノ證據如何ヲ講究スルニ
當ツテハ當今世界ニ存スル基督教ノ講究ヨリ始メ、漸次古昔
ニ溯ツテ之ヲ論ズルノ日本ニ於テ最モ適セル方法ナルヲ
認ム。蓋シ基督教ノ存在ハ基督教其者ノ眞理タル最大ノ證據
ニシテ、書卷中ニ叙述セラレタル在ラユル記錄ヨリモ寧ロ幾
層ノ價值アルモノナリ。又吾人ハ基督教其者ノ存在スル所以
ヨリシテ、進ンデ之ガ源タル神人ニ論究セン、基督ノ神タルヲ

ハ基督教ノ基本ニシテ、聖書ヲ解釋シ基督教ノ存在ヲ説明ス
ルニ缺ク可ラザル元首ナリ。是故ニ聖書ヲ以テ上帝ノ言語ナ
リトスルハ、如何ナル意義ニユルカ、聖書ヲ解釋スルハ如何ナ
ル方法ニユラシカ等ノ疑問ヲ決センニハ、吾人須ク謹慎敬
虔ノ心ヲ以テ丁寧詳密ニ之ヲ論議セザル可ラズ。
聖書ノ記録タル人類ガ理會力高下ノ度ニ適應シタルモノ、乃
チ聖書各部ノ著作セラレタル當代ノ人々ガ理會力ノ度ニ適
應シタルモノナルノ事實ヲ承認シ、聖書中ニ存スル心靈上ノ
眞理ハ概シテ皆表号的ノ事物ヲ以テ述ベラレタルノ事實ヲ
承認センヲ要ス。殊ニ當初上帝ガ心靈上ノ眞理ヲ人類ニ啓
示スルノ極メテ困難ナリシ所以ヲ熟知セザル可ラズ、實ニ上
帝ハ未知的ノ事物ヲ啓示スルニ、既知的事物ノ名稱ヲ借り、依
ツテ以テ未知的事物ノ表号トシテ之ヲ用ヒザル可ラザリシ

ナリ。上帝ハ心靈的ノ事物ヲ啓示スルニ、物質的ノ事物ノ名稱ヲ
借り、依ツテ以テ心靈的ノ事物ノ表号トシテ之ヲ用ヒザル可ラ
ザリシナリ。上帝ハ無限的ノ事物ヲ啓示スルニ、有限的ノ事物ノ
名稱ヲ借り、依ツテ以テ無限的ノ事物ノ表号トシテ之ヲ用ヒザ
ル可ラザリシナリ。即チ心靈上ノ部分ヨリ之ヲ觀レバ聖書ハ
表号的ノ事物ヲ以テ記録セラレタルモノニシテ、實ニ表号的
ノ書冊ナリト云フベシ。吾人ニシテ善ク聖書中ニ存スル心靈
上眞理ノ意義ヲ了得セント欲セバ須ク前段ノ意ヲ服膺スベ
シ。例セバ上帝ハ聖靈ヲ表スルニ風ナル言語ヲ用ヒタルモ、之
ガ爲メニ聖靈ハ風ヨリモ微力ニ、若シクハ風ト同力ナラント
斷定ス可ラザルハ勿論、寧ロ之ヲ表センガ爲メニ用ヒラレタ
ル表号的ノ風ヨリモ、更ニ幾層強大ナルモノタルヲ知ラザ
ル可ラザルナリ。且ツ贖フト云ヒ、救フト云ヒ、洗フト云フガ如

キ人間ノ言語ヲ以テキリストガ吾人人類ノ爲メニ成就セル
贖罪ノ大業ヲ表セルモ、之ガ爲メニ決シテ表号タルモノヨリ
モ微少ニ、若クハ之ト同位ナリト斷定ス可ラズ、寧ロ之ヲ表セ
ンガ爲メニ用ヒラレタル表号的ノ事物ノ意義ヨリモ無限深長
ノ意義ヲ有スルヲ察セザル可ラザルナリ。此レ唯々數百例
中ノ一二ニ過ギザレド、斯ノ主義ニユツテ進マバ吾人ハ聖書
中ニ存スル心靈上ノ眞理ヲ解シ、且ツ之ヲ教フルニ於テ太過
ナカルベキヲ信ズ。聖書ヲシテ正確誤謬ナキノ書タラシメ、万
世朽チザルノ書タラシメ、人類ガ靈性ノ需要ヲ満足スルノ書
タラシムル所以ノモノハ他ナシ、其中ニ存スル心靈的意義ノ
深長ニシテ曾テ究極スル所ナキモノアレバナリ。吾人ハ實ニ
同章同句ヲ讀ムヲ或ハ千遍ニ至ルモ、而カモ毎時必ズ一層深
長ノ意義ヲ了スルヲ得ルナリ。

吾人ハ又聖書ノ發育生長スルヲ得ル書タルノ意ヲ承認セシ
トテ要ス、願フニ舊約書ハ花萼ノ如ク、基督ハ綻花ノ如ク、使徒
等ガ書ト後世ノ基督教トハ共ニ果實ノ如シ。

聖書ヲ批評スルニ其度ヲ越ヘズンバ所謂高批評、低批評而ナ
ガヲ共ニ不可ナルナシ、然レ吾人ハ獨乙人ノ諺ニ似テ、浴水ヲ
投瀉スルト共ニ小兒ヲ投瀉スルガ如キコアル可カラザル也
聖書總論ト聖書解義學トハ共ニ日本ニ在テハ神學教授ノ最
モ切要ナル部分ニシテ、解釋法ノ大綱領トモ稱スベシ、乃チ概
シテ聖書全体ヲ解釋シ特ニ表号的ノ部分ト預言トヲ説明ス
ル鑰鍵ナリトス。

組織神學ニ至テハ吾人ハ須ク其知識ノ本源ハ唯上帝ノ聖言
ノミナルトテ承認シ、嚴ク聖書ニ録セラソタル所ノモノ、外
ニ出ヅルコトヲ慎ミ、且ツ上帝ノ聖言ニ因由セザル諸種ノ説論

ヲ戒ムベキナリ。ウオン、ウーステルツエー氏ノ言ニ曰ク、真正
ナル定説家ガ天啓ノ聖書ニ於ケルハ、決シテ奴隸ノ主人ニ於
ケルガ如キニ非ズ、又裁判官ガ訟者囚徒ニ於ケルガ如キニモ
非ズ、恰モ自ラ知リテ甘心依從スルモノ、關係ナリト云フベ
シ、乃チ斯ノ如クナルガ故ニ每時聖靈ノ補助ヲ得テ愈ニ神言
ノ深意ニ達シ益ス其奧義ヲ悟ルニ至ルモノナリト。デノマー
クノ神學者マーテンセン氏モ亦曰ク定説的ノ想考ハ、聖書ト
牴牾スルコトナカル可キハ勿論、又其當否ヲ聖書ニヨリテ檢定
ス可キモノニシテ、且ツ當ニ能ク聖書ノ教理ニ從フテ之ヲ長
養シ、常ニ少壯發育ノ力ヲ有セシメザル可ラズ、聖書ハ固ト神
靈ノ感覺ニヨリテ述ベラレ、又其作用ヲ表彰スルノ書ナルガ
故ニ、其中ニハ絶ヘズ發育スルヲ得ベキ無限ノ萌芽ヲ包藏シ
テ、縱令人爲ノ定説ハ既ニ老廢陳腐ニ屬スルニ至ルモ、聖書ハ

依然トシテ少壯發育ノ力ヲ保存ス、是レ蓋シ聖書ハ人ニ示ス
ニ組織セル定説ヲ以テセズシテ、却テ定説ヲ組織シ得ベキ材
料ヲ供スル圓滿ナル真理ヲ以テスレバ也ト。予ノ經歷スル所
ヲ以テスレバ予ハ年々神學上ノ教授ヲ重モニ人々ノ皆知ラ
ント要スル聖書中ノ大教理ニノミ限ルノ甚ダ切要ナルヲ感
シテ止マザルナリ。乃チ聖書ノ各部ニ貫通セル教理ニシテ、若
シ之ヲ聖書ヨリ取ラントセバ之ト共ニ聖書ヲモ取ラザル可
ラザルト譬ヘバ鉢中ノ草木ヲ取ラントスルニ其根枝ノ鉢中
ノ全土ニ周布セルガ故ニ、遂ニ共ニ其全土ヲモ取ラザル可ラ
ザルニ至ルト一般ナル明瞭正確ノモノ、ニ限ラントチ感
ズ。予ハ實ニ其根枝ヲ新舊兩約書ノ全部ニ周布セル活ケル重
大ノ教理ヲノミ教ヘ、且ツ傳ヘントチ欲ス。願フバ空想妄想流
行ノ今日ニシテ人々皆幻像怪影ヲ追逐シ唯ダ新奇ナルヲ以

テ真正ナリト假定シ、其進歩スルト退歩スルトニ拘ラズ、徒ニ
變動更易スルヲノミ之レ喜樂スルノ際ニ在テハ、吾人實ニ空
想妄想ヲ忌ムモノ、却テ時勢ニ後レタル人ナリト見ラル、
チ知ル、吾人實ニ斯クノ如キモノ、一種ノ人ニハ頗ル擯斥セ
ラル、チ知ル、然レモ予ハ時勢ニ後ル、ト見ラル、モ、或ハ擯
斥セラル、モ、甘シテ他人ノ之ヲ爲スニ任シ、唯靜ニ後世公論
ノ果シテ神ト共ナル所ノモノハ常ニ勝ツト云フニ至ルヲ待
ンノミ。否チ神言ノ大主義ニ循據スル所ノモノハ常ニ必ズ勝
ツナルベシ。キリストモ曾テ吾儕ハ吾儕ガ知ル事ヲ語り、吾儕
ガ見シトチ証ス云々ト言ヒ給ヘリ、吾人ハキリストチ師トセ
ンノミ。且ツキリスト或ハボウロガ默シテ言ハザリシモノニ
至ツテハ吾人モ亦默シテ言ハザルノ頗ル當然ナルヲ見ル。之
ヲ要スルニ吾人ガ講學教授ノ際組織神學ニ於テ最モ注意ス

可キハ上帝ノ品性基督教ノ真理、神言ノ真理、罪惡ノ事由、基督ノ神性ト人性、基督贖罪ノ意、各人ガ基督ト一タルノ理、改心更生ノ狀、心靈的ノ發達、心靈的ノ作用、教會一致ノ作用、及ヒ審判ノ終結、等ノ大主義ニ在リ。

基督教會ノ歴史ハ神學教授上ノ最モ切要ナルモノ、一部ナリ、吾人ハ此ニ於テ創世記ノ「バラダイス」ヨリ默示録ノ「バラダイス」ニ至ルマデ、教會歴史ノ全行經ヲ熟察スベシ。乃チ預備ノ時代、進歩ノ時代、成功ノ時代、殊ニ預言ノ帳幕ノ少ク閉ヒテ吾人ヲシテ之ガ内實ノ幾分ヲ伺フテ得セシメタル榮光ノ時代ヲ熟察スベシ。又千八百年間ニ於ケル教會進歩ノ歴史ヲ學ブニ方テ其諸大教訓ヲ鑑ミ、誤謬說ノ生命ナキ所以、空理空想ノ人心ヲ殺ス力アル所以、キリストガ純潔ナル福音ノ活ケル生命ヲ願與スル力アル所以、及ヒ此第十九世紀ニ於ケル教會進

歩ノ非常長大ナル所以ヲ講究教授スベキナリ。

最後ニ講ズ可キハ實地神學ナリ、予ハ思フ予ガ教ユル諸科ノ中ニ於テ其切要ナルヲ說教學、教會學ノ如キ實用上ノ學問ニ如クモノハアラザルベシト。予ハ神學生ノ一層深ク其重要ナル所以ヲ實驗セシムルヲ望ム、此科タル實ニ學生ニ教ユルニ其凡テ學ビ得タル所ノモノヲ實行スルノ方法ヲ以テスルモノナリ。吾人ハ夫ノパウロニ倣ヒ十字架ニ釘セラレシキリストヲ以テ傳道ノ大主意トナシ、人ヲシテ悔改シテ直ニキリストヲ信セシムルヲ以テ傳道ノ大目的トナスベシ。予ハ實ニ方今日本ノ狀態タル既ニ說教ニハ必ズ靈魂救濟ノ福音眞理ヲ含有セザル可ラザルノ時ニ達シタルヲ見ルナリ。然リ而シテ吾人ハ講學教授ノ際ニ在ツテ、吾人ガ人トナリニソ第一ノ主眼ニシテ、其遙ニ知識業爲ノ上ニ出デ、極メテ價值

アルモノタルノ事實ヲ悟了シ、此人トナリテ進メシガ爲メニ
宜シク凡テノ眞理ノ靈ノ降臨ヲ求メ、之レガ啓導祐助ヲ得、以
テ神ノ國ヲ此日本ニ來サントスル吾人ガ大業ニ從事スベキ
ナリ。

基督ノ語ニ云ヘルコトアリ、曰ク爾我ヲ世ニ遣ハシ、如ク、我
モ亦彼等ヲ世ニ遣ハセリト、吾人宜ク之ヲ服膺シ日々ノ生涯
ニ於テ此語ヲ實行スベキナリ。又人生ノ短促ナルヲ認メ、其生
涯ノ大目的ハ人ヲ救フニ在ルヲ思ヒ、人ヲ救フノ事業ハ概テ
各自個々ノ事業タルヲ體驗スベシ。而シテ斯ノ如キ熱心ナル
利他益人ノ事業ハ、天父ノ祝福シ給フ所、人生最貴ノ事業タル
ナリ。故ニ吾人ハ確ク心ニ此大目的ヲ定メテ日々ノ生涯ヲ送
リ、現ニ今ニ於テ直ニ、斯ノ人ヲ救フノ事業ニ従フベシ。其喜ソ
テ吾人ノ誘導ヲ受クルト、受ケザルトハ責彼ニ在テ我ノ與カ

ル所ニアラズ、我ハ唯我が能フ才ノ智慧ト能力ト盡スベキノ
ミ。斯ノ如クニシテ始メテ茲ニ、永遠ノ喜樂ト圓滿ノ幸福ヲ望
ムヲ得ベシ。

余ハ自ラ、余ノ論述スル所ノ餘リニ簡單ニシテ、隔靴ノ憾ヲ讀
者ニ與ヘンコトヲ知レリ、且ツ自家ノ淺學ヲ思フテ心竊ニ忸
怩タリト雖モ、神學社會現今ノ風潮、唯新ヲ好ミ奇ニ走り、却テ
基督教ノ本領ヲ失ヒ、其生命ノ源ヲ忘レントスルノ顯象ハ實
ニ余ヲ驅テ此著述ヲ急ガシメタルナリ。然レモ此著ニ由テ幸
ニ神ノ眞理ニ遠スルノ一助ヲ讀者ニ與フルヲ得バ、著者ノ微
勞モ決シテ徒然ニ歸セザルナリ。

終ニ臨ミ一言セザルベカラザルコトハ米國人ナル余ガ日本語
ノ著述ヲナシタルコトナレバ、其際多少ノ遺憾ナキ能ハズ、殊ニ
數人ノ翻譯者ヲ用ヒタルレバ、文体亦同一ヲ欠ク、讀者之ヲ諒察

セバ幸甚

明治二十四年七月

著者誌

神之支配

総論

神ト宇宙トノ關係

人間ハ元充分ニ神ヲ悟ルニ耐エザルヲ以テ若シ我々ガ神ヲ
想考スルトキニハ知ラズ識ラズ自身ノ有様ニ至大尊嚴ヲ加
ヘタルガ如キモノト爲スニ至ル可シ伊多利ノ畫伯ヲツフエ
ル(Raphael)ガ羅馬法王ノ禮拜堂ノ天井ニ神ガ光ト暗トヲ分ツ
ノ光景ヲ圖シタルヲ見ルニ同シク人間ノ如キ形貌ニ擬シテ
以テ神ヲ示セリ(創世記一章四節ヲ畫題トス)蓋シ人間ノ意匠
自ラ是ニ出テタルモノナリ此關係ニ附キテハ先ツ左ノ三件
ヲ了スルヲ要ス(詳論ハエ、エ、ハ、イ、チ、氏ノ著書ヲ見ユ)
一、神ヲ全ク知ルユト能ハズ

神ハ絶對無限ニシテ此ノ宇宙ハ有遇有限ノモノナリ人間ノ
智識亦有限界ヲ脱スル能ハズ彼ノ廣漠タル原頭ノ夕一穗ノ
寒燈ヲ點ツレバ僅ニ尋尺ノ間ヲ照スニ過キズ若シ之ニ代フ
ルニ玲瓏タル洋燈ヲ以テスレバ耿々トシテ光影漸ク擴張ス
可ク更ニ電氣燈ヲ掲グルニ至レバ鮮芒赫耀白晝ノ如シ然リ
ト雖モ其全局ヨリ云フトキハ尙ホ光明ノ達セザル暗夜ノ部
分ハ際涯ヲ知ル能ハザルト殆ンド等シキモノアリ我々ノ智
識ハ啻ニ神ニ附キテ然ルノミナラズ理學及ヒ哲學上ニ於テ
モ知悉スルコト能ハザル制限ニ遭ニアラズヤ例令ハ太陽系
運動ノ規法ハ其幾分ヲ窺フベシ即ハ十月ノ地球ヲ中心トシ
テ運行スルガ如キ七星ノ太陽ヲ中心トシテ運行スルガ如キ
是ナリ然リト雖モ此ノ太陽系ト他ノ太陽系トノ相互ニ運行
スルコト又ハ星雲系ト星雲系トガ互ニ運行スルコト及ヒ蒼

天ニ懸ル無數ノ星宿ガ宇宙ノ中心ニ從テ運行スルコト等ニ
至テハ決シテ覺ルベキ所ニアラズ斯ノ如ク我々ハ幾分カ神
ニツキテ悟ルコトヲ得ベシト雖モ充分ニ知悉スルコト能ハ
ザルコト却テ當然ナリト謂フ可シ「ナシ」神ノ深事ヲ窮ムル
ヲ得ンヤ全能者ヲ全ク窮ムルコトヲ得ンヤソノ高キコトハ
天ノゴトシ汝ナニヲ爲シ得ンヤ其深キコトハ陰府ノゴトシ
汝ナニヲ知エンヤソノ量ハ地ヨリモ長ク海ヨリモ濶シ」(約
百記十一章七八九節)
二、神ハ形體以上ニ存在ス
形骸物ハ神ノ本質ニ與シテ部分トナラズ又神ノ本質ハ宇宙
ノ形骸物ト與シテ混同セズ神ハ物質ト全ク異ナリテ之ヲ保
持シ運動シ生育セシムルモノナリ
三、神ハ宇宙ニ存在ス

神ハ萬物ノ本原諸勢諸力ノ大原因タルコト植物ノ生子ニ於ケルガ如ク神ハ宇宙ノ生子タルモノナリ而シテ神ノ運動ハ人間ト全ク異ナレリ人間ハ外部ヨリ或物ヲ加ヘテ作用ヲ呈シ神ハ内部ニ於テ其作用ヲ顯ス故ニ宇宙ハ神ニ因テ存在スルコト恰モ天上ノ星宿ガイール(Hell)ニ因テ存在シ雲煙ノ空氣ニ因テ存在スルガ如ク然リ即チ諸勢力ハ悉ク神ヨリ發生シ來ルモノナリトスレバ神之ヲ利用スルハ勿論ナリト謂フベシ羅馬ノ「セント、ペテロ」ノ大會堂ハ伊多利ノ大理石硫中ニ來リ無數ノ役夫ト運動トニ由テ落成セリ然リト雖モミカイール、アモンシエロー(Michael Angelo)ハ能ク此等ノモノヲ支配シ動作セシメテ以テ其用ニ供セリ斯ノ如ク神ハ諸物諸力ヲ利用シ其宇宙ヲ自己ノ企圖ニ應ヂテ造營シ又保持スベシ萬種ノ運動ハ悉ク神ノ勢力ニ因レバナリ此太陽ハ太陽系動力ノ

本原ナルガ如ク蒸氣船氣罐ノ爐火ガ其船軀動力ノ本原ナルガ如ク神ハ遙ニ勝リテ宇宙ノ本原タルナリ左レバ宇宙ノ萬象ニ於ケルハ吾人ガ外貌ニヨリテ衷心ノ喜悅恐怖悲痛等ヲ表スト同シク天父ノ思想ハ物質上ニ表レ來リ宛ガヲ温々タル眉目ヲ仰グガ如シ轉々恩愛ヲ感ゼンバアヲズ彼ノ青々タル艸木ノ葉ヤ爛熳タル紅白ノ花ヤ油然タル長空ノ雲ヲ以テ皆神ノ思想ト爲スノ不可ナキヲ見ル但シ其創造ト保持トハ自ラ異レユトチ忘ル可カラズ形軀物ハ神ノ外部ニ屬スルモノニテ神ニ因テ出現シ又神ヨリ受クル所ノ生命ト勢力トニ因リテ存在ヲ得ルモノナレバ形軀物ノモノハ神ト全ク異リト雖モ神ヨリ離絶シテ自立スルヲチ得ズ生命モ亦神ヨリ出ルモノト雖モ神ノ生命トハ異リテ唯々彼ヨリ分チテ受ケシ所ノモノト云フベシ又創造ノ時代ハ既ニ經過シタリト

雖モ(創世記二章二節ヲ見ユ)其之ヲ保持スルヲ至テハ曾テ
間斷アルコトナシ(詩篇百四篇及ヒ百四十七篇以賽亞書四十二
章五節ヲ見ル可シ)試ニ創世記第一章十一十二節及ヒ二十一
廿五三十一節ヲ閱シ來レバ神ノ企圖ナル此ノ宇宙ノ大目的
ノ存スル所ヲ識ル可シ即ハチ神ノ性質ニ象リテ造ラレタル
我々人間コソ其主眼ノ位置ニ立ツベキ特榮ヲ辱フセルモノ
ナリ勿論一般ノ宇宙ニ於テモ同様ニ神ハ自己ノ能力ヲ加ヘ
其榮光智慧慈愛ヲ表シ以テ聖悅ニ應ハシムルモノニテアル
ナリ(詩篇百四篇三十一節羅馬書一章十九廿節)而カシ靈胎
物ノ罪惡ニヨリテ此ノ大目的ハ幾分カ齟齬シタリト見ユレ
トモ遂ニ能ク之ヲ成就シ得ベシ(民數記零十四章二十一節
詩篇七十二篇十九節ヲ見ユ)蓋ハ神之ヲ達センガタメニ萬
國ヲ其恩澤ニ潤シムル所ノ一人ノ民ヲ特撰シタルニ因ルナ

リ(創世記十二章三節全十八章十八節全廿二章十八節ヲ見ル
ベシ)

神ノ支配ヲ概言スレバ遍ク宇宙全般ニ亘ルヲ以テ形胎物ト
靈胎物トヲ問ハズ預メ定メタル企圖ニ應テテ制裁ヲ加フル
モノトス今此ノ所論ヲ分チテ左ノ二種トスベシ

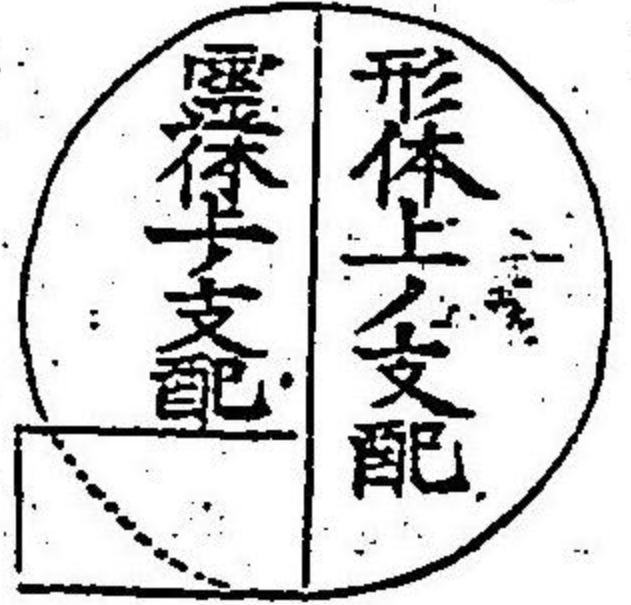
一 形胎上ノ支配 二 靈胎上ノ支配

第一項 形胎上ト靈胎上トノ支配ノ區別

神ノ形胎上ト靈胎上トヲ支配スルヤ其間ニ大ナル區別ヲ措
キ凡テノ無機物ニ就テハ平等ノ法方ヲ以テ直接ニ全ク
之ヲ支配シ得ベク而シテ此ノ物質ハ決シテ神ト共力スルコ
ト能ハズ又動物ノ如キモ一定ノ法則ヲ以テ全ク之ヲ支配シ
得ベシ其本能ニ由リテ幾分カ神ト共力シ能フト雖モ彼レ自
身ハ更ニ何タルヲ識ラズシテ神旨ヲ行フノミ其レヨリ靈胎

上ニ進メバ支配ノ法方全ク一變シ隨テ一様ナルヲ無シ神ノ
 靈骸物ヲ處スルヤ先ツ各自ノ本心ヲ動カシ其勸メニヨリ動
 機ニ感シ自由ニ認識セシメタル上ニ於テ導キ與ヘラル即チ
 凡ノ天使及ヒ神ヲ信シテ服従スル人間ハ此支配ノ範圍内ニ
 立テリ又不信ノ徒ト雖モ幾分カ同様ニ本心ノ勸メニ從ツテ
 支配ヲ受ルモノト見エタリ左スレバ物質界及ヒ動物界ニ在
 テハ全ク支配ノ至ラザル所ナク能ク其企圖ト志望トニ違背
 セズ而カシ靈体物中ニハ或ル部分神ノ支配ヲ脱ハズ却テ之
 ニ逆フモノアリ而シテ靈骸上ヨリ云ヘバ神ハ其嗜好ヲ逞フ
 シ強テ支配スルヲチ屑トセズ(提摩太前書二章四節彼得後書
 三章九節ヲ見ル可シ)其他聖書ヲ引照スレバ神ノ志望ハ凡ソ
 人類ガ悔改メテ救拯ニ與ルユトヲ欲スルト見ユレドモ人類
 中其多分ハ救拯ニ漏ル、ノ止ヲ得ザルニ至レリ之ニ由テ神

ハ恩愛ノ道ヲ以テ凡ノ靈骸ヲ有スルモノヲ支配スルユトハ
 固ヨリ希望ナリト雖モ到底行ハレ難クレバ更ニ異ナル法方
 ニ由リ彼ノ逆フモノヲ處セザルヲ得ズ(出埃及記ナルパロ王
 及ヒ猶太書六節ノ迷ヒタル天使ノ例ヲ見ルベシ)神ハ權威ヲ
 以テ其逆者ヲ留置シ或ハ束縛シテ支配ヲ加フルノ外施ス所
 ナキニ似タリ左ノ想像圖ニ就キテ考フレバ幾分カ悟ル所ア
 ルベシ



此ノ圖セル所ヲ見ユ右方ノ一半ヲ形骸上ノ部分トスレバ前
 述ノ如ク神ノ志望ト實際トガ並ビ行ハル、所ニシテ即チ

平等一様ナル支配ノ遍キ限界ナリトス而シテ左方ノ一半ヲ
靈脛上ノ部分トスレバ其理想上ノ志望ト實際上ノ支配トハ
充全ニ行ハレ難クシテ志望以外ノ運動ニ出ヅルモノアルナ
リ其能ク神ニ忠事シ違フコトヲセザルモノニ在テハ恩愛ヲ
示シ動機ニ由リテ理想ノ範圍内ニ支配セラル可ク彼ノ神ニ
逆ヒ動機ノ慫慂ニ從ハザル限リハ假令惡魔ニマレ人間ニマ
レ幾分カ權力ノ制裁ヲ以テ支配セラル、ナリ人間ハ物質ヲ
用ヰテ危害ヲ義人ニ加フルコト尠トセズ例令ハギツト一ガ
大統領ガフキールト氏ヲ銃殺セシガ如シ神ハ平常道理外ノ
奇跡ヲ以テ此ノ危害ヲ防ガズト雖モ時ニヨリ其安然ヲ保護
スルノ例ナキニ非ズ今其二三ヲ舉グレバ米國獨立戰爭ノ未
ダ起ラザル以前ワシントンノ尙ホ一小吏マリシ頃土人ノ騷
亂ヲ起スニ遭フ適々森林ヲ逍遙ス一土人アリ銃ニ丸シ之ヲ

狙撃セントシタレトモ遂ニ發射セザレバ彼レ大ニ懼レテ謂
テク神必ズ此人ヲ害スルコトヲ許サザルナリト即チ銃ヲ措
キワシントソノ前ニ跪キ深ク其罪ヲ謝シ爾來從者トシテ仕
ヘンコトヲ請ヘリトゾ又米國南北戰爭ノ時北軍ノ旗持某ハ
最モ苦戰ノ際軍旗ヲ持シテ他ノ兵士ニ劣ラズ數人ノ死骸ヲ
蹈起ヘテ進ミシガ敵兵五千バカリ三百尺ノ彼處ヨリ大小ノ
彈丸ヲ注グコト露ノ如ク味方ノ兵多ク身ヲ樹蔭ニ寄セマリ
某モ亦始メニハ旗ヲ掲ゲテ大樹ノ蔭ニ立ナシガ願ミレバ數
多ノ我兵其後ニ在リ某ハ其持テル旗ノ爲ニ敵ノ銃口ヲシテ
背ナル我兵士ニ向ハシメソコトヲ恐レ更ニ二三十尺前進シ
テ一樹ノ蔭ニ立テリ然ルニ後ニ在ル我軍ヨリ放ツ銃丸風ヲ
剪テ頻リニ左右ヲ經過シ殆ンド同士撃ニ遭ハントス依テ退
ヒテ丘上樹蔭ナキ所ニ屹立シテ動カズ此時敵ノ銃口悉ク軍

十二
旗ニ塊集シ怒嗟シ來ル所ノ彈丸ハ恰モ白雨ノ注クガ如ク或
ハ地ヲ鑿キ或ハ外套ヲ貫キ或ハ耳朶ヲ拂ヒ旗ハ破レテ襴褕
ノ如クナリシガ僅カニ両膝ニ微傷ヲ負ヒタルノミニシテ一
命ニ恙ナキヲ得タリ又動物ノ如キハ常ニ其本能ニ從テ動作
スト雖モ神ハ時トシテ常理外ノ法方ヲ以テ本能ニ逆フタル
支配ヲ爲スノ例アリ預言者ダニールハ不法ノ禁令ヨリ讒ヲ
得獅子ノ穴ニ投セラレ銳利ノ爪牙ニ接スルコト終夜ニシテ
害ヲ受ケズ(但以理書六章ヲ見ルベシ)又預言者エリヤハ食物
ノ供給ナキ地ニ身ヲ措シガ烏鴉アリ朝暮肉及ビ「パン」ヲ運ビ
來リテ彼ヲ養ヒ飢饉ノ憂ナカラシメタリ(列王紀上十七章
一節以下七節マデヲ見ルベシ)
第二項 形骸上ノ支配——動物モ此中ニ在リ
第一條 神ハ宇宙全般ヲ支配ス

十三
一目 神ハ宇宙ノ創造者タレバ亦之ヲ支配スルハ當然ナル
可シ若シ然ラズトセバ奚クソフ之ヲ造ルヲ要センヤ
二目 神ノ完全ナル性質ヨリスルモ萬物ヲ支配セラルハ
當然ナル可シ彼既ニ宇宙ノ造主タリ其全智全能ハ以テ支配
ヲ專ニスルニ足リ且ツ當ニ之ノアル可キノ必要ヲ感ズルナ
リ而シテ神ノ外能ク此任ニ耐ユルモノナシ故ニ神ニシテ若
シ其任ニ當ラザリセバ或ハ智慧或ハ德性ニ欠クル所アリト
謂フモ不可ナケン而カシ先著基督教之基本ニ於テ神性論中
神ハ凡ノ智慧凡ノ德性ヲ圓滿ニ具有スルモノナルコトヲ識
ルヲ得タリ
三目 宇宙ニ秩序アルコトヨリ証ス基督教之基本第五章ノ
宇宙ニ秩序的運動アルコトノ論說ヲ見ルベシ神モシ之ガ支
配者タルニアラズンバ如何テ此整然ヲ保ツヲ得ンヤ

四目 進化ノ法則ヨリ証ス此法則ヲ調査スルニ自ラ一定ノ
 方向ヲ有シ又常ニ劣等ナルモノヨリ高尙ナルモノニ向テ變
 遷スト見ヘタリ神モシ之ヲ支配スルニアラズンバ如何テ斯
 ノ如ク同一ノ規律ヲ保ツヲ得ンヤ
 五目 聖書ヨリ証ス神ノ支配ガ宇宙全般ニ及ブコトハ實ニ
 聖書ノ趣ナリ特例(尼希米亞記九章六節汝ハ唯ナソザノミエ
 ホバニマシマス汝ハ天上諸天ノ天オヨビソノ萬象地トソノ
 上ノ一切ノ物ヲラビニ海トソノ中ノ一切ノ物ヲ造リ之ヲコ
 トゴトク保存セタマフナリ天軍ナソガチ拜ス)(約百記十二章
 十節以下一切ノ生物ノ生氣オヨビ一切ノ人ノ靈魂トモニ彼
 ノ手ノ中ニアリ耳ハ說話ヲ辨ヘザラソヤソノ狀アタカモ口
 ノ食物ヲ味ハフガゴトシ、老タル者ノ中ニハ智慧アリ、壽長者
 ノ中ニハ顯悟アリ、智慧ト權能ハ神ニ在リ、智謀ト顯悟モ彼ニ

屬ス視ヨ彼毀テバ再ビ建ルコト能ハズ、彼人ヲ閉コムレバ開
 キ出スコトヲ得ズ視ヨ彼水ヲ止ムレバ則チ涸レ、水ヲ出セバ
 則チ地ヲ滅ボス權能ト顯悟ハ彼ニ在リ、惑ハカル、モノモ惑
 ハス者モ共ニ彼ニ屬ス彼ハ議士ヲ裸体ニシテ擄ヘユキ、審判
 人ヲシテ愚ナルモノトナラシメ王等ノ權威ヲ解テ反テ之ガ
 腰ニ繩ヲカケ祭司等ヲ裸体ニシテ擄ヘユキ、權力アル者ヲ滅
 ボシ言爽ナル者ノ言語ヲ取除キ、老タル者ノ了知ヲ奪ヒ候伯
 タル者等ニ耻辱ヲ蒙ラセ、強キ者ノ帶ヲ解キ暗中ヨリ隠レタ
 ル事等ヲ顯ハシ、死ノ蔭ヲ光明ニ出シ國々ヲ大ニシ、マタ之ヲ
 滅ボシ、國々ヲ廣クシマタ之ヲ舊ニ歸シ地ノ民ノ長タル者等
 ノ了知ヲ奪ヒ、ユレヲ路ナキ荒野ニ吟行ハシム彼ヲハ光明ナ
 キ暗ニマトル、彼マタ彼ヲ醉ル人ノゴトクニユロタカシム
 (詩篇廿九篇十節ニホバハ洪水ノウヘニ坐シタマヘリ、エホバ

ハ寶坐ニガシテ永遠ニ王ナリ。全九十五篇四五節地ノフカキ
處ニナソノ手ニアリ山ノイダツキモマダ神ノモノナリウミ
ハ神ノモノソノ造リタマフトユロ早ケル地モマダ其手ニテ
造リタマヘリ。全百三篇十九節エホバソノ寶坐ヲモロモロノ
天ニカダシ置タマヘリ、ソノ政權ハユロヅノモノ、ウヘニア
リ。全百四篇廿四節ヨリ三十二節エホバヨソノ事跡ハイ
カニ多ナル、ユソヲハ皆ソノ智慧ニテツクリタマヘリ、汝
ノモロモロノ富ハ地ニミツカシユニ大ナルヒロキ海アリ、ソ
ノナカニ數シラレヌ備フモノ小ナル大ナル生ルモノアリ舟
ソノウヘチハシリ汝ノツクリタマヘル鱈ソノウチニアソビ
タハブル彼ヲ皆ソノチ俟望ム、ソノチ宜時ニクヒモノチ之
ニアタヘタマフ彼等ハソノチ予ヘタマフ物チヒロフ、ソノ
チ手チヒラキタマヘバカレヲ嘉物ニアキタリヌ、ソノチ而チ

オホヒタマヘバ彼等ハアソテフタメク汝カレヲノ氣息ヲト
リタマヘバカレヲハ死テ塵ニカヘルソノチ靈チイダシタマ
ヘバ百物ミナ造ラル、ソノチ地ノオモテチ新ニシタマフ願ク
ハエホバノ榮光トユシヘニアラソコトチ、エホバソノミワザ
チ喜ビタマハソコトチエホバ地チミタマヘバ地フルヒ、山ニ
フソダマヘバ山ハ煙チイダス。全百四十七篇エホバチホタタ
ダヘユ、ソレヲノ神チホメウタフハ善コトナリ樂シキコトナ
リ稱マツルハユロシキニ適ヘリエホバハエルサソムチキヅ
キ「イスラエル」ノサスラヘル者チアツメタマフエホバハ心ノ
クダケタルモノチ醫シ、ソノ傷チツ、ミタマフエホバハモロ
モロノ星ノ數チカヅヘテスベテユレニ名チアタヘタマフ、ソ
レヲノ主ハオホイナリ、ソノ能力モマダ大ナリ、ソノ智慧ハキ
ハマリナシエホバハ柔和ナルモノチカ、ヘ悪キモノチ地ニ

ヒキオトシタマフエホバニ感謝シテウタヘ琴ニアハセテワ
ソヲノ神ヲホメウタヘエホバハ雲ヲモテ天ヲオホヒ地ノタ
マニ雨ヲソナヘモロモロノ山ニ草ヲハエシメ、クヒモノヲ獸
ニアタヘ並ナク小鴉ニアタヘタマフエホバハ馬ノイカラチ
喜ビタマハズ人ノ足ヲヨミシタマハズエホバハ水ノレチ畏
ル、モノトホノレノ憐憫ヲノヅムモノトチ好シタマフエル
サレムヨエホバチホメタヘ、ヘヨ、シオンヨナシノ神ヲホメ
タ、ヘヨ、エホバハナシノ門ノ關木ヲカタウシ汝ノウチ十
ル子輩ヲサキハヒタマヒタレバナリエホバハ汝ノスベテノ
境ニヤハラギチアタヘ、イト嘉麥ヲモテ汝チアカシタマフ
エホバハソノイマシメチ地ニクダシタマフ、ソノ聖言ハイト
スミヤカニハシルエホバハ雪ヲヒツシノ毛ノエトクフラセ
霜ヲ灰ノエトクニマキタマフエホバハ氷ヲツチクレノエト

クニ擲ナタマフ、タレカツノ寒冷ニタフルユトチエソヤエホ
バ聖言ヲクダシテユレチ消シソノ風ヲフカシメタマヘバモ
ロモロノ水ハナガルエホバハソノミユトバチヤコブニ示シ
ソノモロモロノ律法トソノ審判トチ「イスラエル」ニシメシタ
マフエホバハイヅレノ國チモ如此アシラヒタマヒシニアラ
ズエホバノモロモロノ審判チカレラハシラザルナリ、エホバ
チホメタヘ、ヘヨ(以賽亞書四十五章一二三及七節)レエホ
バワガ受膏者シロスノ右手チトリテモロモロノ國チソノマ
ヘニ降ラシメ、モロモロノ王ノ腰チトキ扉チソノ前ニヒラカ
セテ門チトヅルモノナカラシメ、ソレ汝ノマヘニユキテ崎
嶮チダヒラカニシ銅ノ門チユボキ、クログチノ關木チダチキ
ルベシ、ソレナシニ暗トユロノ財寶トヒソカナルトユロニ
藏セルタカラトチ予ヘナシニ我ハエホバナシノ名チヨ

ペルイスラエルノ神ナルヲ知シメシ、ワレハ光ヲツクリ又ク
 フキヲ創造ス、ワレハ平和ヲツクリマダ禍害ヲサウザウス我
 ハエホバナリ我スベテユレヲノ事ヲナスナリ
 第貳條 神ノ支配ハ微少ナルユトニモ及ベリ
 其証據

一目 此ノ説ニハ反對論ヲ唱フルモノアルヲ聞カズ若シ微
 少ナルモノハ神ノ支配ヲ及ボスダケノ價直ナシトスレバ何
 ガ爲ニ之ヲ造ルノ勞ヲ取レリトスルカ己ニ造ルノ價直アリ
 トスレバ亦之ヲ支配スルノ價直ヲ有スルハ當然ト謂フ可シ
 試ニ顯微鏡ヲ以テ微少物ヲ調査スルニ愈々微少ナルニ隨テ
 愈々精巧美妙ヲ極メリ之ニ反シテ其人工ニ係ルモノハ一見
 美ナルガ如シト雖モ顯微鏡ノ照ス所トナリ五百倍或ハ千倍
 ト次第ニ高度ヲ加ヘテ調査スレバ粗惡拙劣殆ンド看ルニ耐

ヘザルモノアリ此ノ比較ハ以テ神ノ大能秋毫ノ末ニ及ブヲ
 察スルニ足ラン
 二目 物ノ大ハ則ハ、ナ其小ヨリ成立チ又大ナル物ハ此小ナ
 ルモノト甚ダ密着ノ關係ヲ有スルニアラズヤ宇宙ノ大モ粒
 ヲヨリ成リタルニ外ナラズ引力ノ如キ大作用ト雖モ基ヅク
 所ハ分子ト分子ニヨリテ生ヅルモノナリ大海ヲ覆ヘスガ如
 キ大瀑布ナイヤガラノ壯觀モ滴々ヨリ來リ其一滴中亦幾百
 万ノ分子ヲ含有スルヲ想フベシ理學者ノ説ニ縁レバ「イン
 ナ」立方ノ空氣中ノ分子ハ3000,000,000,000,000ノ數ナリト云ヘリ又
 麝香凡ソ二厘目ヲ取テ一室中ニ措ケバ所在ノ物品悉ク其香
 臭ニ燻ズルニ至ル斯ノ如キモノ二十年ニシテ後精密ノ秤ヲ
 以テ量目ヲ驗スルニ以前ヨリ更ニ減少シタルヲ覺ユル能ハ
 ズト又蜘蛛網六十匁目ノ糸線ハ地球ヲ一千回繞ラスノ延長

アリ溜水一隅ノ中ニハ五億ホトノ微蟲ヲ宿セリ又微蟲ノ増殖スルヲモ甚ダ驚クベキモノアリ「サイクロパス」(Cyclops)一匹ヨリ四十個月間ニ殆ソト二千億ホトノ同類ヲ生シ又他ノ或類ニ至テハ僅ニ四日間ニ殆ソト二千億ホトノ増殖ヲ爲スト云ヘリ其微細如此ト雖モ神果シテ此ノ宇宙ヲ支配セラル、其ハ同シク肉眼不達ノ微分子ニマデ及バザルベカラズ回々教ノ祖師マホメットノ傳記ヲ見ルニ彼ノ尙ホ勢力ノ乏シキニ當リ敵ノ追ル所トナリ遁レテ一岩洞ノ中ニ匿ル適々蜘蛛ノ外ヨリ洞口ヲ閉ヅルアリ追者來リ見タレハ人ノ入ルモノニアラズトシ捜サズシテ過ク爲メニ危急ノ一命ヲ全スルヲ得タリ此ノ一事ニヨリテ一大新宗教現出シ世界ノ歴史ニ大變動ヲ與フルコトハナレリ又英國ヘステンクスノ戰爭中一兵卒ノ放タル流矢ハ端ナク英王ハロードノ眼ニ當リテ死ニ至

ヲシメリ是ヨリ勝利ハウヰリヤム大王ニ歸シ爾來系統今日マデ英國ニ君臨スルニ至レリ又十六世紀ノ頃前者無敵ト誇稱シタルイスパニヤノ艦隊ハ(Spanish Armada)ハ大擧シテ英國ヲ襲ヒ眼中ブリテン無キノ有様ナリシガ暴風ノ覆滅スル所トナリテ形跡ノ見ルベキナキニ至レリ彼ノ空前ノ壯圖ヲ懷テ天涯万里ノ航海ヲ企テシクロンブスノ船ハ始メ恰モ今ノ合衆國ニ當レル方向ニ進ミツ、アリシガ一群ノ鳩南空ヲ指シテ飛往ヲ望見シテ必ズ陸地ノ處在ヲ示ト俄ニ水路ヲ轉シテ其行跡ヲ追ヒ遂ニ西印度島ヲ發見スルニ至レリ此ノ時モシ鳩ノ導ナカリセバ船ハ北方沿岸ニ達シテ其土地ハ則ハチスベインノ所領ニ歸シ後年清教徒ヲ移住セシメ以テ大國民ノ基ヲ開カシムルノ運ニ至ラザリシナル可シ

又十八世紀ノ頃佛國ノ軍艦ガ米國ニユー・インランド州ニ向
 テ戰端ヲ開キシ時暴風ニ逢フテ覆沒セリ
 又南北戰爭ノ未ダ戰戈ヲ交ヘザルニ當リ南方不穩ノ舉動ニ
 對シ硬軟孰ノ手段ニ出ヅベキカ北方ノ輿論二派ニ分レ容易
 ニ決スベクモ見ヘザリシガサムター城塞Fort Sumpter——ニ在ル
 南方ノ軍先ヅ七發ノ巨砲ヲ放テリ其砲聲ノ響ト共ニ大ニ北
 方ノ人心ヲ激動シ二派忽チ聯合シ異口同音ニ斷然銃火ニ訴
 テ反賊ヲ鎮定スベシ是吾人ノ責任ナリト呼バシマタリ
 又ナボレオンハ毎日時刻ヲ期シテ郊外ニ運動スルヲ常トセ
 シガ兎徒アリ彼ヲ斃サント企テ或日街路ノ地中ニ硝藥ヲ籠
 メ其馬車ノ過グル刻限ヲ計リテ破裂セシムルノ裝置ナリシ
 ガナボレオンノ此ニ近クヤ蒼蠅飛テ馭者ノ鼻上ニ止マル馭
 者ハ氣色ノ悪キニ耐エズ手ヲ伸ベテ拂ハントシ思ハズ手綱

ヲ緩ムレバ馬ハ步調ヲ亂シテ躓ケ出シ遙カ彼方ニ達シタル
 頃機ニ遲レテ天ヲ突クノ猛火ハ地ヲ破テ轟然タリシ尙シ此
 ノ小羽蟲ナカリセバ歐洲ノ局面ハ彼ノ如クアラズ從テ歴史
 上ニ大關係ヲ來タセシナラン
 以上數例ヲ觀察シ來レバ大ナルモノガ小ナルモノト甚ダ密
 着ノ關係ヲ有スルモノナルコトヲ知ル可シ又列王紀上廿二
 章三十四節(以上帖記六章一節)使徒行傳廿三章ノ十六節ヲ見
 ル可シ)

三目 聖書ヨリ舉証ス神ハ天空ノ小禽頭髮ノ毫末ニマデ其
 支配ヲ及ボスユトヲセリ(馬太傳六章廿六節ヨリ三十節マデ
 全十章廿九節。路加傳十二章廿四節ヨリ廿八節。詩篇百四十七
 篇九節ヲ見ル可シ)
 第三條 神ノ支配ハ天然法ニヨリテ全般一様ニ行ハル

宇宙法則ノ一樣ナルヲハ凡テノ學者共ニ承認スル所ナリト雖モ或者ハ天然法則ハチ神ナリト主張セリ又神ノ支配ノ法方ニツキニ箇ノ反對說アリ一ハ神ハ全ク物質ノ外ニ在リト云ヒ大初ニ宇宙ヲ造リ同時ニ天然法ヲ與ヘシノミニテ以來全ク直接ノ關係ヲ有セズ宇宙ハ恰カモ時器ノ如ク天然ノ法則ニ從テ自ラ運動スルナリト若シ此ノ說ニ從エバ神ハ折々宇宙ノ原動力タル彈機ヲ卷クニアラザレバ其作用ヲ失フト云フニ至ル所謂「デーイズム」(Deism)是ナリ又一ハ神ガ萬有ノ中ニ在リテ其作用ヲ顯スナリト然ラバ萬物ニ一定ノ法則ノ存ズルハ云フマデモナク神已ニ全智全能ナラバ全般一樣ノ統轄ヲ爲スモ亦當然ナリト謂フ可シ之ヲ聖書ニ徵スルニ能ク第二說ノ趣意ニ恰當セリ(詩篇十八篇七節ヨリ十五節マデ。全七十七篇十七節ヨリ十九節マデ。全百三篇九節。全百四篇三三

節及ヒ廿四節ヨリ卅四節。使徒行傳十七章廿七八節。以弗所一章廿三節。哥羅西一章十七節ヲ見ル可シ)但シ第二說ヲシテ極端ニ走ラシムレバ所謂「パンチイズム」(Pantheism)ト爲ルベシ故ニ第一二共ニ極端ノ說ヲ取ルベカラズ爰ニ最モ善ク説明シタルモノヲ云ヘバ神ハ万物ノ上ニ在リ又万物ノ下ニ在リ神ハ万物ノ外ニ在リ又万物ノ内ニ在リ内ニ在リト雖モ其包ム所トナルニアラズ外ニ在リト雖モ敢テ之ト離ル、ニアラズ上ニ在リト雖モ獨リ高ク坐スルニアラズ下ニ在リト雖モ敢テ屈シテ伏スルニアラズ上ニ在テ之ヲ治メ下ニ在ツテ之ヲ保テ且ツ万物ノ中ニ在テ之ヲ生カシ之ヲ運動セシメ又其大目的ヲ就成セシメンガ爲ニ變遷進化セシムルモノナリトノ說是ナリ試ニ物質力ヲ調査スレバ實ニ奇妙ナル關係アルヲ發見ス可シ例令バ引力ハ兩箇距離ノ比例ノ反對ニ從テ作用

示シ化學的合力ハ其距離ノ立方ノ反對ニ從テ作用ヲ示
 シ抵抗力ハ其距離ノ五乗ニ反對セリ又各種ノ結晶躰ヲ驗ス
 ルニ其現象ハ各固有ノ法則ニ從テ結晶セリ例セバ硫黃ハ八
 面金ハ六面銀ハ八面「トマン」ハ十二面食鹽ハ六面ノ品ヲ爲ス
 ノ類ナリ此等ハ以テ神ノ働ニ於ケル法方ノ一斑ヲ窺ニ足ル
 ベシ即ハ十神ハ力ヲ以テ凡ノ物質ニ在テ働ク所ノモノナレ
 バ神ガ天然法ニ從テ其作用ヲ爲スユトハ平常普通ノ法方ニ
 屬シ彼ノ奇跡ナルモノハ常理外ニ於ケル一種ノ作用タルナ
 リ

第三項 心靈上ノ支配則チ道德上ノ支配

甲ノ部 理論

第一條 道德性アルモノ、義務ノ性質、基礎、及ビ限界

一 目 義務ノ性質ヲ考フルニ苟モ道德性アルモノハ必ズ此

欠

MISSING

ノ感覺アリ而カモ人類一般ニ供有スルモノニテ他ノ動物ニ
比シテ最モ異ナルノ点專ラ之レニ在リトス
二目 義務ノ因テ生ズル基礎ニツキテハ古來諸説紛々ダリ
第一ハ人爲ノ法律則チ是ナリト云フ而カシ此ノ所説ニ從エ
バ尙シ人爲ノ法律ナキ時ニハ義務モ亦之レ無シト謂フベキ
カ第二ハ神ノ法律則チ是ナリト云フ而カシ神ハ何が爲ニ其
律法ヲ設ケシカ全能全智者ハ未ダ相當ノ理由ナクシテ斯ル
コトヲ爲サザルナリ第三ハ廣益トナルベキ事則チ是ナリト
云フ而カシ廣益トナルベキコトハ何故ニ爲スベキモノナル
ヤ第四ハ第三説ト聯絡チ有シ正義則チ是ナリト云フ而カシ
義ハ何故ニ義ト稱シ得ラルベキカ第五ハ此ノ基礎チ事物自
然ノ理ニ歸セリ而カシ自然ノ理ハ何物ニ基キ何チ以テ礎ト
スルカ無神論者ナレバ物質チ以テ無限ノ始メヨリ存在スル

モノトシ之ヲ神トスル故ニ自然ノ理ヲ以テ基礎トスルモ敢テ不可ナキガ如シト雖モ有神論者ニ至テハ則チ神ハ万物ト其關係ノ造主ナリトセリ左レバ所謂ル自然ノ理ハ神ト甚ダ密接ノ關係ハナキカ第六ハ神ノ性質則チ其基礎ナリト云フ神ハ自己ノ性質ニ象リテ萬有ヲ造リタルニ由リ事物ノ自然モ又義務ノ礎モ皆神ノ性質ニ基キタルモノト見ヘタリ故ニ若シ神ノ性質ハ萬有自然ノ中ニ包含セリト云ハゞ義務ノ基礎ハ第五説ノ如シトスルモ敢テ不可アルナシ(約百記十一章七八九節。羅馬書十一章三十六節ソハ万物ハ彼ヨリ出カレニ倚カレニ歸レバナリ願クハ世々榮神ニアレアーメン)左スレバ道德上ヨリ云ヘバ神ノ義務ト人ノ義務トハ互ニ類似シタルモノト謂フ可シ神ハ靈体アルモノヲ創造シ特ニ之ヲ自己ノ性質ニ象リタル故ニ此靈体物ノ義務モ其造主ノ義務モ自

チ異ナル所ナシト見ヘタリ故ニ義務ノ基礎ハ共ニ自然ノ理ナルモノニ置ケリ而カシ人間ノ性質モ神ノ性質モ共ニ此自然ノ理ノ中ニ包含セルイチ忘ルベカラズ大學教授ハリス氏ハ自著有神論ノ基本中ニ(Prof. Harris' Fundamental Basis of Theism)義務ヲ以テ神ノ限りナキ智慧ニ基ケリトシ此ノ宇宙ノ大原因ハ生ケル「ポルソナ」ナル自由自在絶對ノ神ナリト爲ス而シテ凡ノ眞理凡ノ律法凡ノ理想凡ノ智慧ハ悉ク根源チ神ニ置ケリ所謂ル自然ノ理トハ則チ此等ノモノヲ云フ而シテ神ハ其智慧慈愛ニ從ヒ宇宙ニ於テ絶ヘズ此等ノモノヲ示現セラル、ナリ

三目 道德性アルモノ、義務ノ限界

義務ノ限界ハ各自力量ニ適應スル所ヲ以テ度トス縱令ハ比叙山ヲ移シテ琵琶湖ニ投セヨトノ命令アリトスレバ其力量

ノ及ブダケノ土石ヲ採テ湖中ニ投ヅルノ義務アリトス又キ
 リストノ最後ノ命令ノ如キ(爾曹ニキテ萬國ノ民ニバアテス
 マチ施シ之ヲ父ト子ト聖靈ノ名ニ入テ弟子トシ且ワガ凡テ
 爾曹ニ命ゼシ言ヲ守レト彼等ニ教ユ云々。馬太傳廿八章十九
 廿節)固ヨリ吾人ハ世界億兆ノ民ニ傳道スルコト能ハズト雖
 モ吾人ノ及ブダケノ能力智慧財寶ヲ傾ケテ從事スベキノ義
 務アルガ如シ支那ニ趁蹶ナル一老嫗アリ自ヲ謂ラク隣佑郷
 黨ハ我ガ傳道シ得ベキナリト雖モ到底万里ノ行ニ耐ヘザレ
 バ基督ノ命令ヲ奉ヅルコト能ハズ故ニ其教會員タルノ價直ナ
 キモノナリトセリ是レ義務ノ限界ヲ謬リタル一例トス而カ
 シ此命令ニ關スル信徒ノ義務ハ其趣意ヲ大目的ト爲シ以テ
 百般ノ事ニ從フベシ學窓ニ學業ヲ脩ルモノモ市場ニ商賣ヲ
 營ムモノモ國政ニ關與スルモノモ農工ノ事業ニ勞役スルモ

ノモ其他如何ナル地ニ往キ如何ナル境遇ニ處シ如何ナル業
 務ヲ任ズルニセヨ又其爲ス所ノ細末ノ点マデモ盡ク此大目
 的ヲ就成スルコトヲ旨トシテ決定セズンバアル可カラズ彼ノ
 (爾心ヲ盡シ精神ヲ盡シ意ヲ盡シ主ナル爾ノ神ヲ愛スベシ己
 ノ如ク爾ノ隣ヲ愛スベシ。馬太傳廿二章卅七節及ヒ三十九節)
 トノ如キハ聖靈ノ扶ケナクハ人間トシテ此ノ二個ノ命令ヲ
 全ク成就スルモノハ未ダコレ無シト雖モコノ爲サステフコ
 トハ爲シ能ハステフコトニハ非ズ唯爲シ能フノ力アリト雖
 モ之ヲ用ユル自己ニ於テ足ラサル所アルガ故ノミ之レト同
 シク聖靈ノ扶ケナクハ再生モ亦望ムベカラズ然リト雖モ再
 生ヲ得ザルハ罪アル人間トシテ正ニ爲サザル可カラザル事
 ナ自ヲ爲スチ好マザルノ過ニ座スルナリ(爾曹ヲガ所ニ生チ
 得ンガタメニ來ルチ欲ズ。約翰傳五章四十節)蓋シ彼ノ爲サヌ

テフユトヲ屢々重テ其僻習ヲ強固ニスルハ即チ爲シ能
 ハズテフユトニ類似スルニ至ル可シ
 第二條 道德上働キノ性質
 此働ハ元來身体ノ運動ニ屬セザルヲ以テ禽獸及ヒ白痴赤兒
 等ノ決シテ與ルヲ得ザルモノトス則チ智慧アリ徳性アリ又
 善惡ヲ辨識スル能力ヲ俱フルモノガ其義務ト認メテ自由ノ
 撰擇ニ出デタルモノヲ指シ即チ道德上ノ働トハ云フナリ故
 ニ夢ノ如キ或ハ自然ニ浮ブ思想ノ如キハ道德上ノ働トシテ
 論ゼズ必畢此等ハ平素ニ於ケル其結果タルノニ倚シ故意ニ
 惡念邪情ヲ狹ムニ至テハ則チ罪タルヲ免レズ或人ノ言ノ如
 シ不意ニ飛鳥ノ來テ片時頭頂ニ止マルコトハ防グ能ハズト
 雖モ其棲巢ヲ營ムニ至テハ之ヲ防グコトヲ得ベシ吾人ノ思
 想ニ於ケル亦然ヲザルヲ得ザルナリ又他ノ事件ニ於テハ能

ク道德上ノ働ニ耐ユルモノト雖モ其事ヲ爲スベキ義務ノ感
 情更ニ催サザル場合ニハ之ヲ行ハザルモ罪トセズ假令バ幼
 稚ノ時慈嚴ノ膝下ヲ遠ク離レタルモノガ成人ニ至リ適々父
 母ニ邂逅スト雖モ其親タルユトヲ知ラズシテ相當ノ待遇ヲ
 缺ケバトテ罪トセザルガ如シ何ントナレバ未ダ其父母タル
 チ知ラザレバナリ但シ子女タルモノ平生更ニ親ヲ慕フ心モ
 ナク或ハ所在ヲ尋子ントモ爲サザルニ於テハ即チ罪ナリト
 ス我々人間ト天父トノ關係恰モ如斯モノアリ未ダ全ク天父
 チ知ラザル當時ニ在テハ之ヲ禮拜セザルモ強チ罪ト云ハズ
 然レモ天父ノ存在ヲ想フテ尋子求メザルノ罪ハ決シテ推諉
 スル能ハザルナリサウル大王ガ戰爭ノ際終日斷食スベキ
 チ命令シタルハ其子ヨナマンハ禁令ノ出デタルヲ知ラズシ
 テ蜂蜜ヲ喰ヘタルガ如キ(撒母耳前書十四章ヲ見ユ)或ハ使徒

ボウロガ祭司長ニ向テ粉聖タル壁ニ神ハ爾ヲ擊ン云々ト言
リタルガ如キ未ダ其祭司長タルコトヲ知ラザルニ出デタル
ナリ(使徒行傳二十三章一節ヨリ五節ヲ見ユ)故ニボウロトヨ
ナタンノ言行ハ共ニ罪トシテ論セザルナリ

第三條 本心ノ性質ト働キ

一目 本心ノ性質

人間ノ心ハ能ク善惡ヲ辨別シ又義務ヲ感覺ス而シテ道德心
ハ智慧ノ判斷ニ訴テ善ヲ勸メ惡ヲ戒ムルナリ彼ノ智慧經驗
及ビ判斷力ハ以テ事物ノ善惡ヲ明晰ニスルノ用ニ供シ道德
心ハ獎勵ト警戒トヲ命令スルモノトス

二目 道德心ノ働キ

(一) 善ヲ爲スユト、惡ヲ爲スユト、ハ全ク反對ノ區別アルヲ
識認スルコト

(二) 善ハ爲ス可シ惡ハ爲ス可カラズト感覺スルコト

(三) 義務ト知テ其事ヲ爲セバ自ラ賞セラル、所アリ爲サレ
バ自ラ責メラル、所アルコト

(四) 善惡ノ行爲ニ從テ喜憂苦樂ヲ感ズルコト

(五) 義務ト知テ其事ヲ爲セバ神タルモノ、賞ル所トナリテ恩
賜ヲ得ベク又爲サレバ同ク其責ムル所トナリテ懲罰

ノ免レ難キヲ感覺スルモノナリ今日マデ道德心ニツキ世ノ
論評スルモノヲ視ルニ往々道德心ノ區域ト智慧判斷トノ區
域ヲ明白ニセザルヨリシテ種々ノ混雜ヲ惹起スユト、ハナ
レリ若シ如斯此等ノ區域ヲ分別シテ論セザルトキハ甚ダシ
キ謬誤ニ陥リ易キモノアリ道德心ノ働ハ其有スル智識ノ情
況如何ニ因ルモノトス元來道德心ハ某ノ行爲ハ善ナリ又惡
ナリト判定ヲ下サズ個々別々ニ智慧經驗又智識ニ由リテ彼

是ノ善惡ヲ判斷スルニ過ギズユノ故ニ本心ハ如何ナル時ニ
モ誤ルコトナク善ヲ爲ス可シ惡ヲ爲ス可カラズト勸メテ止マ
ズ抑モ道德心ハ智慧經驗智識及ビ判斷力ノ爲ニ光明トナル
可シト雖モ此心ハ決テ何物ガ善又惡ト是非ノ判定ヲ下スモ
ノニアラザルコトヲ記憶セザル可カラズ之ガ爲ニ人々ノ別
ト邦土ノ異ルトニ由リ某ノ事件ヲ以テ或ハ善ナリトシ或ハ
惡ナリト斷定シ時ニ彼是相反スルコトアリ而カシ道德心ノ
勸ハ如何ナル時代如何ナル人種如何ナル邦土如何ナル人物
ニ拘ハラズ古今同一轍ニ出ヅルモノニテ彼ノ善ヲ爲ス可シ
惡ヲ爲ス可カラズトノ勸告即チ是ナリ例令ハ印度人ノ母親
ハ其道德心ノ勸ニ從テ己ノ兒女ヲガンジニス河ニ投ヅルモ
ノアルガ如シ是智識ノ足ヲザルユリ誤レル判斷ヲ下シ其所
業ヲ善事ナリト思フガ故ナリ而カシ我々ノ本心ニ於テハ如

斯コトヲ大ニ咎メ決テ爲スベキニアラザルコトヲ勸ムルニ
アラズヤ然ラバ人間タルモノハ如何ナル時ニモ道德心ノ勸
ムル所ニ服従ス可キ筈ナルカ又其勸ニ從フコトハ善事ナル
ガ然リ固ヨリ不長ノコトニ非ズト雖モ其何事ヲ以テ善トシ
又何物ヲ以テ惡トスルカノ点ニ附キテハ能ク之ヲ考察測量
シ其判斷ヲ下スニ當リ充分智慧ト智識ノ力ニ訴ヒ且本心ノ
光明ニ照シテ後斷定スベキモノタリ倘シ之ヲ輕忽ニセバ其
判斷ノ誤ナルハ勿論ナルベク隨テ罪ノ判斷ナリト謂ハザル
ヲ得ズ又人間ノ心ハ平素道德心ノ勸ムル所ニ逆ヒ頑固ヲ極
ムルニ至テハ其勸ノ小部分ノ外感覺ヲ與ヘズト雖モ本心ハ
尙存在シ常ニ活動シツ、アルモノニテ而モ各自ノ心中ニ於
テ永遠限リナク生存シテ働カントスルモノナリ故ニ彼ノ來
世ニ於テモ或ハ惡魔或ハ極惡人ニ於テモ此本心ハ依然生存

シテ其感覺ヲ誤ルコトナク又衰弱スルコトナク活動シテ止
 マザル可シ惡者ソレ自身ハ何程衰フモ又何程道德心ニ逆フ
 事ナスルトモ縱令足下ニ蹈附ルトモ凜手儼然タル道德心ハ
 何時モ心ノ爲サマリシ所ノ義務ヲ追懷セシメ又受ント欲セ
 バ受ケ得ベカリシ永遠ノ生命及ビ神ノ榮光慈愛ヲモ感覺セ
 シム可シ聖書ニ所謂ツキザル蟲キエザル火ノ原因タルモノ
 ハ即チ道德心ノ働キナリト想ハル、也(馬可傳九章四十八節)
 第四條 意志ノ性質ト働キ
 意志ノ性質ハ撰擇ト執意ヲ爲スノ力ナリ此ノ働キニ必要ナル
 モノ二種アリ即チ第一ハ爲ス事柄第二ハ爲スノ旨意トス旨
 意ナケレバ自己ハ執意ヲ爲スコトナケレバナリ意志ノ撰擇ト
 ハ即チ旨意ト旨意トチ比較シ其輕重ヲ計リ孰ノ旨意ニ從テ
 撰擇ス可キカチ決斷スルコトナリ又執意トハ執意ヲ爲スコ

トニテ即チ撰擇ニ從テ之ヲ成就スルコトヲ云フ例令ハ一青
 年アリ同志社ニ入學セントノ志望ヲ懷キ先其利害得失ニ關
 スル二箇ノ旨意ヲ計較ス而シテ入學スルヲ以テ得策ナリト
 判斷セバ父母ノ許諾ヲ請ヒ學資ヲ求ムベシ斯テ凡ノ準備整
 ヘ西京ニ來リ入校スルヲ得ルニ及テ此意志ノ撰擇ハ完ク成
 効ヲ告タリトス又旨意ニ二種アリ一ハ欲望ニ屬シ一ハ義務
 ニ屬ス時ニ彼是相合スルコトアリ或ハ相反スルコトアリ青
 年ハ頻ニ學業ヲ脩ント希望シ而親モ亦之ヲ承諾スル前例ノ
 如キハ二者相合コトヲ得シモノトス又青年ハ如何ニ熱望ス
 ト雖モ老親奉養ノ義務アリテ膝下ヲ去リ遊學ノ途ニ就クヲ
 得ザルコトアリ斯ル場合ニハ二者相反スルモノトス
 第一問 心ハ如何ナル時ニモ其最大ノモノニ向テ撰擇ヲ爲
 スモノナリヤ

各自々己ニ於テ孰ノ旨意ガ最大ナルカヲ辨別シテ後之ヲ撰
 擇ス心ハ旨意ヲ見テ擇ム所ヲ決スルト雖モ此働キノ力ナル
 モノハ旨意ニアラズシテ自己ニアリ故ニ事實上ヨリ云へバ
 甚ダ劣等ノ旨意ニ從テ撰擇スルコトアルヲ免レズ青年學生
 ノ校舍ニ在ル能ク校則ヲ守リ其課業ヲ勉メ高尙ノ智識品格
 ヲ養生スルガ最大ノ旨意ナルニ却テ不良ノ友人ニ誘ハレ酒
 色ノ快樂ニ耽ルモノアルノ類ナリ即チ其誘引ノ始ニ於テ先
 孰ノ旨意ガ其身ニ關シ最大ナルヤヲ取捨決定スルノ力ヲ具
 有セリソハ人間ノ心ハ機械的作用ニアラズ自由性ヲ有スル
 モノナレバナリ

第二問 意志ハ自由ナルモノナリヤ
 其定義 意志ノ自由トハ他ヨリ壓制セラル、ユト無ク其好
 ム所ヲ撰擇スルノ力ナリ即チ現實ニ擇ムモノヲ擇ミ又現實

ニ擇バザルモノヲモ擇ム力ナリトス
 前例青年ノユトヲ仮リテ辨明スレバ彼モシ學生ノ眞面目ヲ
 保ツント欲スルモ心ノマ、ナリ又酒色ノ快樂ヲ貪ルノ不正
 ナルヲ知テ尙之ヲ爲スモ心ノマ、ナルガ如シ
 人間自由ノ証

一目 人間ガ自由ナリトハ一般普通ノ所説ナリトス
 二目 人間ノ本心ハ實ニ此説ヲ承認シ各自己ノ自由ナルコ
 トヲ疑フモノナシ已ニ自由ナルガ故ニ己ノ義務ヲ感ヅルニ
 至ルナリ

三目 倘シ此説ヲ拒ミテ論ゼントスルトキハ結局宿命説ト
 ナルヲ以テ寧ロ人間ノ自由ナルコトヲ反証スルモノナリ何
 ソトナレバ宿命説ハ人ノ行爲ヲ機械的トナシ義務ナルモノ
 ヲ擧テ滅スニ至ラン機械的作用中ニ義務ノアルベキ筈ナキ

ナ以テナリ而カシナガラ前述スル如ク實際上吾人ハ健ニ己
 ノ自由ナルコトヲ感シ又己ノ義務ヲモ感ズルニアラズヤ
 四目 一見或ハ自由ニ制限アルガ如クナレハ其制限ハ未ダ
 眞ノ制限ト謂フ可カラズ或ル傾向ハ甚ダ有力ナリト雖モ必
 ズシモ之ニ從フ可キニアラズ蓋ハ吾人ノ專心慕フテ止マザ
 ルコトニテモ同時ニ其正反對ヲ擇ムノ力ヲ有スルヲ以テ知
 ル可シ境遇事情等ノ制裁ハ未ダ自由ヲ左右スル程ノ妨害ト
 ハナラズ何ントナレバ心ハ依然トシテ現實ニ擇ムコトノ反
 對ヲ擇ムノ力アルヲ以テナリ
 五目 人間ヲ自由ナリトスルハ聖書ノ赴ニ合ヘリ其記スル
 所ノ命令訓誡及ビ賞罰ハ悉ク自由ナル者ニ適用シアルヲ視
 ル可シ
 第三問 人間ノ自由ハ神ノ支配ニ逆フ所ナキカ

既ニ前述スル如ク神ハ形骸上ヲ支配スルト同一ノ方法ヲ以
 テ靈体上ニ施サズ其己レニ忠實ナル者ヲ支配サル、ヤ常ニ
 旨意ヲ以テ導クコトヲ爲セリ之アルガ爲ニ諸靈物ハ此旨意
 ナ見モシ感シモシテ神ノ導ク所ニ從フニ至ル但シ當時ト雖
 モ尙シ之ニ逆ハントスレバ逆ヒ得ベシ而シテ尙忠實ナラン
 コトヲ求ムルノミ又一方ニ於テハ其導ニ逆ヒ反對ノ道ニ歩
 ムモノ尠トセズ蓋シ滔々タル不信徒社會ノ實況ナリトス左
 スレバ神ニ忠實ナルモノニ在テハ現實ノ撰擇ハ其支配ニ適
 ヒ故ヲニ反對ヲ撰擇スルノ力ハ人間ノ自由ニ適フモノナリ
 尙神ノ企圖ノ論ニ詳説ス可シ

乙ノ部 實際論

神ハ道德性ヲ有スルモノヲ支配スルコト
 第一條 神ハ其支配ヲ行フ

一 目 道德性アルモノ、必要ヨリ論証ス
若シ神ノ支配ノ行ハレザルトキハ忽チ混雜遺憾衰頽滅亡等
ノ來ルコトヲ免レズ

二 目 神ノ性質ヨリ論証ス

神已ニ道德性ヲ有スルモノ、造主タレバ支配者タル特權ヲ
モ有スベク又唯神ノミ能ク其必要ニ應ガテ全智全能ヲ用キ
得ベシ故ニモシ凡ノモノ、望ヲ空フシテ施ス所ナシトセバ
未ダ善徳アルモノト謂フ可カラズ且支配ノ必要アルニ拘ハ
ラズ之ニ應ズルノ道ナシトセバ何故ニ此靈体物ヲ造リタル
ヤ更ニ解セザルナリ

三 目 人間ノ道德心ノ性質ヨリ論証ス

此心ハ善惡ヲ辨識スルノ力アリ善ヲ爲ス可シ惡ヲ爲ス可カ
ラズトノ命令力アリ又善惡ノ行爲ニ從テ或ハ賞シ或ハ責ム

ルコトヲ爲セリ加旃來世ノ豫報ヲ爲シテ其賞罰アルコトヲ
感ゼシム試ニ蒸氣船ノ「エンジン」(Engine)ト稱スル機關ヲ調査セ

ヨ火爐蒸罐等アリ又進退動止ノ作用ニ適セル器具等ヲ具ヘ
リ吾人ハ之ヲ看テ其必ズ機關司ノ支配ヲ受ル爲ニ製造セテ
レタルモノト判定スルヲ遲疑セザル可シ之ト等シク人間ノ
性質ヲ考察スル時ハ必ズ道德的勸誘ノ支配ヲ受クル爲ニ造
ラレタルモノナリト斷定セザルヲ得ズ而カシ人間ハ固ヨリ
蒸氣機關ト日ヲ同フシテ語ルベキモノニ非ズ苟モ自己承認
ノ上ナラデハ其働モナク責任モナシ神ハ道德的理法ニ應
テ旨意即チ動機ヲ用キ聖靈ヲ以テ導キ與フト雖モ吾人ハ能
ク之ニ從ヒ或ハ之ニ逆フノ力ヲ有セリ彼ノ忠實ニ神ニ事フ
ルモノニ至テハ常ニ其導ノ中ニ在テ運動スルモノトス迷フ
タル天使或ハ人間ノ中ニハ道德心ノ勸メ聖靈ノ導ニ逆ヒ常

ニ神ニ背クモノ妙カラズ已ニ前述スル如ク神ハ斯ルモノヲ支配スルニ至テハ更ニ異ナル方法ヲ以テセラル、ナリ
 四目 賞罰ヨリ論証ス
 獨乙ノシユ一ヲ一ハ世界ノ歴史ハ即チ詭罰ノ歴史ナリト云ヘリ看ユ一個人トシテ亦一國民トシテ此世ナガラニ概チ其所業ニ應ジテ相當ノ報ヲ受クルヲ免レズ大ナル不義ヲ行ヒ酷キ壓制ヲ行フトキハ非常ノ困難痛苦衰頹等ノ慘狀ヲ招ニ至ル可シ例令ハ羅馬帝國ノ如シ彼レ武力ノ壓制ヲ逞フシ頻ニ諸國ヲ討滅シ幾千万ノ生靈ヲ土炭ニ陥レ或ハ基督信徒ニ對シ殘虐到ヲザルナキ迫害ヲ加ヘテ殺戮ヲ恣ニシマリシガ後年遂ニ北狄蠻人ノ蹂躪スル所トナリテ土崩瓦解如何トモスベカラザルノ運ニ歸セリ
 ニ一ロ帝ハ羅馬歷朝ノ最モ殘忍無道ヲ極メシモノナルガ着

ルモ悚然タル煩悶苦惱ノ中ニ自殺ノ最後ヲナセリ
 羅馬法王ノ如キモ敢テ威權ヲ貪リ自ヲ神ノ代理者ト稱シ心ニ任セテ各國帝王ノ廢立進退ヲ爲シ或ハ敬虔ナル基督信徒ヲ苦シメテ殺害ヲ行フナド頗ル暴橫ヲ極メシガ今ヤ其位ヨリ墜サレ艱難辛苦ノ狀昔日ト天壤唯ナラザルモノアリ
 佛國ニ於テハ一千五百七十二年八月廿四日「セント、バルトロミユ」ノ祝日(Saint Bartholomews' day)ヲ期シ謀計ヲ設テ突然新教ノ學者牧師タル者ヲ殺シ且同教數十萬ノ信徒ヲ迫害シ或ハ國外ニ放逐シタルアリ又十八世紀ノ終リ頃同國々會ハ上帝モ來世モ無キモノナリトノ議決ヲ爲セシガ慘怛タル殺氣ハ忽チ四面ヲ蔽ヒ醒風血雨天日暗ク無情ノ斷頭機ハ頻ニ旋轉シ被害者ノ肉未ダ冷ナラザルニ加害者又其跡ヲ等フス如斯モノ前後十年世ニ怖ロシキ革命ノ大悲劇ヲ演ズルノ結局ト

ニ神ニ背クモノ妙カラズ已ニ前述スル如ク神ハ斯ルモノヲ支配スルニ至テハ更ニ異ナル方法ヲ以テセラル、ナリ
 四目 賞罰ヨリ論証ス
 獨乙ノシニユーライハ世界ノ歴史ハ即チ詭譎ノ歴史ナリト云ヘリ看ユ一個人トシテ亦一國民トシテ此世ナガラニ概テ其所業ニ應ジテ相當ノ報ヲ受クルヲ免レズ大ナル不義ヲ行ヒ酷キ壓制ヲ行フトキハ非常ノ困難痛苦衰頹等ノ慘狀ヲ招ニ至ル可シ例令ハ羅馬帝國ノ如シ彼レ武力ノ壓制ヲ逞フシ頻ニ諸國ヲ討滅シ幾千万ノ生靈ヲ土炭ニ陥レ或ハ基督信徒ニ對シ殘虐到ラザルナキ迫害ヲ加ヘテ殺戮ヲ恣ニシヨリシガ後年遂ニ北狄蠻人ノ蹂躪スル所トナリテ土崩瓦解如何トモスベカラザルノ運ニ歸セリ
 ニ一ロ帝ハ羅馬歷朝ノ最モ殘忍無道ヲ極メシモノナルガ着

ルモ悚然タル煩悶苦惱ノ中ニ自殺ノ最後ヲナセリ
 羅馬法王ノ如キモ敢テ威權ヲ貪リ自ラヲ神ノ代理者ト稱シ心ニ任セテ各國帝王ノ廢立進退ヲ爲シ或ハ敬虔ナル基督信徒ヲ苦シメテ殺害ヲ行フナド頗ル暴橫ヲ極メシガ今ヤ其位ヨリ墜カレ艱難辛苦ノ狀昔日ト天壤唯ナラザルモノアリ
 佛國ニ於テハ一千五百七十二年八月廿四日セント、バルトロミュー」ノ祝日(Saint Bartholomews' day)ヲ期シ謀計ヲ設テ突然新教ノ學者牧師タル者ヲ殺シ且同教數十万ノ信徒ヲ迫害シ或ハ國外ニ放逐シタルヲアリ又十八世紀ノ終リ頃同國々會ハ上帝モ來世モ無キモノナリトノ議決ヲ爲セシガ慘怛タル殺氣ハ忽チ四面ヲ蔽ヒ醒風血雨天日暗ク無情ノ斷頭機ハ頻ニ旋轉シ被害者ノ肉未ダ冷ナラザルニ加害者又其跡ヲ等フス如斯モノ前後十年世ニ怖ロシキ革命ノ大悲劇ヲ演ズルノ結局ト

ハナレリ其後今日ニ至ル迄佛國ハ屢々政治上ノ革命ニ遇ヒ殆ト安然ノ地位ヲ失フタル有様ハ隠ナキ事實ナリトス北米合衆國ノ國體ハ万民同等同位均シク生命自由幸福ヲ全ス可シテフ基礎ノ上ニ置カレナガラ四百餘万ノ奴隸ヲ使役シタリ之ガ爲メ遂ニ未曾有ノ内亂ヲ惹起シ爰ニ南北兵ヲ構ヘ其一千餘個所ノ戰地ニ於テ鉄火ニ斃レ血ヲ流シ骨ヲ曝セシ壯丁ノ數ハ平均一家一人ヅ、ニ當リ或ハ敬愛スル良人ノ生命ヲ以テ或ハ慈愛スル子弟ノ生命ヲ以テ此ノ國罪ヲ贖フノ已チ得ザルニ至レリ

五目 聖書ヨリ舉証ス

凡テ神ノ命令ハ人ノ禍福ニ關ハレリ即チ人ノ道德性ヲ支配セラル、所ノ点此ニ在リトス

汝等我ヲユ、ニ賣シテモテ憂フルナカレ身ヲ恨ルナカレ神

生命ヲスクハシメントテ我ヲ汝等ノ前ニツカハシタマヘルナリ、ユノ二年ノアヒダ饑饉國ノ中ニアリシガ尙五年ノ間耕スコトモ穫コトモナカルベシ神汝等ノ後チ地ニツタヘンタメ又大ナル救ヲモテ汝ラノ生命ヲ救ハンタメニ我ヲ汝等ノ前ニ遣シタマヘリ然バ我ヲ此ニツカハシタル者ハ汝等ニハアラズ神ナリ神ワレチモテバロノ父トナシツノ全家ノ主トナシエヨフト全國ノ宰トナシタマヘリ

創世記四十五章五節ヨリ八節即チエホバ遠方ヨリ地ノ極所ヨリ一ノ民ヲ鵬ノ飛ガゴトクニ汝ニ攻キタラシメタマハンはハ汝ガソノ言語ヲ知ザル民ソノ面ノ猛惡ナル民ニシテ老タル者ノ身ヲ顧ミズ幼稚者ヲ憐マズ(申命記卅八章四十九節五十節)エホバハ殺シ又生シタマヒ陰府ニ下シマタ上ヲシタマフエホバハ貧カラシメ又富シメタマヒ卑クシマタ高ク

シタマフ在弱者ヲ塵ノ中ヨリ擧ゲ窮乏者ヲ埃ノ中ヨリ升セ
 テ王公ノ中ニ坐セシメ榮光ノ位ヲツガシメタマフ地ノ柱ハ
 エホバノ所屬ナリエホバ其上ニ世界ヲ置キタマヘリエホバ
 其聖徒ノ足ヲ守リタマハシ悪キ者ハ黑暗ニアリテ黙スベシ
 其ハ人方ヲモテ勝ツベカラザレバナリエホバト争フ者ハ破
 碎カレンエホバ天ヨリ雷ヲ彼等ノ上ニクダシ地ノ極ヲ審キ
 其王ニ力ヲ與ヘ其膏ツ、ギシ者ノ角ヲ高クシタマハシ(撒母
 耳前書二章六節ヨリ十節)アマシヤエドム人ヲ戮シテ歸ル時
 ニセイル人ノ神々ヲ携サヘ來リ之ヲ安置シテ己ノ神トナシ
 ツノ前ニ禮拜ヲナシ之ニ香ヲ焚リ是ヲモテエホバアマシヤ
 ニムカヒテ怒ヲ發シ預言者ヲユレニ遣ハシテ言シメタマヒ
 ケルニ彼民ノ神々ハ己ノ民ヲ汝ノ手ヨリ救フユトヲ得ザリ
 シ者ナルニ汝ナニトテ之ヲ求ムルヤ彼カク王ニ語レル時王

ユレニムカヒ我儕汝ヲ王ノ議官トナセシヤ、止ム汝ナンゾ擊
 殺サレントスルヤト言ケレバ預言者スナハチ止テ言リ我知
 ル汝ユノ事ヲ行ヒテ君諫ヲ聽イレザルニユリテ神ナンゾチ
 滅ボサント決メタマフトステユダノ王アマシヤ相議リテ人
 チエヒウノ子エホアハズノ子ナルイスラエルノ王ヨアシニ
 遣ハシ、來レ我儕ヲガヒニ面チアハセント言シメケレバイス
 ラエルノ王ヨアシユダノ王アマシヤニ言オクリケルハレバ
 ノンノ荆棘カツテレバノンノ檜樹ニ汝ノ女子ヲ我子ノ妻ニ
 與ヘユト言オクリタルユト有シニレバノンノ野獸トホリテ
 ツノ荆棘ヲ踏タフセリ汝ハエドム人ヲ擊破レリト謂ヒ心ニ
 タカブリテ誇ル、然バ汝家ニ安ンヲ居レ、何ゾ禍ヲ惹オコシテ
 自己モユダモトモニ亡ビントスルヤト然ルニアマシヤ聽ユ
 トチセザリキ、此事ハ神ヨリ出タル者ニテ彼ヲチツノ敵ノ手

ニ付サソガタナリ是ハ彼ヲエドムノ神々ヲ求メシニ因ル
 (歴代志畧下二十五章十四節ヨリ二十節)アシキモノハ劍ヲヌ
 キ弓ヲハリテ苦シムモノト貧シキモノトヲタフシ行ヒナホ
 キモノヲ殺サントセリ、サレドツノ劍ハオノガ胸ヲカシ、ソノ
 弓ハチラルベシ人ノアユミハエホバニヨリテ定メラル、ソノ
 ユク途ヲエホバヨロユビタマヘリ(詩篇三十七篇十四五節及
 ビ廿三節)又カレヲノ前ニヒトリチ遣シタマヘリ、ヨセフハウ
 ラレテ僕トナリス、カレヲ足械ヲモテヨセフノ足ヲソコナヒ
 クロガ子ノ鏈ヲモテソノ靈魂ヲツナゲリステソノコトバノ
 驗ヲウルマデニ及ブエホバノミユトバ彼ヲユ、ロミタマヘ
 リ(詩百五篇十七節ヨリ十九節)二種ノ砮碼ハエホバニ憎マル
 虚偽ノ權衡ハ善ヲズ(箴言廿四章廿四節)王ノ心ハエホバノ手ノ
 中ニアリテ恰カモ水ノ流レノエトシ彼ソノ聖旨ノマ、ニ之

ヲ導キタマフ人ノ道ハオノレノ目ニ正シトミユ、サレドエホ
 バハ人ノ心ヲハカリタマフ(箴言廿一章一二節)神ハソノ聖ヲ
 モテイセタマヘリ、ソレ甚クヨロユバン、ソレシケムヲワカチ
 スユテノ谷ヲハカラソギレアデハワガモノマナセハワガ有
 ナリ、エフライムモ亦ワガ首ノマモリナリユダハワガ杖モア
 ブハワガ足鹽ナリ、エドムニハワガ履ヲナゲンベリシテユワ
 ガ故ニヨリテ聲ヲアゲユト(詩篇六十篇六節ヨリ八節)咄アツ
 スリヤ人ナソヤハワガ怒ノ杖ナリソノ手ノ答ハワガ忿恚ナ
 リ、ソレ彼ヲツカハシテ邪曲ナル國ヲセメ我カレニ命シテ我
 ガイカレノ民ヲセメテソノ所有ヲカスマソノ財寶ヲウバハ
 シヌ、カレヲ街ノ泥ノエトク蹂躪ヲシヌ、サレドアツスリ
 ヤ人ノコ、ロザシハ斯ノエトクナラズ、ソノ心ノ念モマダ斯
 ノエトクナラズ、ソノコ、ロハ敗壞ヲユソミ、アマダノ國ヲホ

ロボシ絶シ、カレ云ツガ諸侯ハミナ王ニアラズヤ(以賽亞書十章五節ヨリ八節)エホバユワレ知ル人ノ途ハ自己ニユラズ且歩行ム人ハ自ラソノ步履ヲ定ムルユト能ハザルナリ(耶利米亞記十章廿三節)汝ハワガ鎚ニシテ戰ノ器具ナリワレ汝ヲモテ諸ノ邦ヲ碎キ汝ヲモテ萬國ヲ滅サシ(全五十一章廿節)視ユ我カルデア人ヲ興サントス是スナハチ猛クマタ荒キ國人ニシテ地ヲ縱横ニ行メグリ己ノ有ナラザル住處ヲ奪フ者ナリ(哈巴谷書一章六節)

第二條 神ハ人間ノ撰擇ト執意マデ支配セラル、トモ人間ハ尙自由ナルナリ
 已ニ前述スル如ク神ハ道德性ヲ有スルモノヲ支配スルニハ動機ヲ以テス此故ニ神ハ惡ヲ爲スタマニハ人ヲ導カズ而カシ不義ノ人ト雖モ其爲ス所モシ善事ニ關スルトキハ同シク

動機ヲ以テ之ヲ導カル、ナリ

一目 神モシ智慧アリ又善惡ヲ辨識スル者ヲ支配セントナラバ先動機ノ感覺ヲ起シテ之ヲ導ノ外手段ナキニ似タリ且此支配ハ先見ノミニ止マラズ固ヨリ何事ヲ爲サシメント預マ定タル後ニ導ヲ與ヘラルベシ神ハ自ラ企圖スル所ナシ只管人間ノ決斷ニノミ任セテ定ムルユトヲ爲スモノニアラザルナリ

二目 事實ヲ質ストキニモ同様ニテ人間ハ道德心ヨリ常ニ導ヲ受ケリ聖書ノ勸誘ハ何所モ人間ノ本心ト撰擇ト執意ノ三者ニ對シテ記載セラレタルヲ見ルナリ

三目 聖書ヨリ譽証ス

噫エルサレムヨエルサレムヨ預言者ヲ殺シ爾ニ遣サレシ者ヲ石ニテ撃ル者ヨ母鶏ノ雛ヲ翼ノ下ニ集ムル如ク我ナシガ

ノ赤子ヲ集ント爲シ一幾回ヅヤ爾曹ハ欲マズ視ユ爾曹ノ家
 ハ墟ト爲テ遺サルベシ誠ニ我ナシテラニ告ン主ノ名ニ託テ
 來ル者ハ福ナリト爾曹イハン時イタル迄ハ我ヲ見ザル可シ
 (路加傳十三章三十四五節)然ルニ一ヘシボンノ王シホンハ我ラ
 ノ通ルユトヲ容サマリキ是ハ汝ノ神エホバ彼ヲ汝ノ手ニ付
 サントテソノ氣ヲ頑梗シソノ心ヲ剛愎ニシタマヒタレバナ
 リ今日見ルガ如シ(申命記二章三十節)視ユ我今日生命ト福德
 オヨビ死ト災禍ヲ汝ノ前ニ置リ即チ我今日汝ニムカヒテ汝
 ノ神エホバヲ愛シソノ道ニ歩ミソノ誠命ト法度ト律法トヲ
 守ルユトヲ命ズルナリ然ナカバ汝生ナガラヘテソノ數衆少
 ナラソマタ汝ノ神エホバ汝ガ往テ獲ルトユロノ地ニテ汝ヲ
 祝福タマフベシ然ト汝モシ心ヲヒルガヘシテ聽從ガハズ誘
 ハレテ他ノ神々ヲ拜ミマタユレニ事ヘナバ我今日汝ヲニ告

グ汝ヲハ必ズ滅ビン汝ヲハヨルダンヲ渡リユキテ獲ルトユ
 ロノ地ニテ汝ヲノ日ヲ永ウスルユトヲ得ザラソ我今日天ト
 地ヲ呼テ証トナス我ハ生命ト死オヨビ祝福ト呪詛ヲ汝ヲノ
 前ニ置リ汝生命ヲイラフベシ然セバ汝ト汝ノ子孫生存ヲフ
 ルユトヲ得ン即チ即ノ神エホバヲ愛シテソノ言ヲ聽キ且ユ
 レニ附從ガフベシ斯ル時ハ汝生命ヲ得カツソノ日ヲ永ウ
 スルヲ得エホバガ汝ノ先祖アブラハムイサクヤユブニ與
 ヘント誓ヒタマヒシ地ニ住ユトヲ得ン(申命記三十章十五節
 ユリ廿節)ギベオンノ民ヒビ人ヲ除クノ外ハイスラエルノ子
 孫ト好ナシ、邑ナカリキ皆戰爭ヲナシテユレヲ攻トリシ
 ナリソモソモ彼ヲガ心ヲ剛愎ニシテイスラエルニ攻ユセシ
 ハエホバノ然ヲシタマヒシ者ナリ彼ヲハ詛ハレシ者トナ
 リ憐憫ヲ乞フユトヲセズ滅ボサレンガタメナリキ是全クエ

ホバノモーセニ命シタマヒシガ如シ(約書亞記十一章十九節)是ニ於テエホバエドミ人ハダデヲ興シテソロモンノ敵ト爲シタマフ彼ハエドム王ノ裔ナリ爰ニダビデエドムニ事アリシ時軍ノ長ヨアブ上リテ其戰死セシ者ヲ葬リエドムノ男ヲ盡ク擊殺シケル時ニ方リテ(ヨアブハエドムノ男ヲ盡ク絶マデイスラエルノ群衆ト偕ニ六月其處ニ止レリ)ハダデ其父ノ僕ナル數人ノエドム人ト共ニ逃テエシフトニ往ントセリ時ニハダデハ尙小童子ナリキ彼等ミデアンヲ起出テパランニ至リパランヨリ人ヲ伴ヒテエシフトニ往キエシフトノ王パロニ詣ルニパロ彼ニ家ヲ與ヘ食量ヲ定メ且土地ヲ與ヘタリハダデ大ニパロノ心ニカナヒシカバパロ己ノ妻ノ妹即チ王妃タペチスノ妹ヲ彼ニ妻セリタペチスノ妹彼ニ男子ゲヌバテチ生ケレバタペチス之ヲパロノ家ノ中ニテ乳離セシム

ダヌバテパロノ家ニテパロノ子ノ中ニアリキハダデエシフトニ在テダビデノ其先祖ト偕ニ寢リタルト軍ノ長ヨアブノ死タルヲ聞シカバハダデパロニ言ケルハ我ヲ去シメテ我國ニ往シメヨトパロ彼ニイヒケルハ爾我トトモニアリテ何ノ缺タル處アリテカ爾ノ國ニ往ン事ヲ求ムル彼言フ何モ無シ然トモチガハクハ我ヲ去ラシメヨ神又エリアダノ子レゾンヲ興シテソロモンノ敵トナセリ彼ハ其主人ヅバノ王ハダデセルノ許ヲ逃サリタル者ナリ(列王紀畧上十一章十四節ヨリ廿三節エホバカルデアノ軍兵スリアノ軍兵モアブノ軍兵アソモンノ軍兵ヲシテエホヤキムノ所ニ攻キタラシメ給ヘリ即チユダヲ滅サシガタメニユレチユダニ遣ハシタマフエホバガソノ僕ナル預言者等ニユリテ言タマヒシ言語ノゴトシユノ事ハ全クエホバノ命ニユリテユダニノゾミシ者ニテユ

ダチエホバノ目ノ前ヨリ拂ヒ除カンガタメナリキ是ハマナ
 セガソノ凡テナス所ニオイテ罪ヲ犯シタルニヨリ(列王紀
 下二十四章二三節我ヲノ先祖ノ神エホバハ讚ベキ哉斯王ノ
 心ニエルサレムナルエホバノ室ヲ飾ル意ヲ起サセ(以士喇書
 七章廿七節)人ハ心ニオノレノ途ヲ考ヘハカル、サレドソノ步
 履ヲ導クモノハエホバナリ(箴言十六章九節。出埃及七章三及
 ビ十三節。全八章十五節。全九章二十六卅四節。全十章廿七
 節。全十一章十節。羅馬書九章十七節。申命記二章三十節。全三十
 章十五節ヨリ二十節。撒母耳上六章六節。約翰傳五章四節。默示
 錄廿二章十七節ヲ見ル可シ)
 以上例中ノ人々ハ皆自由性ニ從テ自ラ爲サント欲スル所ヲ
 爲シタリ而カシ神ハ尙之ヲ支配シタリハロ始メ其他ノモノ
 彼自身ハ決シテ自由タルコトヲ疑フモノニアラズ而シテ神

ハ之ヲ其ノ支配ノ中ニ置タリトス左ラバ如何ニシテ此二者
 チ調和セシムルヲ得ベキカ神ニ於テハ人間ノ自由ヲ妨グル
 コトナク之ガ導ヲ與ヘテ以テ支配ヲ加ヘタル而シテ人間ニ
 於テハ常ニ現實ニ擇バザルコトヲ擇ムノ力ヲ有セリ既ニ前
 述スル如ク現實ニ係ル撰擇ハ神ノ支配ニ合ヒ其相反スル力
 チ用ユル所ハ人間ノ自由ニ適ヘリトス人ハ何事ヲ擇ムニ於
 テモ同時ニ其反對ヲ擇ムノ力アルコトヲ自覺スルニアラズ
 ヤ又神ハ惡キ者ニ對シ尙動機ヲ以テ導クコト能ハザル場合
 ニハ不得已之ヲ束縛シテ支配セル可シ例令バロ及ビ近世
 ノナボレオン大帝ノ如キ是ナリ彼等ハ己ノ希望ヲ就成スル
 コト能ハザリシト雖モ心ノ有様ヨリ云ヘバ曾テ自由タルヲ
 失ハズバロノ紅海ニ溺ル、死ニ至ルマデ尙其心ハイスラエ
 ル民族ヲ殘滅スルノ希望アリ撰擇アリ唯此目的ヲ達スル能

ハザル束縛アリテ心ニ任セザリシノミナボレオンハ形骸ヨ
 リ云ヘハ絶海ノ孤嶋セントヘレナノ束縛中ニ呻吟スト雖モ
 雄心鬱勃全歐洲ヲ一統シ自ラ君臨セントスル希望モアリ撰
 擇モアリ唯之ヲ遂グルノ道ヲ得ザルニ由リシノミ又哥林多
 前書十五章廿四節以下廿八節ニ見ユル所ノ神凡ノモノヲ基
 督ノ足下ニ置クトキニモ彼ノ悪者ハ悪ヲ爲スノ力ユツ失セ
 タレ心中自由ニ之ヲ希望シ之ヲ撰擇スル力ヲ存スルナリ
 第一問 人間ハ聖靈ノ導ヲ防グノ力アルカ
 然リ多ノ人ハ聖靈ノ導ヲ拒ミ滅亡ニ陥ルノ不幸ヲ招ケリ而
 カシ人間ハ新ニ生ル、時即チ聖靈ニヨリテ再生ヲ得タルキ
 ハ其導ヲ防グノ力ヲ有スト雖モ實際斯ル場合ニ於テ此力ヲ
 用ユル能ハザルモノナリ
 第三條 神ノ支配ノ公平ナルコト

一目 神ハ圓滿ノ徳性ヲ備ヘラル、モノ故ニ其支配ニ於テ
 決シテ不公平アルコトナシ
 二目 事實ニ就テ質スモ同様ニ思ハザルヲ得ズツハ未ダ曾
 テ神ヨリ不義ヲ加ヘラレタルモノハアラザルナリ此世界ニ
 於テハ義人必ズシモ榮ユルニアラズ世ノ擯斥スル所トナリ
 苦難ノ間ニ老ユルコトアリ不義者必ズシモ屈セラル、ニア
 ラズ衆庶ノ推尊スル所トナリ榮譽ノ地位ニ立ツモノ妙シト
 セズ然レモ此世ハ賞罰ノ世界ニアラズ其審判ノ行ハレ義ト
 不義トニ對スル信賞必罰ハ即チ來世ニ在ルコトヲ忘ル可カ
 ラズ
 三目 聖書ヨリ舉証ス
 エホバノ法ハマタリシテ靈魂ヲイキカヘラシメエホバノ証
 詞ハカマクシテ愚ナルモノヲ智ガラシム、エホバノ訓諭ハ十

ホクシテ心ヲヨロユバシメエホバノ誠命ハキユクシテ眼ヲ
 アキラカナラシムエホバチ惶ミオソル、道ハキユクシテ世
 タニタユルユトナクエホバノサバキハ眞實ニシテユトゴト
 ク正シ(詩篇十九篇七節ヨリ九節)モロモロノ國ノナカニイヘ
 エホバハ統御タマフ世界モカタクタチテ動かサル、ユトナ
 シエホバハ正直ヲモテスベテノ民チサバキタマハントエホ
 バ來リタマフ地チサバカント來リタマフ義ヲモテ世界チサ
 バキノ眞實ヲモテモロモロノ民チサバキタマハ(全九十
 六篇十三節)エホバ地チサバカント來リタマヘバナリ
 エホバ義ヲモテ世界チサバキ公平ヲモテモロモロノ民チサ
 バキタマハ(全九十八篇九節)王ノチカラハ審判チユノミタ
 マフ汝ハカタク公平チタテヤユブノチカニ審判ト公義トチ
 オコナヒタマフ(全九十九篇四節)エホバユナンザハ義クナン

ザノ審判ハナホシ(全百十九篇百三十七節)ナンザノ義ハトユ
 シヘノ義ナリ汝ノノリハ眞理ナリ(全篇百四十二節)ソレ律法
 ハ聖シ誠モ聖ク公義カツ善ナリ(羅馬書七章十二節)
 第一問 功勞ニ過テ人チ惠ムコトハ正義ナリトスルカ
 若シ無理不法ノ所爲ナキ限りハ正義タルコトチ失ハズ其功
 勞ニ過テ人チ惠ムトキハ已ニ正義世界ノ沙汰ニ非ズシテ最
 早恩惠世界ノ事ナリトス故ニ恩惠ノ場所ニ在テハ無論功勞
 ニ過ギタル待遇チ施スチ爲スナリ馬太傳二十章一節以下
 十六節ニ記スル所ノ基督ノ譬話チ見ル可シ
 第二問 罪人タル者ハ元來自ラ犯罪チ止ムル力ナキニ神ハ
 止ムベシト命ズルニアラザルカ
 否罪人ハ犯罪チ止ムルノ力チ有セリト雖モ之チ使用スルコ
 トチ爲サザルナリ

第三問 神ハ故ヲニ人間ヲ罪人ニ造リ而シテ之ヲ罰スルニ
ハアラザルカ
人間ハ此世ニ生レ出タル時未ダ實際罪人ニアラズ其善惡ヲ
辨識シ惡ヲ爲スコトヲ撰擇スルマデハ罪人ノ名ヲ帶バシム
ルヲ得ズ

第四問 神モシ人間ニ罪ヲ犯シ能フ所ノ性質ヲ附與シテ之
ヲ造リタリトセバ如何

神ハ決シテ惡キ性質ヲ附與セズ却テ潔且義ナル性質ヲ以テ
セリ其惡キ性質ハ人間自ヲ構造シタル所ナリ尙此問題ハ罪
ノ論ニ詳説ス可シ

第四條 神ハ特權ヲ以テ支配ス

神ノ支配ハ最高無上ノ權威ニシテ他ニ待ツ所在ヲ後然ルモ
ノニ非ズ而カシ其支配ハ決シテ無理壓制ニアラズ能ク智慧

正義道理ノ宜ニ適フテ逆フコトナシ又神ハ權威ヲ專ニスルヲ
好ンテ猥ニ譴罰ヲ加フルモノニ非ザルナリ自由自在ノ絶對
者タリ万有ノ造主タル神ニシテ彼ノ如キ權威ヲ有シ他ニ待
ツ所ナシトスルハ理ノ當然ニアラズヤ
其証

一目 神ガ特權ヲ以テ支配セラレ、コトハ能ク正理ニ適ヘ
リ即チ神ガ道德心ニ對シ諸ノ動機ヲ以テ靈体物ヲ支配セラ
ル、トスレバ種々ノ旨意ヲ人ノ心中ニ生ゼシムルト否トハ
其自在ニスル所ナリ又束縛ヲ加ヘテ支配スルト否トモ同様
ナリトス

二目 神ハ完全ナル能力ト智慧トヲ備フルモノナレバ強力
ナル動機或ハ束縛ヲ以テ靈体物ヲ支配セラレ、ナリ

三目 觀察或ハ經驗上ヨリ舉証ス即チ人間ノ生死命運事故

遭際等ヲ看シ來レバ神ノ特權ノ現著ナルヲ感ゼズンバ非ズ
 アブラハムノ跡新島先生ノ事ヲ見ユ思半ニ過グルモノアラ
 シ
 四目 聖書ヨリ舉証ス
 抑ワガ汝ヲタテタルハ即チナシテワガ權能ヲ見サシ
 メワガ名ヲ全地ニ傳ヘンタメナリ(出埃記九章十六節エホバ
 言タマハク我ワガ諸ノ善ヲ汝ノ前ニ通ラシメエホバノ名ヲ
 汝ノ前ニ宣シ我ハ惠ントスル者ヲ惠ミ憐マントスル者ヲ憐
 ムナリ、全三十三章十九節然ドワレヲノ神ハ天ニイマス、神ハ
 ミユ、ロノマ、ニスベテノ事ヲオユナヒ給ヘリ(詩編百十五
 篇三節エホバツノ聖旨ニカナフコトヲ天ニモ地ニモ海ニモ
 淵ニモミナコトゴトク行ヒヌマフナリ、全百三十五章六節尙
 以賽亞書四十四章廿四節ヨリ廿八節全四十五章五節ヨリ十

三節全六十四章八節但以理書四章三十四五節羅馬書九章十
 六節ヨリ廿一節全十一章三十六節以弗所書一章五十一節腓
 立比書二章十三節ヲ見ル可シ
 第一問 人間ハ神ニ逆フコトハナキカ
 然リ神ノ許スダケノ範圍ニ於テ逆フコトヲ爲セリ(圖カシ神
 ハ其逆フ所以ノモノヲ以テ遂ニ却テ衆庶ノ便益ヲナサシム
 ルニ至レリ例令ババロノ所業ニ於ケルガ如ク(出埃及記九章
 十六節)ユセフノ運命ニ於ルガ如シ(創世記四十五章五節ヨリ
 八節全五十五章二十節ヲ見ル可シ)
 第五條 此支配ハ偶然ニ出デタルニアラズ神ノ始ヨリノ企
 圖ニ應フモノナリ
 其証
 一目 神ノ働ガ能ク其企圖ニ應フコトハ誠ニ然ル可キコトニ

アラズヤ左ラバ此企タル永遠ノ始ヨリ定メラレタルモノト
謂チ適當ナリトス

二目 神ノ性質ヨリ論証ス

若シソレ神ノ智慧ヨリ云ヘバ慮リナクシテ事ヲ行フハ智ト
謂フ可カラズ苟モ之ヲ備フルトキハ必ズ常ニ先企圖スル所
在テ後事ニ従フ可キナリ又智識ヨリ云ヘバ當初ニ企圖ヲ定
メズンバ未來ノ事ヲ知テ支配スルユト能ハザルナリ其徳ヨ
リ云ヘバ唯神ノミ能ク企圖ト思慮トヲ以テ凡ノ者ノ便益ト
ナルタメニ支配スルユトヲ得ベシ然ルニ神モシ爰ニ出デズ
トセバ大ニ徳性ニ欠クル所アリト謂ハザルヲ得ズ故ニ全能
全智至愛ノ神ハ必ズ其企圖ヲ永遠ノ始ヨリ定メ置カル可キ
筈ナリトス

三目 全キ支配ヲ行ハント欲セバ豫メ其企圖ヲクンバ能ハ

ザル所ナリ

四目 聖書ヨリ舉証ス

汝等イニシヘヨリ以來ノユトヲオモヒイテユ、ソレハ神ナリ
我ノホカニ神ナシ、ソレハ神ナリ我ノゴトキ者ナシ、ソレハ終
ノユトヲ始ヨリツゲ、イマダ成ラザルユトヲ昔ヨリツゲ、ソガ
謀略ハカナラズ立トイヒ、スベテ我がユロユブユトヲ成ント
イヘリ、ソレ東ヨリ驚チマチキ遠國ヨリソガ定メオケル人チ
マチカン我ユノユトヲ語リタレバ必ラズ來ラスベシ我ユノ
ユトヲ謀リタレバカナラズ成スベシ(以賽亞書四十六章九節
ヨリ十一節)エホバノ謀畧ハトユシヘニ立チソノミユ、ロノ
オモヒハ世々ニタツ(詩篇三十三篇十一節)人ノ心ニハ多クノ
計畫アリカレド、惟エホバノ旨ノミ立ベシ(箴言十九章廿一節)
ソレ神我儕ヲシテ其前ニ聖ク疵ナカラシメン爲ニ世基ヲ置

ザリシ先ヨリ我儕ヲキリストノ中ニ簡ビソノ意ノマヽニイ
 エスキリストニ由テ我儕ヲ己ノ子ト爲ソコトヲ愛ヲ以テ預
 シメ定マリソノ恩ノ榮ヲ讚シメンダメ也スナハチ愛スル者
 ニ在ソレヲニ賜フ所ノ恩ナリソノ恩ノ豊ナルニ由テ彼ニア
 ル我儕ソノ血ニヨリ贖スナハチ罪ノ赦ヲ得ナリ神サマザマ
 ノ智慧ト聰明ヲ予ヘテ此恩ヲ我儕ニ充シメ我儕ニ其旨ノ奧
 義ヲ意ノマヽニ示セリコレ自ラ定メ給ヒシ所ナリ即チ期ノ
 滿ルトキニ至リテ或ハ天ニ在アルヒハ地ニアル萬物ヲキリ
 ストニ歸セシメンガ爲ニ定メ給ヒシ所ナリ萬事ヲ其意ノマ
 マニ行フ者オノレノ旨ニ循ヒテ預シメ我儕ヲ定メキリスト
 ニ在テ嗣子ト爲コトヲ得シムコレ前ニキリストヲ頼メル我
 儕ヲシテ彼ノ榮ノ讚美ヲルヽ事ヲ爲シメンダメ也(以弗所書
 一章四節ヨリ十二節)コレ教會ヲ以テ天ノ處ニアル政ヲ執ル

者ト權威ヲ有ル者ニ神ノ智慧ヲ知シメン爲ナリ此ハ神世々
 ノ先ヨリ定メ給ヒシ旨ニ循ヘル也ユノ旨ハ我儕ノ主キリス
 トイエスニ由テ成就セリ(全三章十一節)彼我儕ヲ救ヒ聖召
 ヲ以テ召給ヘリ是ソレヲノ行ニ由ニ非ズ惟神オノガ旨ト世
 ノ成ザリシ先ヨリキリストイエスノ中ニ我儕ニ賜ヒシ恩惠
 ニ由ナリ(提摩太後書一章九節)キリスト世ノ基ヲ置ザリシ先
 ニ定ラレ此末時ニ爾曹ノ爲ニ顯レ給ヘリ(彼得前書一章二十
 節)神ハ世ノ始ヨリ其スベテノ所作ヲ知タマヘリ(使徒行傳十
 五章十八節)

又間接ニ証明ヲ與フル箇所ヲ舉グレバ左ノ如シ
 (約百記二十三篇十三四節)以賽亞書四十三章十三節。但以理書
 四章三十四五節。耶利米書一章五節。羅馬書八章廿八節ヨリ三
 十節。哥林多前書二章七八節ヲ見ユ)

又此事ハ凡ノ預言ニ含有セリ

(約百記十四章五節。約翰傳六章三十七節。全十七章二節。路加傳廿二章廿二節。使徒行傳二章廿三節。全四章廿七八節。全十七章廿六節ヲ見ル可シ)

神ノ企圖ハ其自ラ力ヲ用ユル所ノ事變ノミナラズ義者ト不義者トヲ問ハズ苟モ其爲シ得ル凡ノ事變ニ及ボセリ神ハ先見ヲ以テ此等ノ事ヲ知リ又之ニ相當セル企圖アリ而シテ其事ヲシテ遂ニ凡ノモノ、便益トナラシムル爲ニ之ヲ支配セラル、ナリ但シ神ノ自ラ爲スコト或ハ義キ人々ヲ導テ爲スコトト靈体物ガ其本心ニ逆ヒ又神ノ導ニ逆ヒ爲ス所ノ惡事トハ判然區劃ヲ立テザルベカラズ原來此等ノモノハ孰モ其預定ト企圖トノ中ニ含有セルモノナリ神ハ其聖旨ニ合フ所ノ事變ヲ預定シ又凡ノ事變ヲ知レリ故ニ凡ノ事變ハ已ニ定

リシ而シテ凡ソ事變ハ悉ク神ニ由ラザリキ或部分ハ神ニ歸シ或部分ハ神ニ逆フ所ノモノ、自由ナル所爲ニ歸セリ其ハ神預メ此所爲ヲ知リシヲ以テナリ彼是共ニ神意ナリト雖モ一ハ神ノ自動的預定ニ屬シ(Active foreordination)一ハ其受動的預定ニ屬セリ(Passive foreordination)此点ハ尙神ノ撰擇ノ論中ニ詳説ス可シ

第一問 左スレバ神ハ罪ノ本原ニハアラザルカ
神ハ強テ罪ヲ防ザルヲ以テ此宇宙ハ將ニ罪惡ノ起ラントスル傾向アル所ナリ而シテ神ハ其宇宙ノ本原ナルノミ罪ハ即チ彼ノ迷フタル靈体物ヲ以テ本原トナスナリ
第二問 神ニ祈禱スルコトハ無益ニアラザルカ
祈禱モ應答モ共ニソノ企圖中ニ含有シ在ルナリ此点ハ尙神ノ撰擇ノ論ニ詳説ス可シ

第三問 惡キ者ノ所爲ハ神ノ企圖中ニ含有シ在ルカ
 然リ前述スル如ク惡キモノ、所爲ト雖モ其企圖中ノモノダ
 リ而カシ神ハ其所爲ノ原因ニアラズ惡キモノソレ自身ハ即
 チ己ノ不義ノ所爲ノ本原タルナリ神ハ先見チ以テ此不義ノ
 所爲チ知り且幾何ノ度マデ放任シテ制限セザルカ又何時ニ
 至テ此等チ束縛スル乎テフコトモ亦企圖中ニ在リトス故ニ
 神ハ此ノ惡キモノコテモ幾分カ之チ己ノ器トシテ其企圖チ
 成就セラル、ナリ(申命記廿八章四十九節。以賽亞書五章廿六
 節。全七章十七節ヨリ二十節。全十三章一節ヨリ五節及十七節
 全四十四章廿八節。全四十五章一節ヨリ四節。以上刺書一章一
 節ヨリ四節。耶利米五章十五六節。全五十一章十一節。但以理書
 十一章十二節。哈巴谷書一章六節ヨリ十節チ見ル可シ)
 以上例中クロスノ事チ調ブレバ彼元來エホバナル神ニ忠實

チ致スノ心ナク惟己ノ名譽チ欲スルモノニテアリシト雖モ
 神ハ即チ心チ用キテ己ノ器トシ久シクバビロンニ囚虜タリ
 シユダヤ人チ其郷國ニ遷シソレヲシテ再ビエルサレムチ築
 キ聖殿チ建立セシメタリ

罪之說

第一項 罪ノ定義

新約全書中ヲ調査スルニ此罪ニ附キ數種ノ言詞ノ用ヰラレタルヲ發見ス可シ今原語即チ「ギリイキ」語ノ例ヲ舉グレバ左ノ如シ

「ハマタノ」(Hamitano.) 目的ニ外ル、ノ義ナリ

路加傳十五章十八節。羅馬書二章十二節。彼得後書二章四節。約翰壹書二章一節ヲ見ルベシ

名詞ニシテ「ハマシヤ」(Hamaria)

馬太傳一章廿一節。約翰傳一章廿九節。羅馬書四章七節。希伯來書一章三節。約翰壹書一章七節。全五章十七節ヲ見ルベシ
「アノミヤ」(Anomia.) 律法ヲ犯スユトナリ

約翰壹書三章四節ヲ見ルベシ

「アダキヤ」(Adikia)不義ナリ

羅馬書一章廿九節。約翰壹書一章九節。全五章十七節ヲ見ルベシ

罪ノ意義如斯ナルコトヲ知ルトキハ獸畜ニ犯罪ノ跡ナキコトヲ斷言シ得ベシ何ントナレバ彼等ハ己ノ天性當然ノ目的ニ外ル、コトナク又律法ヲ犯スコトナク不義ヲ爲スコトナケレバナリ之ニ反シテ人間ハ其本心ノ勸ヲ奉ゼズ自己ガ由テ以テ築ユルノ道ニ違ヒ或ハ其爲ス可キコトヲ抛擲シ却テ爲スベカラザル不義ヲ行フナト歴々トシテ蔽フ可ラザルモノアリ

罪トハ神ノ方ヨリ云へバ神ヲ離ル、コトナリ
羅馬書一章十八節以下三十二節。以結西二十章十六節。耶利

米十六章十二節。約翰傳十四章十七節。羅馬書八章七節。哥林多前書二章十四五節ヲ見ル可シ

人間ノ方ヨリ云へバ私慾ナリ即チ自身ヲ利益スルコトノミチ大目的トシ愛ヲ己ニ厚フシテ他ニ薄フスルヲ云フ

羅馬書十五章五節。哥林多後書五章十五節。以弗所書二章三節。提摩太後書三章一、二節。路加傳六章三十二三四節。加拉太六章二節。腓立比書二章四節

人間當然ノ目的ハ忠實ヲ致スノ心ヲ以テ神ヲ愛シ神ニ愛セラレ同類互ニ相愛シ相扶ケ限リナク神ト合同一致シテ發達スルニアリ然ルニ迷フタル人間ハ全ク此目的ノ外ニ出デ只管自身ヲ利益スルコトノミ是勉メテ神ヲモ人ヲモ忘ル、ニ至ル而シテ其着目スル所專ラ現世ニ止リ重ンズル所モ此世ノ財寶快樂ニ在リ貴ム所モ此世ノ權威名譽ニ存セリ倚シソ

然レ當然ノ分ヲ守ル人間ニ於テハ神及ビ永遠無限ノ生命ヲ貴
 重スベキモノナリト雖モ如何セシテ迷フタル人間ハ惟ダ自身
 及ビ此世ノミニ重キ措ケリ故ニ彼等ハ此世ノ人タル價直ノ
 外神ノ人或ハ天國民ノ尊稱ヲ有セズ隨テ其求ムル所モ世ノ
 田園金銀親族政治美術學藝等ニ過ギズ曾テ神ノ國ノ爲メ其
 榮ノ爲メ一般人類ノ爲メニ力ヲ盡シ心ヲ盡シテ働クイテセ
 ズ否思ヒ及バザルナリ斯ノ如キ私慾ノ顯現スルモノヲ大別
 シテ二種トナス一ハ即チ肉慾ニ屬シ一ハ即チ智慾ニ屬ス其
 肉慾ニ現出スルトキハ大ニ人間ノ價格ヲ減殺セシメ殆ント
 獸畜ト伍チ共ニスルニ至ル智慾ニ現出スルトキハ甚ダシキ
 傲慢自負ノ心ヲ生シ愈々增長スレバ「サタン」及ビ其使者ト等
 キニ至ル可シ之ニ由テ之ヲ見レバ罪ハ肉慾及ビ智慾即チ傲
 慢ヨリ生出シ來ルモノナリ而シテ就中傲慢ヲ最モ危險ナリ

トス何ントナレバ肉慾ニ於テハ人皆之レアルヲ知リ又之ガ
 支配スル所トナリテ罪ヲ犯スコトヲ知ルト雖モ智慾即チ傲
 慢ニ至リテハ既ニ羽翼ノ成ルニ拘ハラズ或ハ尙ホ自ラ思ヒ
 知ラズシテ益々強健ヲ加フルニ至ルモ知ル可カラザレバナ
 リ且ツ肉体ハ罪ヲ犯ス際ト雖モ強キ制限ヲ加ヘテ之ヲ防ギ
 肉慾ヲシテ飽クナキニ至ラシメズ看ユ肉慾ニ輸クルトキハ
 却テ不快ヲ感シ樂マザルニアラズヤ然ルニ智慾ニ至テハ全
 シ之ト反對ニテ名譽ニマレ權威財寶ニマレ得ル所アレバ得
 ルニ隨テ益々願望ヲ強クシ底止スル所ヲ知ラズ例令バ千金
 ノ家ハ更ニ万金ヲ望ミ既ニ之ヲ得レバ尙ホ百万金ヲ希ヒ層
 一層何千万金ヲ積モ未ダ其心ニ満足ヲ覺ヘタル者一トシテ
 有ルコトナキガ如シ權威ヲ有スル者モ亦然リアレキサシマ
 大王ハ大方當時ノ世界ヲ征服シテ其版圖ニ歸セシメ最早

軍旅ヲ起シテ發向スル國土ナキヲ見テ長嘆流涕セリト又ナ
 ボレオン大帝ハ世界富強ノ中心タル歐洲ノ大半ヲ服從セシ
 マナガラ未ダ満足ノ色ヲ示サズ更ニ全歐洲ヲ統一セシユト
 ナ熱望シテ止マザリシ既ニ隴ヲ得テ又蜀ヲ望ムハ自然ノ勢
 ナリトス

私慾ハ數多ノ形狀ヲ呈シ數多ノ結果ヲ出スモノナリ

一、慾即チ自己ノ利ヲ欲スルノ心

雅各書一章十四五節。全四章一二及五節。加拉太五章十七節
 以下廿一節。以弗所二章一節以下三節。哥羅西書三章五節。彼
 得後書一章四節。約翰壹書二章十六節

二、貪婪即チ自己ヲ歡バサン爲メニ供スル力ヲ欲スルノ心例
 令ハ財産智識暴虐ナル支配權及ヒ多妻ヲ有スルコト

約百記二十九章十八節。詩篇十篇三節。全三十篇六節。全三十

九篇六節。全四十九篇十一節以下十八節。全五十二篇七節。全
 六十二篇十節。箴言一章十九節。全十三章七節。全廿八章八節
 十六節。廿廿二節。以賽亞書五章八節。全五十七章十三節。耶利
 米書六章十三節。以西結廿二章十二節。全三十三章三十一節。
 哈巴谷二章六節。馬太傳十三章廿二節。全廿二章五節。路加傳
 十二章十五節。以弗所書五章三節。腓立比書三章十九節。哥羅
 西書三章二、五、六節。提摩太前書六章九十一十七節。提摩太
 後書三章二節。希伯來書十三章五節。雅各書四章十三節以下
 十七節。同五章一二三節。彼得後書二章三節。約翰壹書二章十
 五節ヲ見ル可シ

アカンノユト、約書亞記七章廿一節。アハブノユト、列王紀畧
 上廿一章二節以下十六節。ゲハシノユト、列王紀畧下五章廿
 節以下廿七節。シモンノユト、使徒行傳八章十八節以下廿三

節。パラムノユト、彼得後書二章十五節。

三、傲慢即チ外部ニ在テハ財寶爵位官職ヨリ生ズル傲慢内部ニ在テハ智慧智識或ハ養徳ノ長者ト自信スルヨリ生ズル傲慢ナリトス

利未記二十六章十九節。申命記八章十三節以下十七節。詩篇十篇二節。同十二篇三四節。同四十九篇十一節。同五十二篇七節。全七十三篇六節。同百一篇五節。箴言十五章五節及十二節。全十六章五節。十八十九節。全十七章十九節。全廿一章四節。以賽亞書二章十一節。全五章八節。全十章七八節。十四節以下十六節。耶利米書五十章三十一節。以西結書二十八章二三節。阿巴底三四節。哈巴谷二章四五九節。馬太傳廿三章八節以下十二節。馬可傳九章三十五節。同十二章三十八節。羅馬書一章廿二節三十節。全十二章三節以下十六節。哥林多後書十章五節。

加拉太書六章三節。提摩太後書三章二節以下四節。默示錄三章十七節ヲ見ル可シ

アロントミリアムノユト、民數記畧十二章一節以下十節。ユラノユト、民數記畧十六章。チブカデチサルノユト、但以理書四章三十節以下三十七節。ヘロデノユト。使徒行傳十二章廿一節以下廿三節。

四、不義即チ他人ノ利益ヲ忘ル、ノ容易ナルユト
何西書十二章七節。亞麼士書八章五節。馬太傳二章十六節
五、憎惡。仇恨。忿怒。妬忌。刻薄。不情神ヲ憎ムコト

申命記三十二章三十三節。詩篇十篇七節。同六十四篇三節以下六節。全七十四篇廿節。箴言十章十二節。全廿一章十節。全三十章十四節。羅馬書一章廿節以下三十二節。加拉太書五章十節九節以下廿一節。以弗所書四章三十一節。哥羅西書三章八節。

提多書三章三節。彼得前書二章一節。約翰壹書二章九節。全三章十五節

六、愚ナルコト

詩篇四十九篇十節以下十三節。箴言五章廿二三節。以賽亞九章十七節。耶利米書四章廿二節。箴言三十章十二節

七、自ヲ欺クコト

創世記三章十三節。約百記廿九章十八節。詩篇十篇六節。全三十篇六節。箴言十二章十五十八節。提摩太前書二章十四節。帖撒羅前書五章三節。馬太傳七章廿二節。羅馬書七章十一節。哥林多後書十一章十四節。帖撒羅後書二章九節以下十二節。雅各書四章十三節以下十五節。默示錄十二章九節。全十三章十四節ヲ見ルベシ

眞誠ニ自ヲ愛スルコト、私慾トハ全ク相反セリ私慾ノ人ハ

何時モ不満足ノ念ヲ脱スル能ハズ何ントナレバ彼等ハ俗ニ狐火ト稱スル光明ヲ追捕セントシテ走り霓中ノ色彩ヲ掬セントシテ走ル兒童ト一般ノニ實ニ狐火霓彩ノ如キモノヲ大目的トシテ求ムルガ故ニ奔走周旋遂ニ得ル能ハザルナリ又其物ヲ求ムルヤ所謂向見ズノ愚昧手段ニ出ヅルヨリ却テ其物ヲ滅亡セシムルコト頑童ガ鼓音ノ出所ヲ求メントシテ玩具ヲ破却スルガ如キモノナリ

八、不安心

羅馬書七章十四節以下廿三節。約百記十五廿節。以賽亞書四十八章廿二節。全五十七章廿廿一節。羅馬書三章十六七節。馬太傳十二章四十三節

九、奴隸ノ有様

約翰傳八章三十四節。羅馬書六章十六七節。哥林多後書三章

十七節

十、假設ノ安心

路加傳十二章十六節以下廿二節。全十七章廿八節以下三十節。以弗所書五章四節。帖撒羅前書五章六節。雅各書四章十三四五節。默示錄三章十七節

十一、心ノ曇レルコト——心ノ暗黒——罪ハ心ヲ暗マセリ

路加傳四章十八節。全十一章三十五節。約翰傳九章三十九節以下四十一節。哥林多後書四章四節。以弗所書四章十七節以下十九節。全五章十一節。哥羅西一章十三節。帖撒羅前書五章四節。提摩太前書四章一二節。提多書一章十五節。撒母耳後書十二章一節以下十二節。箴言四章十九節。全八章三十六節。以亞賽書四十二章七節。全六十章二節ヲ見ル可シ

十二、偽善者トナルコト

是ハ外人ヨリ善良者ト見ラレシコトヲ希フノ心ナリ

詩篇五十篇十六節。全七十八篇三十六節。箴言廿一章廿七節。以賽亞書一章十三節以下十五節。全廿九章十三節以下十六節。全四十八章一節。全五十八章一節以下五節。耶利米書七章八節以下十節。以西結書廿章三十九節。米迦書三章十一節。馬太傳三章七節。全六章一節以下五節。十六節。全七章五節。廿一節以下廿三節。全二十三章一節以下七節。及ヒ廿三節以下三十三節。路加傳十一章四十二三四節。五十二節。全十六章十五節。全二十章四十六七節。提摩太前書四章二節。全後書三章五節。十三節。提多書一章十六節。彼得後書二章二三節。猶太書十二三節。使徒行傳五章一節以下十一節

十三、心ノ頑固ニナルコト

例之ハロノ如キ或ハ以賽亞書六章九十節。全六十三章十節。

箴言廿九章一節ニ記スルガ如シ
 又頑固ナルトキハ遂ニ聖靈ヲ瀆スノ罪ニ陥リ其極絶望ヲ招
 シニ至ル可シ
 馬太傳十三章十四五節。馬可傳三章廿八九節。以弗所書四章
 三十節。帖撒羅前書五章十九節。希伯來書六章四節以下六節
 約翰壹書五章十六節
 斯ル人ハ畜ニ外界ノ眞理ニ向テ罪ヲ犯スノミナラズ彼自身
 ノ本心ニ在ル所ノ眞理即チ聖靈ニ逆ヘリ故ニ此心ハ自ラ頑
 固ナラザルヲ得ザルナリ
 十四、苦惱
 是ハ直接ニ罪ヨリ生ズルモノニテ其苦ハ次第ニ増加スルニ
 至ル
 撒母耳後書十一章十二章及ヒ列王紀畧上十五章廿九三十

節ヲ見ルベシ
 良心ハ其犯罪ヲ責メテ假釋スル所ナシ創世記四十二章廿一
 二節ノ例ヲ見ルトキハ犯罪後二十年ノ星霜ヲ經テ尙ホ痛ク
 良心ノ責ムル所トナレリ
 馬太傳十四章一二節ヲ見ユ
 神ヲ懼ル、ノ心ナリ
 羅馬書八章十五節。提摩太後書一章七節。雅各書二章十九節
 創世記三章八節
 其罪ヲ屢々現世ニ罰セラル、コトアリ
 士師記一章七節。使徒行傳五章一節以下十一節。全十三章六
 節以下十二節
 或ハソドムゴモヲノ最後エルサレムノ滅亡近世北米合衆國
 ニ於ケル奴隸賣買ニ由テ起レル内亂ヲ以テノ譴罰ノ類ナリ

罪人ハ遂ニ望ナク又神ヲモ嫌ヒ憎ムニ至ル

耶利米書十七章九節。默示錄九章十九節以下廿一節及十六章廿一節ヲ見ル可シ

來世ニ於テ窮リナキ苦痛ヲ受クベキモノトナル可シ

馬太傳廿五章四十一節四十六節

今全体ノ罪ニツキ評論スレバ罪ニ輕重ノ差故意不故意ノ別アリト知ラレタリ

馬太傳十一章廿四節。全十二章三十四節。約翰傳十九章十一節ヲ見ユ且ツ提摩太前書一章十三節。全四章一二節ヲ較ベ

彼得後書三章三節。雅各書五章四節。馬太傳十二章三十一二節ヲ見ルベシ

罪人ノ心事ヲ觀察スレバ當ニ神ニ忠實ヲ致スベクシテ却テ之ニ反逆スルユト、ナリ廣益ヲ計ルノ精神ニ代テ私慾ニ汲

々シ仁愛ノ情ヲ翻シテ憎惡ヲ事トシ平和ハ去テ不安心トナ

リ歡樂ハ變シテ悲歎トナリ希望ハ失セテ絕望トナリ順逆轉

倒是非所ヲ異ニスルノ有様トハナレリグリーキノ遺傳説ニ

曰クヘルクリス(Hercules)ノ妻デジニローラ(Dejanira)ハ嫉妬ノ餘リ

衣服一領ヲ製シ之ニ毒蛇ノ惡液ヲ浸シ以テ其夫ニ贈レリヘ

ルクリスハ斯クトモ知ラズ着服スレバ忽チ毒氣ノ襲フ所ト

ナリ急ギ脱却セントシタレモ最早皮肉ヲ透シテ骨髓ニ徹シ

看ル々々腐朽ニ歸セリトゾ罪ノ人心ニ於ケル恰モ斯ノ蛇毒

ノ如シ一タビ觸レバ益々猖獗ヲ逞フスルニ至ル可シ

第二項 何チカ罪ト稱スルヤ

善惡ヲ辨識スル能力ヲ有スルモノガ其爲スベキユトヲ識ナ
ガラ自由ニ惡ヲ擇ニ或ハ善ヲ擇バズシテ働クユトハ即チ罪
ナリトス神ノ支配說中道德上ニ關スル所論ヲ見ルベシ

彼ノ思ハザルコト知ラザルコト或ハ壓制セラレテ爲スコト
 及ヒ機械的ノ動作ハ共ニ罪ト稱セズ惟ダ自己自ラ爲ス所ノ
 働ノミ其罪ナリトス故ニ善惡ヲ辨識スル能力ヲ有セザルモ
 ノ、舉動ヲ罪セズ又惡ト知ラズシテ爲ス事ハ罪ノ限リニア
 ラズト雖モモシ詮索セザルユリ不良ノ行爲アレバ其詮索セ
 ザル所以ヲ罪ト爲スナリ

一目 此説ハ能ク道理ニ合當セリ罪ハ聖書中固ク禁止スル
 所ナルガ其罪ハ必ズ或働ニ附キテ名稱スルノ辞ナリ又罪ハ
 必ズ咎ヲ受クベキモノナルニ拘ハラズ元來働ナケレバ決シ
 テ之ヲ感セザルナリ又罪ハ後悔シテ止ルコトヲ得ベシト雖
 モ元來其働ナケレバ之ヲ爲スコトモ得ザルナリ

二目 此説ハ本心ノ働ノ理ニ合當セリ吾人ノ本心ハ罪ニ於
 テ鋭敏ナリト雖モ自ラ爲シタルコトノ外ハ咎ムルコトヲセ

ザルニアラズヤ

三目 此説ハ聖書ノ赴ナリ

一、聖書中罪ニ附キ用ユル所ノ言詞ハ皆働ノ辞即働詞ナリ又
 罪ノ動詞ニ於テハ悉ク自動詞ニシテ他動詞ニ用キタル所ナ
 シ例之ハ

惡ヲ爲ス馬太傳七章二十三節。罪ヲ犯ス。約翰壹書三章四節
 八節ノ類ナリ

二、聖書ニ於テハ凡テ罪ニツキテノ命令ハ善惡ヲ辨識スル能
 力ヲ有スルモノ、自由ノ働ニ對シテ云々セリ

悔改メヨ。馬可傳一章十五節。起ヨ。以弗所書五章十四節。信セ
 ヌ。約翰傳一章十二節。歸レ。以西結書卅三章十一節。神ヲ愛ス
 可シ。馬太傳廿二章三十七節。耐忍ヒテ馳場ヲ趨レ。希伯來書
 十二章一節。目ヲ醒且ツ祈レ。馬太傳廿六章四十一節

三、人間ノ責任ハ惟マ其働ニ限ルヲハ聖書ノ赴ナリ

馬太傳廿五章三十四節以下四十六節。約翰傳五章廿九節。羅馬書二章十三節ヲ見ルベシ

四、人間ノ責任ハ惟マ自己ノ働ノミニ由レリ

申命記廿四章十六節。列王紀畧下十四章十六節。歷代志略下廿五章四節。以西結十八章十九廿節。加拉太六章五節七節ヲ見ルベシ

五、人間ノ責任ハ惟マ爲スベキユトヲ識リテ或ハ爲シ或ハ爲ササルユトニ限レリ

僕主人ノ心ヲ知ナガラ預備セズ亦ソノ心ニ從サル者ハ扑ル、コト多ク知ズシテ扑ベキ事ヲ作シ者ハ扑ル、事モ少カラシ多ク予ラル、者ハ多ク求ラルベシ多ク托レバ之ヨリ多ク求ベシ。路加傳十二章四十七八節。イエス彼等ニ曰

ケルハ爾曹モシ警ナラバ罪ナカルベシ然ト今ソレヲ見ト
言シニ因テ爾曹ノ罪ハ存レリ。約翰傳九章四十一節。我モシ
來テ語ザリシナラバ彼等罪ナカラシ然ト今ハ其罪イヒヒ
ラク可ヤウナシ我モシ他ノ人ノ行ザリシ事ヲ彼等ノ中ニ
行ハザリシナラバ彼等罪ナカラシ然ト我ト吾父トチ己ニ
見カツ之ヲ惡メリ。約翰傳十五章廿二節廿四節。ソレ人ノ見
ユトチ得ザル神ノ永能ト其神性トハ造ラレタル物ニヨリ
創世ヨリ以來サトリ得テ明カニ見ベシ是故ニ人々推諉ベ
キヤウナシ既ニ神ヲ知テ尙ユレチ神ト崇メズ亦謝スルユ
トチセズ反テ其思ヲ亂シ其愚ナル心蒙昧ナレリ。羅馬書一
章廿廿一節。凡テ此等ヲ行フ者ハ死罪ニ當ルベキ神ノ判定
ヲ知テナホ自ラ行フノミナラズ亦ユレチ行フ者ヲモ喜ベ
リ。全三十二節。是故ニ律法ノ行ニ由テ神ノ前ニ義ト爲ルモ

ノ一人ダニ有ユトナシ蓋律法ニ由テ罪ハ知ル也。全三章廿節。ソハ怒ヲ來スルモノハ律法ナリ律法ナクバ犯スコトモ有ナシ。全四章十五節。律法ヲ立ラレシ時ヨリ前ニ罪ハ世ニ有キ律法ナクバ罪ハ人ニ歸スルコトナシ。全五章十三節。凡ソ律法ナクシテ罪ヲ犯セル人ハ律法ナクシテ亡ビ律法アリテ罪ヲ犯セル人ハ律法ニ照テ審判ヲ受ベシ神ノ前ニ義ト爲ル、ハ律法ヲキク者ニ非ズ義ト爲ル、ハ律法ヲ守ル者ナリソレ律法ナキノ異邦人モシ本性ノマ、律法ニ載タル所ヲ守ラバ律法ナシト雖モ己ノ律法タル也彼等ソノ心ニ銘サレタル律法ノ工ヲ表彰シ其良心ユレガ証ヲナシテ其思念ヲガヒニ或ハ貶アルヒハ褒ルコトヲ爲リソレ審判ハ我が福音ニ云ル如ク神イエスキリストヲモテ人ノ隱微タル事ヲ鞠カン日ニ成ベシ。全二章十二節以下十六節ソレ

昔ハ謗讟タルモノ窘迫タルモノ狎侮タル者ナリシガ我信セザルトキ知ズシテ之ヲ行ヘル故ニナホ矜恤ヲ受タリ。提摩太前書一章十三節。人善ヲ行フ事ヲ知テ之ヲ行ハザルハ罪ナリ。雅各書四章十七節

第三項 人間ノ罪ノ實際ナルコト

第一條 罪ハ人間ノ有様ナリ
 日本ノ説話ニ曰ク帶刀スルキハ自然之ヲ拔カント欲スルノ念ヲ生ヅトソレ斯ノ如ク兎角人間ハ惡ヲ爲スコトニ赴キ易キモノナリ

證據

一 目 經驗上ヨリスルモノ人皆自ラ其傾向アリト心ニ感ゼザルモノナシ
 二 目 人間社會ヲ觀察シ來レバ罪惡ヲ防グ法方ノ夥多ナル

チ知ルベシ即チ刑法刑罰々金ノ如キ或ハ戸締チ爲スガ如シ
而シテ尙ホ常ニ不充分ナルヲ告グルニアラズヤ其レ如斯ハ
如何ナル時代如何ナル人種如何ナル邦土如何ナル文明國ト
雖モ同様ナリトス又諸種ノ宗教ノ訓誡禮式挽回ノ供物等ハ
一般人類ノ罪ヲ証明スルニ足ルモノアリトス

三日 聖書ヨリ舉証ス

創世記六章十一二節。同八章廿一節。詩篇十四篇一二三節。傳
道書八章十一節。耶利米書十七章九節。米迦書七章二三四節。
約翰傳三章三節以下五節。羅馬書三章十節以下二十節。同五
章十二節。以弗所書二章一節以下五節

第二條 此傾向ハ人間一般生レナガラニ有スルモノト見ヘ
タリ

一目 此傾向ハ生レナガラニシテ然リト知ラル、徴候アリ

即チ人類チ一貫シテ普通ナリ而カモ夙ニ之ヲ現スモノニテ
誕生後性質ガ變化スル爲メニ生ズルガ如キニアラズ自然的
ニ起リ來リテ防グニ術ナク又必然起ルベキモノト豫メ知ラ
ル、ナリ

二目 聖書ヨリ舉証ス

創世記五章三節。詩篇五十一篇五節。約翰傳三章六節。同八章
四十四節。羅馬書五章十二節以下十四節。哥林多前書十五章
廿一二節。以弗所書二章三節ヲ見ルベシ

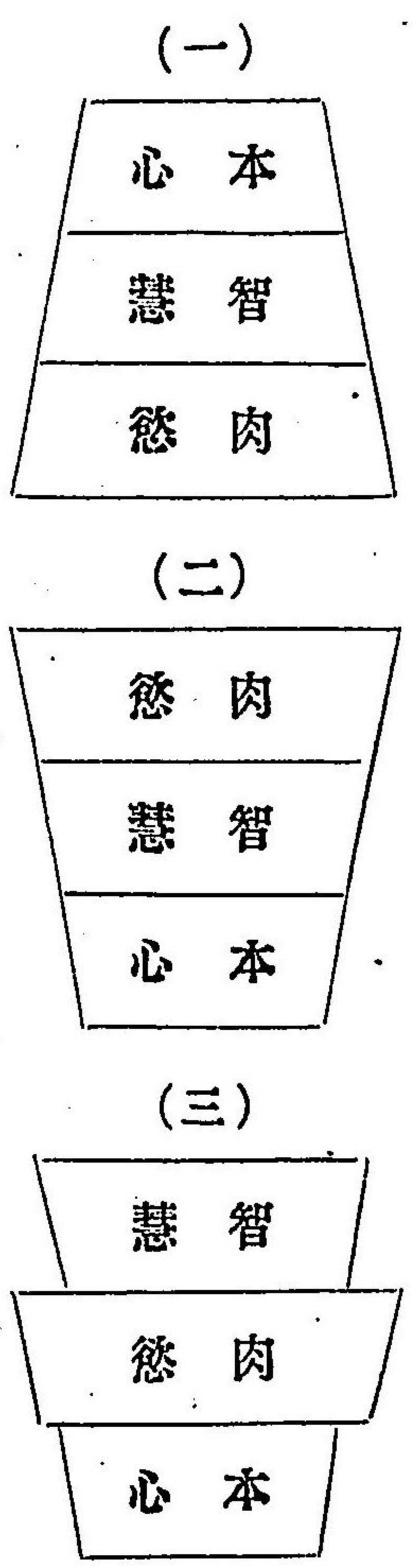
第一問 此傾向ハ罪ナルカ

答 此傾向ハ罪ニアラズト雖モ之ニ負ルニ至テハ罪ナリトス
故ニ此傾向ハ唯ダ犯罪ノ機會タルノミ

第二問 迷フタル人間ノ性ハ全ク惡ナルカ

答 否全ク惡ナルニアラズ隨テ人間ハ全ク惡ナリト謂フベキ

ニアラズ美ナル人情々愛及ヒ本心ハ其一般ニ有スル所ナリ
 馬可傳十章十七節以下二十二節ヲ見ル可シ但シ兎角私慾ニ
 從フノ癖習アリ嗜好ニ負クルノ傾向アリ而カシテ天下滔々
 ノ人常ニ其本心ノ勸告ニ違背シ智慾或ハ肉慾ノ牽引スル所
 トナリ首タル斯心ハ位ヲ貶セラレテ殆ンド蒙塵ノ有様ヲ呈
 シ迷フタル人間ノ常トシテ神ヨリ離レタル生涯ニ處スルモ
 ノナリ



此圖スル所ニ付テ云ヘバ第一ハ當然ノ分ヲ守リテ迷ハザル

人間ヲ示セリ斯ル人ハ肉慾ハ智慧ノ下ニ服從シ而シテ本心
 ハ此等二者ノ上ニ立テ之ヲ照シ之ヲ導キ又支配スルモノタ
 リ、第二圖ハ迷フタル人間ヲ示セリ斯ル人ハ肉慾首位ヲ占メ
 テ智慧ニ逆ヒ又本心ハ降カレテ下層トナルナリ、第三圖ハ學
 問ヲ貴重スト雖モ本心ヲ我ガ首位ニ置カザル者ナリ斯ク一
 旦迷フタル人間ヲ救ヒ如何ニシテ原ノ有様ニ立還ラシム可
 キカトノ問題ホト實地肝要ナルハ有ルコトナシ之ヲ行フニ
 即チ本心ヲ我首位ニ置キ又神ト一致シテ其聖旨ニ歡デ服
 從スルニアルナリ

第四項 罪ヲ犯ス傾向ノ原因

此傾向ハ幾分カ始祖ノ罪ニ係ハルト雖モ果シテ如何ナル關
 係ヲ有スルカ聖書之ヲ明記セズ

創世記五章三節。同八章二十一節。路加傳一章三十五節。約翰

傳三章六節。羅馬書五章十二節以下十五節。哥林多前書七

十四節。以弗所書二章三節ヲ見ルベシ

此問題ニ付テハ大ナル論議起リ諸說尙ホ今日ニ及ベリ

第一說人間ハ皆アダムニ於テ罪ヲ犯セシトノコト此說中更

ニ種々ノ細說アリ例ヘバ人間ハ皆アダムノ中ニ於テ知ラズ

シテ其罪ヲ犯セシナリト右ノ論者ハ希伯來書七章九十兩節

(マタ十分ノ一ヲ受ル所ノレビモアブラハムニヨリテ十分ノ

一ヲ輸タリト言ベシ蓋タルキセデゾガ彼ニ遇ルトキレビモ

其父ノ腰ニ在バナリ)ヲ引來リテ論証スルナリ而シ此所ニレ

ビハ先祖アブラハムノ腰ニ在テ十分ノ一ヲ輸シト云ハズ譬

テ言ヘバ左様ニナセシトノ意味ニ見ルチ可トス又曰クアダ

ムハ吾人ノ代人タル場合ニ於テ罪ヲ犯セシナレバ神ハ其罪

ヲ吾人ニ負セシムルコトハ當然ナリト以上第一說ハ全ク前

述セル所ノ罪ノ定義ニ違背セリ吾人ハアダムニ於テモアダ

ムニ由リテモ罪ヲ犯スル能ハズ又神ハアダムノ罪ヲ吾人ニ

負セシムベキ筈ナシ以西結書拾八章二十節ヲ見ユ

第二說此傾向ハ遺傳法ニヨリアダムノ罪ノ結果ナリト是普

通ノ說ニテ此癖習ハアダムノ時ヨリ先祖代々傳來シタルモ

ノナリト云ヘリ然レドモ亦非難ノ点ナキ能ハズ何ントナレ

バ人間ノ一方ニノミ對スレバ此說甚ダ力アリテ幾分カ真理

ニ近シト雖モ必竟狹隘ノ見チ免レズ元來說ノ當否ヲ知ラン

ト欲セバ其果シテ凡テノ事實ニ適應スルヤ否ヲ考察スベシ

而シテ若シ能ク矛盾スル所ナクバ即チ正確ノ說ナリトス然

ルニ第二說ハ天使初罪ノ原因ニ當ラズ況ンヤ他ニ此罪ノ事

變事實ニ應フ所說ノアルニ於テオヤ

第三說罪ノ危キハ始祖ニ幾分ノ關係ヲ有スト雖モ宇宙間各

々ノ迷ヒニ付テハ彼是同一ノ原因ハアラザル歟ソハ即チ自由ナルモノ、性質ノ然ラシムル所ニハアラザルカ氣儘氣隨ノ生活ヲ希フ心ハアラザルカ而シテ其傾向ハ唯ダ善キ動機ト教訓トニ由ラザレバ防グユト能ハザルナリ始ノ天使モ始ノ人間モ其自由性ノ爲ニ犯罪ノ始末ニ至レリト謂ハザル可カラズ小兒モ一般ニ罪ヲ犯スユトハ幾分カ此理由ニ因ラズンバアラズ但シ小兒ハ聖ナル祖先ヨリ生來ラズ完全ノモノ中ニ成育セズ皆迷易キ境遇ニ居ルヲ以テ自身モ極テ迷易シト雖モ縱令小兒ハ聖ナル親ヨリ生レ且ツ聖ナルモノ、中ニ成育ストモ必ズシモ皆ナ迷フユトナク聖ナル者トナルヤ否ヤハ未ダ容易ニ斷言スベキニアラズ若シ小兒ハ幸ニ斯ル好境遇ニ生レ育テラル、チ得ルトセバ大方ハ大抵氣儘氣隨ノ癖習ニ負ケズ迷フユトナキ者トナルヤモ計ラズ又モシ

徳性ヲ有スル者ガ目今更ニ神ノ聖訓ニ創造セララル、トセバ其者ハ直ニ罪ノ景況及ビ慘怛ナル結果ヲ見聞スル事ニ由リテ遂ニ一タビモ罪ニ負ケズ聖ナル者トナル可シ善良ナル信徒ノ子女モ幼時ヨリ両親ノ祐導ト教訓トチ受ケ又聖靈ニ祐導セラレテ夙ニ基督ヲ信シ正道ヲ行フ者トナルナリ故ニ第二説ニ加フルニ本説ヲ以テセバ始テ正當ノ定説ヲ得タリト信認セラレ、ナリ左スレバ始メノ天使中或部分ハ己ノ自由性ヲ濫用シテ自儘勝手ヲ行ント欲スル心ヨリ犯罪ニ至リ吾人ノ始祖アダムエバモ同一ニ其自由性ヲ濫用シ又惡靈ノ導ク所トナリテ犯罪セルナリ今日ノ小兒モ亦趣チ等フシ自由性ヲ善カラヌ方ニ用キテ氣儘ヲ慕フ心ヨリ又惡キ導者ニ誘ル、ヨリ祖先遺傳ノ傾向ヨリシテ罪ヲ犯スニ至ルナリ小兒ノ靈魂ハ如何ニシテ造ラル、カ

答之ニツキテ三説アリ左ノ如シ

一此靈魂ハ皆前ノ世界ニ存在セシナリ (Preexistence)

二神ハ各々ノ小兒ノ生ル、ト同時ニ靈魂ヲ造リ之ヲ附與セリ (Cretonism)

三父母ハ肉体ヲモ靈魂ヲモ合セテ生ムモノナリ (Traducianism)

以上ノ諸説ヲ批評セシニ第一説ニ就テハ聖書中ニ更ニ証據スル所ナク又人間一般ノ有様ニ就テ調査スルニ人ノ子女タル者ソノ性質智慧人情等甚ダ父母ニ類似スルモノナリ又第二説ニ就テモ聖書中神ハ彼ノ如ク父母ニ由ラズシテ靈魂ヲ造リ其肉体ニ附與スルノ証據ヲ發見スル能ハズ且ツ親子性質ノ親密ナル關係ノ如キハ此所説ニ違背セリ又第三説ニ就テモ若シ神ノ助力ニ由ルユトナク肉体モ靈魂ヲモ專ラ父母ノ生ムモノトセバ大ナル誤謬ナリ苟モ神ノ扶助アルナケレ

バ父母ハ決シテ子女ノ身体スラ生ムコト能ハズ況シテ此高尚ナル靈魂ヲ生ムコトヲ得ベケンヤ故ニ第三説ニ第二説ヲ加ヘ之ヲ合シテ考フルニ始テ眞説ヲ得タリト謂フ可シ人ノ父母ハ實ニ神ノ器トシテ子女ヲ擧グルニ過ギズ即チ其体モ靈魂モ共ニ神ニヨリ成立トユロノモノナリ

第五項 罪ト神トノ關係

聖書ヲ調査スルトモ此問題ニ付テハ僅ニ其一班ヲ窺フニ過ギザレバ之ニツキ彼是論ズルコトハ想像的ノ論法ナリ神ノ徳性ヲ見レバ彼ハ決シテ罪ノ本原ニアラズ而カシ神ハ強テ罪ヲ防グコトヲ爲サズト見ヘタリ
第一説ニ曰ク神ハ靈体物ノ教育ノ爲ニ罪ノ存在ヲ許容スト若シ本説ニ從ヘバ犯罪者ハ遂ニ悉ク悔改メテ救ヲ完フスト信ズルナリ又罪ナルモノハ教育上是非トモ缺グベカラザル

必要ノ機械トスルコトナルガ是ハ全ク基督ノ教旨ニ違背セ
 ルヲ以テ正當ノ説ト謂フ可カラズ本説ヲ主張スルモノハ概
 シテ皆聖書ヲ神ノ真理ト信セザルノ輩ナリ
 第二説ニ曰ク神ハ罪ヲ防グ能力ナシト此説又分レテ二トナ
 ル一ハ如何ナル世界ニ於テモ善惡ヲ辨識スルモノ、中ニ罪
 ヲ防グ能力ヲ有セズト云ヒ一ハ神ハ今日ノ世界ニ於テ自由
 性及ビ徳性ヲ有スルモノ、中ニ罪ヲ防グノ能力ナシト云フ
 然レトモ神ノ完全ナル能力ニ於テ斯ク能ト云ヒ不能ト云フ
 制限ノアル可キ筈ナシ是本説ノ非難ヲ避クル能ハザル点ナ
 リトス
 第三説ニ曰ク神ハ罪ヲ防グノ能力ヲ有スト雖モ尙ホ之ヲ防
 ガザルハ其防ガザルヲ以テ凡テノ者ノ裨益トナルニ由リ敢
 テ之ヲ行ハザルナリト凡テ爲シ能フ事ハ必ズシモ爲ス可キ

モノニアラズ例ヘバ我同志社ノ中常ニ此問題ニ遭遇スルニ
 アラズヤ生徒ハ幾分カ校則ヲ犯スコトヲ爲セリ同志社ハ嚴
 重ニ之ヲ遵奉セシムルノ權威アリト雖モ或点ニ付テ權威ヲ
 用キザルハ利益ナリト思ハル、コトアリ先ヅ緩嚴孰ノ所置
 ガ果シテ全校ノ利トナリ又不利トナルカヲ計考スルトキハ
 或点ニ於テハ權威ヲ以テ遵奉セシムルガ益トナリ或点ニ於
 テハ幾分ノ犯則アルモ追ヲザルヲ以テ却テ益ナリト思ハル
 ルコトアリ
 第一問罪ハ一般ノ靈体物ノ益トナル可キモノナリヤ
 答然ラズ而カシ罪ヲ防ガザルコトハ凡テノモノ、益トナル
 ナリ
 第二問神ハ清潔ナルコトヨリモ罪ヲ好マル、カ
 答然ラズ神ハ罪ヲ嫌惡スルコト最モ劇シト雖モ強テ罪ヲ防

ギ之ヲ除去スルヨリモ寧ロ神ハ此罪ノ存在セル宇宙ヲ好シトセラル、ナリ

第三問神ノ樂ハ罪ノ爲メニ減少ス可キカ

答然リ左ノトモ神及ビ一般ノモノ、樂ハ罪ヲ防ガヌコトニ由リテ却テ多キヲ致スベシ故ニ罪ヲ許スコトハ強テ防グニ勝ルモノナリ

第四問罪ヲ防グヨリモ防ガザルヲ以テ何故益トナスカ

答固ヨリ確手タルコトヲ知ルニ由リシト雖モ神ノ斯ク爲ス所以ヲ見レバ其益タルコト明白ナリ神ニハ罪ヲ防グノ能力アリ罪ナキ宇宙ヲ造ル能力アリ又今日ノ宇宙ニ於テモ罪ノ侵入セザル可ク爲スノ能力ヲモ有スルナラシカシ神モシ斯ク爲ストキニハ一般ノ靈体物ノ樂ニ減少ヲ來スノ患ハ無キカ蓋ハ大方罪ヲ犯ス能力即チ罪ヲ犯シ能フ性質ハ靈体物

ノ最モ高尚ニシテ切要ナル能力ナレバ若シ之ヲ除絶シ或ハ稀少ニスレバ爲ニ人間ノ快樂ハ甚ダ僅々トナル可シ元來自由ノ能力ヲ有スル者ニアラザルヨリハ快樂ヲ得ルコト能ハザルナリ爰ニ一例ヲ設テ言ヘバ吾儕金物ノ商店ニ就テ一小刀ヲ購求セントスルニ數十種陳列セル刃物中唯ダ一個ノミ我心ニ適フ所ノモノ在リ然ルニ惜ム可キハ之ニ一点ノ銹ヲ印セリ斯ル場合ニハ如何ニナスベキヤ他ノ心ニ滿タザル物ヲ以テ之ニ換フルカ或ハ一点ノ銹ヲ忍ンデ之ヲ購フベキカ而シ或人問テ曰ク若シ刃物師ナラバ何故己ノ心ノ必要ニ應ジ相當更ニ遺憾ナキモノヲ造ラザルヤト左ノトモ若シ最上等ノ鋼鐵ハ兎角銹ヲ生シ易キモノニテアラバ如何之ヲ措テ第二三性ニ屬スル鋼鐵ヲ採用シテ刀刃ト爲スベキカ或ハ銹ノ生ヅル危險アルモ寧ロ最上等ヲ以テ造ルベキカ神ノ靈体

物ヲ創造スルヤ二等以下ニ屬スル物ヲ好マズ最上等ノ靈體
 物即チ自由性モ徳性モ共ニ完全ナルモノヲ嘉シ其性質ヲ採
 用シテ之ヲ造リタルナリ其レ如斯徳性及ビ自由性ヲ附與シ
 テ造ルニ於テハ此中幾分カ罪ヲ鑄ノ生ヲ來ルコトハ知リ
 ツ、之ヲ撰擇シタルナリ
 第五問神ハ惡ヲ造リタルカ
 答是ハ道理ノ許カサル所ナリ完全ノ聖者が惡ヲ造ルベキ謂
 レナシ又惡ヲフモノハ名詞ニアラズ形容詞ナリ受造物ノ働
 チ除キ他ニ廣キ宇宙間ニ脅テ惡テウ分子ノ存在ナク又善テ
 フモノモ在ルコト無シ故ニ靈體物其モノ、働ヲ除キテハ善
 惡共ニ存在ス可キモノニアラザルナリ又諸惡ノ名稱ヲ查ブ
 ルモ同様ナリトス例ヘバ姦淫凶殺盜竊貪婪詐欺傲慢怨恨嫉
 妬忿怒等ノ如シ苟モ其働ヲ除テ一トシテ存在スルモノナシ

故ニモシ其働終リナバ此等ノモノハ盡ク失セテ唯ダ過去ニ
 屬スル名稱タルニ過ギズ聖書ノ言フ所亦斯ノ如シ
 馬太傳十五章十九節馬可傳七章廿一節以下廿三節ヲ見ル
 可シ
 神ハ決シテ惡ヲ爲サズ又惡キコトヲ爲サシメント靈體物ヲ
 扶助セザルナリ
 神又夢ニ之ニ言タマヒケルハ然リ我汝ガ全キ心ヲモテ之
 ナナセルヲ知リタレバ我モ汝ヲ阻メテ罪ヲ我ニ犯サシメ
 ガリキ彼ニ觸ルヲ容ザリシハ是ガタメナリ。創世記二十章
 六節。神夜ノ夢ニスリア人ヲバシニ臨ミテ汝慎ミテ善モ惡
 モヤコブニ道ナカレト之ニ告タマヘリ。同三十一章廿四節。
 ルベシマタ彼ヲニイヒケルハ血ヲナガスナカレト之ヲ曠野
 ノ此阱ニ投イレテ手ヲユレニツクルナカレト是ハ之ヲ彼

等ノ手ヨリスクヒイダシテ父ニ歸ントテナリキ。同三十七章廿二節。ダビデアピカルニイフ今日汝チツカハシテ我チムカヘシメタマフイスラエルノ神エホバハ頌美ベキカナマタ汝ノ智慧ハホムベキカナ又汝ハホムベキカナ汝今日ワガキタリテ血チナガシ自ラ仇チムクユルチ止メタリワガ汝チ害スルチ阻メタマヒシイスラエルノ神エホバハ生ク誠トニモシ汝イソギテ我チ來リ迎ズバ必ズ翌朝マデニナバルノ所ニヒトリノ男モノユラザリシナラント。撒母耳前書廿五章三十二節以下三十四節。汝ハ目清クシテ肯テ惡チ觀タマハザル者肯テ不義チ視タマハザル者ナルニ何ユエ邪曲ノ者チ觀ステ置タマフヤ惡キ者ノ己ニマカリテ義キ者チ吞嚙フニ何ユエ汝默シ居タマフヤ。哈巴谷書一章十三節。誘ル、者ハ神ワレチ惡ニ誘フト言ナカレ神ハ惡ニ誘

レズ亦人チモ惡ニ誘ヒ給ハズ人惡ニ誘ル、ハ己ノ慾ニ引レテ誘ハル、也。雅各書一章十三四節然ト上ヨリノ智慧ハ第一ニ潔ク次ニ平和寛容柔順カツ矜恤ト善果ミチ人チ偏視ズマタ偽ナキモノ也。全三章十七節。神ハ光ナリ少ノ暗處ナシ此ハ我儕彼ヨリ聞テ亦ナシガヲニ傳ル告ナリ。約翰第一書一章五節。凡ソ世ニ在モノ即チ肉體ノ慾眼目ノ慾マタ勢ヨリ起ル驕傲ユレヲハ皆父ヨリ出ルニ非ズ世ヨリ出ルモノ也。全二章十六節

以賽亞書四十五章七節ニ曰クワレハ光チツクリ又クラキチ創造スワレハ平和チツクリマタ禍害チサウザウス我ハエホバナリ我スベテユレヲノ事チナスナリト此禍害ハ形体上ノ禍害チ指セルナリ左ノ引照ト比ブ可シ

以賽亞書三十一節二節。耶利米書十八節八節。全二十四章二

三節。同廿七章十四節

神ハ前述スル如ク惡ヲ許シ前以テ其惡業ヲ知り之ヲ己ノ企
 圖中ニ含有スト雖モ肯テ之ヲ行ハシメント扶助ヲモ祐導ヲ
 モ與フルユトチセザルナリ但シ此等ノ惡業ハ遂ニ悉ク己ノ
 榮光トナリ多ノモノ、裨益トナラシムベク護ラル、ナリ
 實ニ人ノイカリハ汝ヲホムベシ怒ノアマリハ汝オノレノ
 帶トシタマハソ。詩篇七十六篇十節。イエス答ケルハ此人ノ
 罪ニ非ズ亦ソノ二親ノ罪ニモ非ズ彼ニ由テ神ノ作爲ノ顯
 レンタメ也。約翰傳九章三節。イエスコレヲ聞テ曰ケルハ此
 ハ死ル病ニ非ズ神ノ榮ノ爲ナリ神ノ子ヲシテ之ニ因テ榮
 ヲ得シタメソガ爲ナリ。同十一章四節。此人ハ即チ神ノ定シ旨
 ト預メ知タマフ所ニ應テ解サル爾等ハ無法ノ手ヲモテ之
 ヲ捕ヘ十字架ニ釘テ殺セリ。使徒行傳二章廿三節ソレ誠ニ

ヘロデトポンテチピラト異邦人オヨビイスラエルノ民相
 共ニ此城ニ集リ爾ガ膏ヲ沃タル聖僕イエスニ逆ヘリコレ
 爾ノ手ナソガノ旨ニテ預シメ定メ給ヒン事ヲ彼等ハ成ル
 ナリ。同四章二十七八節。聖書ノ中ニ神バロニ我ナソガチ立
 ルハ特ニ爾ヲモテ我ガ權能ヲ顯シ又ワガ名ヲ偏ク世界ニ
 傳ンガ爲ナリト示シ給ヘリ。羅馬書九章十七節

吾人モシ神ヲ信シ其恩惠ヲ得バ如何ナル誘惑如何ナル艱難
 辛苦ニ遭遇スルトモ却テ其事ハ神ノ榮トナリ自己ノ益トナ
 ルニ至ルベシ

汝記念ベシ汝ノ神エホバユノ四十年ノ間汝ヲシテ曠野ノ
 路ニ歩マシメタマヘリ是汝ヲ苦シメテ汝ヲ試驗ニ汝ノ心
 ノ如何ナルカ汝ガソノ誠命ヲ守ルヤ否ヤチ知ソタナリ
 キ。申命記八章二節汝ヲノ中ニ預言者アルヒハ夢者興リテ

徴證ト奇蹟ヲ汝ニ見シ汝ニ告テ我ヲハ今ヨリ汝ト我トガ
 是マデ識ラザリシ他ノ神々ニ從ガヒテ之ニ事ヘント言ユ
 トアラソニソノ徴証マダハ奇蹟ユレガ言エトク成トモ汝
 ソノ預言者マダハ夢者ノ言ニ聽シタガフ勿レ其ハ汝等ノ
 神エホバ汝ヲガ心ヲ尽シ精神ヲ盡シテ汝ヲノ神エホバチ
 愛スルヤ否ヤヲ知ントテ斯ナソダラチ試ミタマフナレバ
 ナリ。同十三章一二三節。困苦ニアヒタリシハ我ニユキユト
 ナリ此ニユリテ我ナソダノ律法チマナヒ得タリ。詩篇百十
 九篇七十一節。第ユレ耳ナラズ忠難ニモ欣喜チナセリ。蓋忠
 難ハ忍耐チ生シ忍耐ハ練達チ生シ練達ハ希望チ生シ希望
 ハ羞チ來ラセザルチ知ユハ我儕ニ賜フ所ノ聖靈ニ由テ神
 ノ愛ソレヲノ心ニ灌漑バナリ。羅馬書五章三四五節。マダ凡
 ノ事ハ神ノ旨ニ依テ召レタル神チ愛スル者ノ爲ニ悉ク動

キテ益チナスチ我儕ハ知リ。同八章廿八節爾曹ガ遇シ試惑
 ハ人ノ常ナラザルチ神ハ信ナリ爾曹チ耐忍ブユト能ザ
 ル試惑ニ遇セシ爾曹ガ其試惑チ耐忍ユトチ得ソ爲ニ其ニ
 ソヘテ逃ルベキ途チ備ヘ給フベシ。哥林多前書十章十三節
 凡ノ懲治今ハ悦バシカラズ反テ悲ト意ハル然ト後ユレニ
 由テ鍛鍊スル者ニハ義ノ平康ナル果チ結バセリ。希伯來書
 十二章十一節。ワガ兄弟ユ若ナソダラ各様ノ試誘ニ遇バ之
 チ喜ブベキ事トスベシ蓋ナソダラノ受ル信仰ノ試ミハ爾
 曹チシテ忍耐チ生ゼシムルト知バナリ。雅各書一章二三節。
 忍テ試誘チ受ル者ハ福ナリ蓋ユ、ロミチ經テ善トセラル
 、時ハ生命ノ冕チ受ベケレバ也ユノ冕ハ主己チ愛スル者
 ニ約束シ給ヒシ所ノモノ也。同章十二節

罪之說畢

救拯

人間ノ救拯之ヲ分テニツト爲ス、一ハ客觀的ニシテ基督ノ勳功、即人間ノ罪ヲ贖ヒ給ヒシニ因リ。他ハ主觀的ニシテ聖靈ノ感動、即人間ノ靈魂ノ再生スルニ因ル。今先ツ客觀的救拯ニ就テ研究スル所アラソ、

第一綱 基督ノ性質ヲ論ズ、

第一條 基督ハ完キ人間ナリ、

一目 其肉体上ヨリ云へハ基督ハ實ニ全ク人間ナリ、即其母ガ奇跡ニ由テ懷胎セシト云フ一点ノ外ハ、彼ハ通常ノ人間ト一般、生レテ嬰兒ナリキ、而シテ身体強健、精神活潑ニ漸チ逐フテ成長シ給ヒタリ(太一〇五六及二一五、路一〇三十一及三十五)又彼ハ人間ノ如ク飢へモ、渴キモシ給ヒ(太四〇三、全廿一〇廿八)人間ノ如ク疲勞

モシ、睡眠ヲモ要セラレ(太八〇二十四、可)而シテ其疲レタル時ニ、
 天使ヨリノ助ヲ受ケラレタリ(太四〇四十一、路
廿二〇四十三)
 二目 基督ノ心意ヲ查ブルニ其智慧ニ於テモ、感情意志ニ於
 テモ、又其本心ニ於テモ、凡テ其心意ノ所現發作ハ通常ノ人間
 ト敢テ異ルコトナク、又其心意ハ其肉体ヲ以テ自家ノ器械ト
 爲シテ之レヲ運用シタルユトモ亦相同シ(太廿六〇三十八、路十九〇
四十一、路二十二〇四十四
約十〇廿五、全十一〇卅三、卅五、約十
二〇二十七、羅八〇三、來二〇十六)又路廿三〇四十六ヲ見ルニ彼ハ人
 間ノ如ク「父ヨ我靈ヲ爾ノ手ニ託ク」ト呼ハリテ息絶ヘタリ。又
 彼ハ時ニ、或ハ婦人ノ裔、或ハアブラハムノ裔、ダビデノ裔ト稱
 ヘラル。(創三〇十五、廿二〇十八、廿六〇四、廿八〇十四、約七〇四
十二、使十三〇廿三、羅一〇三、加三〇十六、提后二〇八)彼ハ自己ニ就テ
 自ラ人ノ子ト曰ヘルユト八十回ニ及ベリ。尙且ツ(可六〇三、約一〇
使二〇廿二、十七〇卅一、哥前十五〇四十
七、加四〇四、提前二〇五、約壹四〇二)等ヲ參照セバ彼ガ完キ人間ナリ
 シコト益明ナルニ至ルベシ、

以上ノ如クナレバ基督ハ聖ニシテ純、全ク無罪ナリシユトノ
 外ハ通常ノ人間ト毫モ異ル所ナシト云フ可シ(使三〇二十二、腓二
五、七〇)然レモ亦人間ヲ遠ク超絶シタル所アリ即チ

第二條 基督ハ完キ神ナリ

基督ノ神タルコトハ其教ノ基礎ニシテ又根源ナリ、基督ガ嘗
 テ詔ヒシ如ク教會ハ實ニ此磐ノ上ニ建ツベカリシナリ、(太十
六〇十八)然リト雖モ今日ハ是レ異端奇說ヲ銜フノ時ニシテ
 人々自カラ其好ム所ヲ述ベ、或ハ基督ノ神タルコトヲ証スル
 ノ論ヲ輕視スル者アリ、或ハ之ヲ疑ヒ、或ハ拒者有リ、是ノ故ニ
 余輩ハコレヨリ十分ニ基督ノ神性ニ就テ講究論述セント欲
 スル也。而シテ先ツ基督ノ神性ヲ默示ノ上ヨリ論シ、神ノ化身
 シテ人間ノ中ニ顯現寄寓シ給フコトハ敢テ不可思議ノコト
 ニアラズ、却テ迷フタル人間ヲ憐ミ、之ヲ助ケテ罪惡ノ中ヨリ

救ヒ出サシタマフ、特別ノ方法ヲ採リ給ヒシユト、至仁至愛ノ神
 ニ於テ當ニ有ル可キノ事タルヲ論究セシ、而シテ一千八百餘
 年ノ前ニ猶太國ニ顯ハシタル、カノイエスキリストハ實ニ上
 ニ述ベタル如キ救主ナリシコトニ論及ス可シ。
 神ガ人間ノ他ノ要求ニ應ジテ備ヲ爲セシコトノ事實ハ吾人
 ニ彼ガ罪人トシテ人間ノ求ムル處ニ應ジ備ヲ爲セシコトヲ
 疑ハザラシム此人間ガ罪人トシテ求ムル處ハ人間要求中ノ
 最大ナル者ナリ
 測リ知ル可ラザル人心ノ悲歎ト助ヲ求メテ止マザルノ叫聲
 ト人間種族ガ之ヲ逃レントシテ古來力ヲ盡クシタル處ノ事
 ハ罪ヨリ逃レントシテ力ヲ盡セシ處ノコトニ關シタル者ナ
 リ
 大ナル世界ノ宗教ヲ視ユ人間ノ宗教的本能ハ普遍ニシテ人

間ガ有スル處ノ最強ナル本能タリ吾人ハ人間ガ助ヲ求ムル
 ノ切ナルコトヨリシテマタ創造者ノ惠アル者ナルコトヨリ
 シテ彼ガ人間ヲ助クルノ途ハ即チ此ナリト云フガ如キ斷定
 チ下ス能ハズ然レ共吾人ハ彼ガ或ル方法ニ於テ己チ人ニ顯
 ハシテ人ヲ助クル處アルコト、彼ガ此ヲ行フニ最モ思慮ア
 リ又最モ成效アル方ヲ以テスルコト、ハ之ヲ論シ能フナリ
 若シ彼ノ此世ニ來リ人間ニアラハル、事或ハ彼ノ人間ノ如
 クナルコト人間ヲ助クルニ最モ成效アルノ方ナランニハ吾
 人ハ彼ガ此ノ如ク行フコトヲ疑ハザルナリ
 吾人ハマタ身体ノ不調子ヲ回復スルガ爲ニ醫藥的、外科的治
 療ノ備ヘラレシコトヲ見ルナリ植物界、礦物界ハ吾人ノ身体
 チ治スル處ノ要^ニ因ニ充テリ管ニ之レノミナラズ吾人ノ身体
 其物モ亦損シタルノ骨ハ癒エ疵ヲ蒙ムリタルノ箇處ハ再ヒ

舊ニ復スルガ如キ驚ク可キ再新ノ力ヲ有セリ神ハ心靈ヲ包
 ム處ノ身体ノ爲ニハ治療恢復ノ方ヲ備フルモ心靈其物ノ爲
 ニハ之ヲ備フル處ナキカ
 吾人ハマタ人間ノ困難悲歎ニ在ルヤ互ニ救助シ助力スルコ
 トアルヲ見ル此働ホリス力ヤ人間到ル處ニ存シ時トシテハ己ノ生
 ヲ擲テ人ヲ救フニ至ラシム人ハ神ニ造ラレシ者ナルガ故ニ
 人神ノ如キ性質ヲ有ストハ是道理アルノ言ナリ然ラバ吾人
 ハ神ノ人ヲ救フガ爲ニ爲ス處ハ人ノ全胞ニ對シ爲ス處ヨリ
 モ小ナリト思考シ能フ乎
 吾人ハマタ此ノ如キ救世主ヲ求ムル一般ノ感情ヨリシテ人
 ヲ助ンガ爲ニ神ノアラハルコトヲ論シ得ルナリ此感情ハ凡
 テ世界ノ宗教ニアラハレタリ日本ノ社寺ハ之ヲ証シ各時代
 ニ於ル各邦民ガ罪ノ獻物ハ心ニ抱ク處ノ全一ナル要求ヲ証

スルモノナリ
 吾人ガ更ニ証トスル處ノ者ハ今ヨリ一千九百年ノ前ニ當リ
 テ多クノ國民ガ一般神ナル救世者ノアラハレシヲ待望シ
 シユトナリグリースノソクヲナスハ天ヨリ遣ハカレシ導者
 ノ後世遂ニ出現ス可キヲ預言シタリ救者ヲ待望ミシハ
 西部亞米利加古代「ビニ」ブロス人「ナバ」シユウ人及「ヒ」メキシ
 ヲノ「ア」ステック人中ニ發見セラレタリ吾人ハ爰ニ賢人ノ東ヨ
 リ「ユ」ダヤニ來リ「ユ」ダヤハ猶太人ノ王ト生レタル者ヲ覓メタ
 リトノコト誌サレシヲ見出セリスイイトニスハ羅馬帝ベス
 パシアンノ傳四章ニ書シテ曰ク當今即チキリスト降誕ノ時
 ヲ「ユ」ダヤニ起ル處ノ一人全帝國ヲ得ルニ至ランハ是即チ免ル
 ベカラザル處ナリトノ說東方ノ全地ニ流傳シタリ此說ヤ古
 代風ノ者ナレ共然レ共眞理ナリトセラレシ處ノ說タリトシ

ヌーシフスハ吾人ニ告テキリストノ時ト其直後ニ於テ此希
 望ハユダヤ人中ニ甚ダ熾ナル者トナリ遂ニ人々此處ニ起リ
 彼處ニアラハレ我コソ爾ガ長ク待望ミタル天ヨリ送ラレシ
 處ノ救世主ナレト呼稱シ人民ヲ惑スコトアルニ至リタリト
 云ヘリシヨーシフス氏ユダヤ人ノ古代「卅卷四章十一節全六
 十八章六節ユダヤ人ノ戦争二卷十三章四節五節ヲ看ユ
 ヌダヤ人ノ驚ク可キ歴史ヲ包有スル書ヲ開ケバ吾人ハ一千
 五百年若クハ二千年ノ間神幾回トナク己チ人ニアラハシ而
 シテ彼等ヲ罪ヨリ救ノガ爲ニ神ナル處ノ救世主ヲ送ラヌ
 トノ約束ヲ爲セシト之ガ書中ニ誌カレシヲ發見スルナリ吾
 人ハ其救世主ノ來ル可キ時ト箇處ト方法ト其生涯ト死ノ此
 書ニ於テ預シメ詳細ニ告ラレシヲ發見スルナリ吾人ハ來ラ
 ントスル救世主ノ贖罪ノ大事業ヲ預示スル儀式及獻物ニ付

俊逸ナル教ノ組織ヲ發見スルナリ次ニ吾人ハ新約書及他ノ
 當時ノ書ニ於テ昔時ノ獻物ト犠牲ノ實物タル神ナル處ノ救
 世主來リ彼ニ關スル凡テノ預言ヲ全フセシトノ誌カレシヲ
 發見スルナリ
 吾人ハ彼ノ降誕ヤ尋常ノ者ニ非ズ而シテ彼ガ降誕ノ時神ヲ
 讚美スル處ノ天軍アラハレシコトノ誌カレシヲ發見スルナ
 リ此外マダ誌カレタリ此神ナル處ノ救世主憐レナルガリヲ
 ヤ小村ノ工匠ノ家ニテ輝ヤキワタリシコト、彼三十歳トナル
 ニ及ビ彼ノ周圍ニ十二ノ不學卑賤ナル徒ヲ集メ三年間彼等
 ト語り彼等ト歩ミ多クノ奇跡ヲ行ヒ其弟子ニ世間從來之ア
 ル處ノモノニ優リタル教理ノ組織ヲ興ヘシコト、然ル時彼ハ
 彼ヲ罪ナキ者ト公言シタル處ノ方伯ニヨリテ十字架上汚名
 ノ死ニ遞與サレシコト、彼ガ架上ニ刑セラレテ死セシ時ニ全

地ハ震ヒテ暗黒トナリシユト磐裂ケ殿ノ幔裂ケ恰モ舊約ノ儀式ノ完應セラレシコトノ徴タリシガ如クナリシコト等誌カレタリ

吾人ハ更ニ三日ノ後此神ナル處ノ者死ヨリ甦リ墓ヨリ出來リ彼ヲ信セシ處ノ者ニ幾回トナク現ハレ而シテ四十日ノ後彼等ノ前ニテ天ニ上リシコトノ誌カレシヲ發見スルナリ

吾人ハマダ彼ノ弟子ナル小隊ガ其信仰ト所教トヲ其教祖ノ神タルコトノ上ニ置キマダ彼ガ死ヨリ甦リシ事實ノ上ニ置キ彼ノ昇天後直ニ基督教ヲ説キ基督教ヲ教ヘ始メタルコトヲ發見スルナリ吾人ハ此弟子等ガ己ノ生命ヲ以テ彼等ガ教ユル處ノ眞理ナルヲ印セントシ而シテ彼等ノ多クハ基督教ヲ信スルニヨリテ死ニガカレシコトヲ發見スルナリ吾人ハ此宗教ガ三百年間抵抗ノ間ニ立チテ教ユル處アリシヲ見ル

ナリ幾百万人ノ牢獄ニ投セラレ死ニ邁與カレシモ然レ共三百年ノ後ニハ之ガ羅馬帝國ノ宗教タルニ至リシヲ發見スルナリ而シテ此ヨリ後内ニハ教會ノ腐敗起リ外ニハ歐洲暗黒時代ノ迷信生シテ大ナル妨害ニ遭遇セシト雖ルニソノ改革ニヨリテ遂ニ試査ノ中ヨリ清潔ナル者ト爲リテ出テ來リ今日唯一ノ宗教トシテ世界ニ立チ他ノ宗教ハ悉ク消滅セントスルノ時代ニ於テ全世界ニ播布セントセリ

吾人ハ之ガ高尚ナル教育開化ト消長ヲ共ニスル唯一ノ宗教ナリシヲ認ム吾人ハ之ガ古來野蠻ノ種族ト邦民トヲ平和ナル幸福ノ文明ニ高メタル唯一ノ宗教ナリシヲ認ム世ハ未ダ嘗テ當世紀サンクトウイチニ於テ、フサシニ於テ他ノ幾百ノ嶋嶼ニ於テ、マダカスカルニ於テ、印度ニ於テ、亞弗利加ニ於テ基督教ニヨリテ働カレシガ如キ道德的變革ノ他宗教ニヨリ

テ働カレシキ見ザルナリ
 此ノ如キ教理ノ組織ガ憐レナル無學ノ徒ヨリ若シクハ其ノ
 卑賤ナル弟子ヨリ來リシトハ是レ能フ可キノ事ナルカ果シ
 テ然ラバ吾人ハ其清潔ナルト勢力アルトテ如何ニ説明ス可
 キヤ此ノ如キハ神ノ愛ニ付キ兒子等ヲ教ユル處ユリ助クル
 處アラントシテ神子ノ降世セシヨリモ尙大ナル不思議ニア
 ラズヤ此兒子等ハ罪ニ徬徠シ此ノ如キ救助者ヲ求メタリシ
 ナリ

ポールナル人傑ノ歴史吾人ハ之ヲ如何ニ説明ス可キヤ基督
 教ノ敵ダモ尙彼ガ諸教會ニ送リタル書翰ノ中ノ長キ者ハ眞
 正確實ニシテ而シテ基督ノ死後三十年間内ニ書カレシ者ナ
 ルユトテ許セリ基督ノ神ナルユトテ拒ム處ノモノスヲポー
 ルニ付テハ稱言スル處アリ佛蘭西ノレナン曰クポールハ罕

ナル處ノ材智ヲ有シ其高尚ナル處ノ感念ハ罕ナル幸福ヲ受
 ケシユトテアラハセシ處ノモノナリト。トクトル、チヤンニ
 グ曰クポールノ書翰ハ時ニ不意ナル枝葉ノ議論ト不明瞭ノ
 廉ナキニナラズト雖眞正ナル基督教ヲ世ニアラハス處ノ者
 トシテハ吾人ハ之ヲ以テ努力ヲ盡クシ修正ヲ盡クシタル處
 ノ著述ガ傳々ヘ能フヨリモ尙ホ大ナル者ト思考セザルヲ得
 ズト

コルレノシ曰ク世ニ存ズル處ノ者ニシテ最モ深遠ナルノ著
 作ハ聖徒ポールノ羅馬人ニ送レル書ナル可シト然レ共吾人
 ハポールノ書ヲ讀ニ及ビ彼ガ深ク基督ノ神ナルユトテ信セ
 シヲ知ルナリ彼ハ之ヲ教ヘタリ而シテ此事ヤ基督ノ教ノ基
 礎ナリトス

ポールハ神ニノミ屬スル處ノ稱號、性質及ビ事業ヲ基督ニ歸

與シタリ彼レ基督ニ付キ語リテ曰ク「萬物ノ上ニ在テ世々讚美ヲ得ベキ處ノ神ナル基督來リ給ヘリ」(ローマ書九〇五)「肉体ト爲リテアヲハレシ處ノ神」(テモテ前書三〇十六)「審判ノ日凡ノ者其前ニ立チマタ凡テノ膝其ノ前ニ屈マリ凡テノ舌ハ讚美スル處ノ神」(ローマ書十四〇十、十一、ピリピ書二〇十)「大ナル神且我儕ノ救主」(テトス書二〇十三)「ソレ神ノ充足ル徳ハ悉ク形ヲ爲シテ基督ニスメリ」(コロサイ書二〇九)「神ノ体ニテ居リシカドモ自カラ其神ト匹シクアル處ノ事ヲ棄難キユト、思ハザリシ處ノ者」(ピリピ書二〇六)ト吾人ハ第一世紀ノ基督教徒ガ基督ヲ神トシテ崇拜セシユトノ最モ確實ナル證據ヲ有ス有名ノ學者小プリニ一ハ紀元一百三年ツラシヤン帝ノ朝ニ小亞細亞^{プロクレト}ポントス州ノ知事ニ拜命シタリ彼二年間此職ヲ奉ゼシガ州中基督教徒ノ多數ナルユト、之ヲ

罰スルノ方法ニ至リテ甚ダ惱ミタリ彼帝ニ書ヲ送り書シテ曰ク此州基督教ノ傳甚ダ迅速ニシテ爲ニ異教從來ノ殿堂ハ荒敗ニ至ラントスサレド之ト共ニ書シテ曰ク此等ノ基督教徒ハ共ニ會集シ基督ヲ神トシテ之ニ讚美ノ歌ヲタ、フルノ風ヲ爲シタリトプリニ一氏書翰十章九十七節ヲ見ユ第三世紀^{クリス}グリースノ哲學者ボル^フリ^リハ吾人ニ告テ曰ク基督教徒ハ基督ヲ神トシテ拜シタリト第四世紀ノ始初ニ於テ世ニ名ヲ著ハスニ至リシ教派「エリヤン」ノ徒ハ基督ノ父ナル神ト全等ナルコトヲ拒ミタリ然レ共此教派ノ祖エライオスハ左ノ信仰ケ條ヲ書シタリ曰ク我ハ能ハザル處ナキ神、見ル可ク又見ル可ラザルモノ、造リ主ナル一人ノ神ヲ信ジマタ神ノ道^{ユトク}神ノ神、光ノ光ナル一人ノ主イエス、キリストヲ信ズト第二世紀ノ後半ニ於テ小亞細亞及ヒ埃及ヲ旅行シ盡シタル處ノ哲

學者ルシヤン基督ヲ評シテ曰クパレンスチンニ於テ十字架ニ
 刑セラレシ處ノ大人ナリト
 吾人ナシテ又基督教ニ付テハ懷疑的ナリシ處ノ人モ基督ニ
 付テハ許カ、ルヲ得ザル處アリシユトヲ知ラシメヨ獨逸ニ
 於テハ有名ナル著述家レツシング云ヘルアリ……………此ノ如
 クシテ基督ハ靈魂ノ不滅ニ付最始ノ信ズ可キ、實際ノ教師爲
 リキトシユウエルリングモ亦云リ基督ノ降臨ハ世界歴史ノ決着
 點ポイントナリシト又云ヘリイエス、キリストハ無限無限ナルノ説話デスモリス、活ル道コトバナ
 リト無神哲學者フネー曰ク天上ノ道義ヲ人々ノ心ト家土ニ
 來セシユトニ於テ基督ノ爲セシ處ハ他ノ哲學者ノ爲セシ
 悉テヨリモ大ナリ世ノ終迄凡テ感情ヲ有スル處ノ者ハ此ナ
 ザレノイエスノ前ニ跪ヅキ凡テノ者ハ心ヲ卑クシテ此大現
 像ノ非常ナル光榮ヲ認ルニ至ラン彼ニ從フ者は邦民タル可

シ子孫モテレーシヨシタル可シト

リッテルハイエスヲ呼デ大ナル者ノ最モ潔キ者潔キ者ノ最モ
 大ナル者其ノ釘ウタレタル手ヲ以テ諸帝國ノ地位ヲ高メ、歴
 史ノ水流ヲ其舊渠ヨリ轉セシメ、今尙世ヲ支配シ世ヲ導ク處
 ノ者ナリト云ヘリエエテハ曰ク余ハ福音書ヲ充分正確ノ者
 ト尊信ス何トナレバ此福音書ヨリシテ高尚テフ者ノ反寫ノ
 光彩カヅヤキ渡リ而シテ此ノ者イエスキリストノ人爲ヨリ
 發シ其神性ヲ帶ブルヤ神古來地上ニアラハセシ處ノ者ハ獨
 リ之ナルカト見ユル計リナレバナリ
 スビノザハ近世凡神論ノ父ト呼バル、處ノ者ナリ去レド彼
 基督ニ付テハ左ノ如ク云ヘリ理想ノ基督即チ凡テノ物ニ殊
 ニイエスキリストニアラハレタル神ノ無限ノ智識ヲ知ル此
 一事ハ是必至ナリ基督ハ神ノ智識ノ表號ナリト

佛蘭西ノ哲學者ロウシユ、ソクラテスト基督ヲ比較シテ曰クソクラテス若シ哲學者ノ如クシテ生息シ哲學者ノ如クシテ死シタラバ基督ハ神ノ如クシテ生息シ神ノ如クシテ死シタリト佛蘭西ノ大著述家レナン其身基督教徒ニ非ズト雖曰ヘルアリ「イエズスハ凡テノ事ニ於テ無類ナリ何物モ彼ニ比較スル能ハズ、彼ハ非常ナル見識デメンションノ人、比較ス可ラザル處ノ人、運命ノ上ニ位スル、嘆賞ス可キ處ノ者、即一般ノ人心ガ「神ノ子」ナル稱號ヲ與ヘシ處ノ者ナリ」彼ノ後ニハ發達ト成熟ヲ要スル處ノユト無リキ」彼ハ無限ノ宗教ノ創造者ナリ嗚呼爾ト神ノ間ニハ最早差別ナカル可キナリ」レナンハ基督生涯記ナル書ノ終ニ於テ此ノ如ク云ヘリ假令將來ニ於テ驚ク可キ處ノ事件ハ何タルニモアレイエズスハ決シテ人ノ爲ニ超ユラル、ユトアラザル可シ彼ヲ拜スルユトハ絶エズ生長スルモ、サラバ

トテ老スルユトアラズ彼ノ奇譚ハ人々ノ涙ヲ喚出シテ絶ニル時ナク彼ノ痛苦ハ俊レタル人ノ心ヲ溶カスベク凡テノ世ハ呼ハリテ人ノ子ノ中ニイエズスヨリ大ナル處ノ者生レシユトアラズト云ハント
 ナボレナン曰ク淺薄ナル心ハ基督ト帝國建設者及ヒ他宗教ノ神ナル者ノ間ニ似點アリトヤ思フ可ケン然レ共此似點ハ之アルモノニアラズ我人ヲ知レリ我汝ニ告グイエズスキリストハ人ニ非ズト
 英國懷疑派ノ著者或ハ「ユニテリアン」ノ著者ニ付テハ吾人ハダブリユ、アール、グレッヂヲ引ントス彼基督ニ付云ツテ曰ク余輩ハ彼ヲ以テ智識的或ハ哲學的心意ノ完全シタル者ト思考セズ然レ共父ト交通ノ親密ナルト深キユト、ニ於テハ各時代ノ各人ニ優ル處ノ者トシ靈性的性質ノ完全シタル者ト

思考ス彼ノ言ヲ讀ニ及ビ余輩ハ其思想ヲ卑シキ人間ノ言語ニテ包ミタル、最賢ク、最潔ク、最貴キ處ノ者ト談話スルノ感アリ彼ノ生涯ヲ學ブニ及ビ余輩ハ地上ニ於テ余輩ニアラハレシ處ノ最モ高尙ナル人物ノ迹ヲ追フノ感アリト英國正理派ノ著者フランセス、パワール、ユッビー曰ク此故ニ基督ノ性質ニ付キ最モ適當ト見ユルノ觀察ハ彼ヲ大ナル人間社會ノ再新者ト視做ス者はナリ彼ノ降世ガ人類ノ生命ニ於ルハ恰モ再新ガ各個人ノ生命ニ於ルガ如シ是人間種族ノ歴史ヨリ來ル明々ノ議論ナリトス世ニ變化アリ而シテ其變化ヤ史上其迹ヲ探ケレバ基督ニ歸スト

トマスカルライル曰ク嗚呼ナザレノイエスハ神ノ表號ナルカナ人間ノ思考セシ處ハ彼ノ上ニ出デザリキ彼ハ永久無限ナル性ノ表號ニシテ其意味ヤ毎ニ新ニ研究セラレノコトヲ

求メ而シテ毎ニ新ニナリユク處ノ者ナリトローランドバイロソ曰ク若シ人ニシテ神タリ又神ニシテ人タル者アラバイエスハ即チニツナガラ是ナル處ノ者ナリト歴史家フルド曰ク最モ完全ナル處ノ存在者ニシテ此遊星ノ地ヲ踐ミシ處ノ者ハ悲ノ子ト呼バレタリ基督是ナリト

吾人ハ以下ノ言ヲ録々タル北米合衆國「ユニテリヤン」派ノ神學者ヨリ引來ラントス全國「ユニテリヤン」教ノ父ナル、ドクトルチャニンング曰ク我汝ニ問フイエスノ性ハ史上最モ驚ク可キ者ニシテ人間ノ理ヲ以テ説去ル能ハザル處ノ者ニアラズヤト余彼ヲ攷察スルニ敬虔ノ念ヲ以テス此敬虔ノ念ハ余ガ神ヲ仰ギ瞰ル時ニ生ズル嚴肅ノ念ニ次グ者ナリ彼ガ性ハ眞正ノ性ナリ神ノ愛子ニ屬スル處ノ者ニシテ又神ノ愛子ナルコトヲアラハス處ノ者タリイエスハ造事フィクションニアラズ彼ハ今